

川原湯勝沼遺跡(3)

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第66集

2019

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第658集

川原湯勝沼遺跡(3)

埋蔵文化財発掘調査報告書に伴う
ハッ場ダム建設工事に伴う
第66集

二〇一九

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



川原湯勝沼遺跡（3）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第66集

2019

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



1 川原湯勝沼遺跡調査区全景(上側北西)



2 川原湯勝沼遺跡調査区全景(上側南西)

序

八ッ場ダムは、治水・利水・発電を行う多目的ダムとして計画され、吾妻郡長野原町を中心に工事が進められてきました。八ッ場ダムの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、四半世紀となります。

この八ッ場ダム建設に伴い、水没地区、移転地区では多くの遺跡が発見、調査され、多大な成果を挙げて参りました。その中で水没地区の一角に在る川原湯勝沼遺跡も縄文時代から近世に至る複合遺跡として3次に亘る発掘調査が行われ、本年(令和元年)8・9月にも最後の発掘調査が計画されております。

本書はこの一連の発掘調査のうち、平成28年度の調査成果の中で、中・近世の埋蔵文化財の成果を報告するものであります。川原湯勝沼遺跡では1面においては天明3(1783)年の浅間山の噴火、いわゆる「浅間焼け」に際して発生した泥流により埋没した畑が広く確認され、畑に伴う道や溝、集石遺構も発見、調査しました。また一部地区の2面においては、中・近世の畑や土坑を確認いたしました。平成28年度調査成果のうち、縄文時代から平安時代にかけての遺構、遺物は、後年刊行を予定する発掘調査報告書に掲載する計画であります。このたび中・近世編として本書を上梓するのはこびとなりました。

ここに発掘調査から報告書作成まで、ご指導、ご協力を賜りました国土交通省関東地方整備局、同八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会をはじめ関係各位に衷心より感謝申し上げる次第です。そして、本報告書が地域の歴史を知るうえで広く活用されますことを願い、序とします。

令和元年8月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 中 野 三 智 男

例 言

- 1 本書は、平成28年度に八ッ場ダム建設工事に伴い埋蔵文化財の発掘調査された、川原湯勝沼(かわらゆかつぬま)遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本報告書は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集(平成9年度調査分)、並びに同356集(平成15・16年度調査分)に報告した川原湯勝沼遺跡と同一遺跡であるが、同一遺跡内の別地点の発掘調査報告書である。従って八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書として本遺跡を扱うのは、第3次となるため題名遺跡名称に(3)を付した。
- 3 川原湯勝沼遺跡のうち平成28年度調査地域は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯24・25・26・27-1・27-3・28-1・28-2・29・30に所在する。
- 4 事業主体は国土交通省関東地方整備局である。
- 5 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
- 6 発掘調査の期間と体制は次の通りである。
調査期間 平成28年7月1日～平成28年12月31日
調査担当 調査部調査課 主任調査研究員 黒崎博樹 専門調査役 小野和之
遺跡掘削工事請負：吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体、株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社
委 託 地上測量：株式会社測研
- 7 整理事業の期間と体制は次の通りである。
整理期間 平成30年8月1日～平成30年12月31日
整理担当 資料部資料1課 主任調査研究員 齊田智彦 資料部資料2課 専門調査役 石守 晃
- 8 本書作成の担当者は次の通りである。
編 集 石守 晃
デジタル編集 齊田智彦
遺物観察 土師器・須恵器・陶磁器：大西雅広(専門調査役) 金属製品：板垣泰之(専門員)
遺物写真撮影 大西雅広・板垣泰之・石守 晃
保存処理 板垣泰之・関 邦一(専門調査役)
- 9 発掘調査諸資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 10 発掘調査及び本書作成に当たり諸氏、機関よりご協力、ご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表します。
国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会

凡 例

- 1 川原湯勝沼遺跡の遺構平面図は世界測地系国家座標(座標第Ⅸ系)を用いて測量した。遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北で、真北方向角は $+0^{\circ} 32' 23.10''$ である。
- 2 遺構図の中で使用した北方位は、すべて座標北を示している。
- 3 遺構の方位は、座標北を基準として主軸角度等の傾きを計測した。
- 4 遺構平・断面図の縮尺は、原則として以下を使用した。但し遺構によっては異なる縮率を用いたものもある。
畑(平面) 1/200、(断面) 1/100、平坦面 1/80、集石 1/80、溝(平面) 1/100、(断面) 1/50
道(平面) 1/100、(断面) 1/50、土坑1/40
- 5 遺物図の縮尺は以下の通りである。
土器・陶磁器 1/3、金属製品 1/1
- 6 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。
- 7 本書では必要に応じて、浅間A軽石(As-A)、浅間粕川テフラ(As-Kk)、浅間B軽石(As-B)、浅間C軽石(As-C)、浅間板鼻褐色軽石(As-BP)などの主要テフラを略号のみで表記した。
- 8 土層や土器の色調観察は、原則として農林水産省農林水産技術会議監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を使用した。
- 9 昭和59年度の国土地理院問い合わせに対する指示に基づいて、第1図は国土地理院20万分の1地勢図「長野」、5万分の1地形図「草津」、第6図・第8図は2.5万分の1「長野原」を使用した。

目 次

口絵	6 中世・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
序	7 近世・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
例言	第3章 発見された遺構と遺物	19
凡例	第1節 平成28年度の調査成果概要	19
目次	第2節 1面の調査と発見された遺構と遺物	21
	1 A区1面の遺構と遺物	21
	(1) A区1面の概要	21
	(2) 1号畑	21
	(3) 1号溝	23
	(4) 2号溝	23
	(5) 3号溝	24
	(6) A区の出土遺物	24
	2 B区1面の遺構と遺物	26
	(1) B区1面の概要	26
	(2) 1号畑	27
	(3) 2号畑	28
	(4) 1～3号平坦面	34
	(5) 4号平坦面	35
	(6) B区の出土遺物	36
	3 C・D区1面の遺構と遺物	36
	(1) C・D区1面の概要	36
	(2) 1号畑	36
	(3) 2号畑	39
	(4) 3号畑	43
	(5) 4号畑	49
	(6) 5号畑	50
	(7) 6号畑	52
	(8) 7号畑	53
	(9) 8号畑	53
	(10) 9号畑	56
	(11) 10号畑	58
	(12) 11号畑	59
	(13) 12号畑	61
	(14) 13号畑	61
	(15) 1号畑1・2号平坦面	63
	(16) 2号畑1～5号平坦面	64
第1章 川原湯勝沼遺跡の発掘調査とその経過		1
第1節 発掘調査に至る経過		1
1 ハッ場ダム建設に先立つ文化財の調査		1
(1)ハッ場ダム建設と文化財調査の始まり		1
(2)埋蔵文化財の調査		1
2 川原湯勝沼遺跡の調査に至る経過		1
(1)川原湯勝沼遺跡の第1次の埋蔵文化財調査		1
(2)川原湯勝沼遺跡の第2次の埋蔵文化財調査		1
(3)平成28年度の調査に至る経過		1
第2節 調査経過		5
第3節 調査の方法		7
1 遺跡略号		7
2 地区、グリッドの設定		7
(1)地区・区の設定		7
(2)グリッドの設定		7
(3)調査区の設定		7
3 発掘調査の方法		9
(1)掘削		9
(2)記録		9
4 基本土層		9
第2章 遺跡を廻る環境		11
第1節 地理的・地質的環境		11
1 地理的環境		11
2 地質的環境		11
第2節 歴史的環境		14
1 旧石器時代		14
2 縄文時代		14
3 弥生時代		14
4 古墳時代		14
5 奈良・平安時代		14

(17)	3号畑1～6号平坦面	65
(18)	3号畑7号平坦面	67
(19)	5号畑1号平坦面	67
(20)	8号畑1・2号平坦面	68
(21)	9号畑1～5号平坦面	69
(22)	C区1号集石	71
(23)	C区2・3号集石	71
(24)	D区1号集石	72
(25)	D区2号集石	73
(26)	D区3・4号集石	73
(27)	1号溝	77
(28)	1号道	77
(29)	C・D区の出土遺物	78
第3節	B区2面の調査と発見された遺構	79
1	B区2面の遺構	79
(1)	B区2面の概要	79
(2)	1号畑	79
(3)	土坑群	80
第4章	小結	83
第1節	調査概要	83
(1)	調査区域と調査区	83
(2)	2面の調査	84
(3)	1面の調査	84
第2節	過去の調査遺構との関係	85
(1)	泥流の流れと遺構の依存状態	85
(2)	畑の区画	86
(3)	まとめ	86

挿図目次

第1図	ハッ場ダムと川原湯勝沼遺跡位置図	2	第27図	C区4号畑土層断面	50
第2図	川原湯勝沼遺跡調査区と国家座標	3	第28図	D区5号畑	51
第3図の1	川原湯勝沼遺跡の試掘調査	4	第29図	C区6号畑	52
第3図の2	川原湯勝沼遺跡の試掘調査	5	第30図	D区7・8号畑	54
第4図	川原湯勝沼遺跡グリッド設定図	8	第31図	D区9号畑	57
第5図	基本土層観察位置と土層断面	10	第32図	D区10・11号畑	59
第6図	川原湯勝沼遺跡周辺地質図	12	第33須	D区12・13号畑	62
第7図	天明泥流到達範囲	13	第34図	1号畑1・2号平坦面	63
第8図	川原湯勝沼遺跡周辺遺跡分布図	15	第35図	2号畑1・2号平坦面	64
第9図	A～D区1面全体図	19	第36図	2号畑3～5号平坦面	65
第10図	A～D区2面全体図	20	第37図	3号畑1～6号平坦面	66
第11図	A区1面全体図	21	第38図	5号畑1号平坦面	67
第12図	A区1号畑	22	第39図	8号畑1・2号平坦面	68
第13図	A区1号溝	23	第40図	9号畑1号平坦面	69
第14図	A区2号溝	24	第41図	9号畑2～5号平坦面	70
第15図	A区3号溝	25	第42図	C区1号集石	71
第16図	A区出土遺物	26	第43図	C区2・3号集石	72
第17図	B区1面全体図	26	第44図	D区1・2号集石	73
第18図	B区1・2号畑	29	第45図	D区3・4号集石	74
第19図	B区1～3号平坦面	34	第46図	C区1号溝、D区1号道	75
第20図	B区4号平坦面	35	第47図	C・D区出土遺物	78
第21図	B区出土遺物	36	第48図	B区2面全体図	79
第22図	C・D区1面全体図	37	第49図	B区1号畑	80
第23図	C区1号畑	38	第50図	B区1～3号土坑	81
第24図	C・D区2号畑	41	第51図	B区4～9号土坑	82
第25図	C・D区3号畑	47	第52図	小字と調査区	83
第26図	C区4号畑	49	第53図	平成9・16・28年度1面調査遺構	84

表目次

表1	周辺遺跡一覧	16	表26	C区4号畑サク一覧	50
表2	川原湯勝沼遺跡遺構数量一覧	20	表27	C区4号畑サク間一覧	50
表3	A区1号畑サク一覧	22	表28	D区5号畑サク一覧	51
表4	A区1号畑サク間一覧	22	表29	D区5号畑サク間一覧	51
表5	B区畑一覧	31	表30	C区6号畑サク一覧	52
表6	B区1-A号畑サク一覧	31	表31	C区6号畑サク間一覧	52
表7	B区1-A号畑サク間一覧	31	表32	D区7号畑サク一覧	55
表8	B区1-B号畑サク一覧	31	表33	D区7号畑サク間一覧	55
表9	B区1-B号畑サク間一覧	31	表34	D区8号畑サク一覧	55
表10	B区1-C号畑サク一覧	32	表35	D区8号畑サク間一覧	55
表11	B区1-C号畑サク間一覧	32	表36	D区9号畑サク一覧	57
表12	B区2-A号畑サク一覧	32	表37	D区9号畑サク間一覧	58
表13	B区2-A号畑サク間一覧	32	表38	D区10号畑サク一覧	60
表14	B区2-B号畑サク一覧	33	表39	D区10号畑サク間一覧	60
表15	B区2-B号畑サク間一覧	33	表40	D区11号畑サク一覧	60
表16	B区2-C号畑サク一覧	33	表41	D区11号畑サク間一覧	60
表17	B区2-C号畑サク間一覧	33	表42	D区12号畑サク一覧	62
表18	B区平坦面一覧	35	表43	D区12号畑サク間一覧	62
表19	C・D区畑一覧	38	表44	D区13号畑サク一覧	62
表20	C区1号畑サク一覧	39	表45	D区13号畑サク間一覧	62
表21	C区1号畑サク間一覧	39	表46	C・D区1・2・3・5・8・9号畑平坦面一覧	70
表22	C・D区2号畑サク間一覧	40	表47	C区集石一覧	77
表23	C・D区2号畑サク一覧	41	表48	D区集石一覧	77
表24	C・D区3号畑サク一覧	44	表49	B区土坑一覧	82
表25	C・D区3号畑サク間一覧	44	表50	出土遺物一覧	87

写真目次

PL. 1	1	A区調査区全景	PL. 8	1	C区4・6号畑全景
	2	A区作業風景		2	C区4号畑土層断面
	3	A区作業風景		3	C区4号畑土層断面
	4	A区拡張部全景		4	C区4号畑全景
	5	A区1号溝全景	PL. 9	1	D区7~9号畑全景
PL. 2	1	B区調査区全景		2	D区9号畑南端部
	2	B区畑検出状況		3	D区1号集石土層断面
	3	B区西側畑検出状況		4	D区1号集石全景
	4	B区東側畑検出状況	PL. 10	1	D区10~13号畑全景
	5	B区作業風景		2	D区12・13号畑、東傾斜部全景
PL. 3	1	B区畑土層断面	PL. 11	1	C区1号溝全景
	2	B区1号平坦面土層断面		2	D区1号道土層断面
	3	B区2号平坦面全景		3	D区1号道南端部
	4	B区3号平坦面全景		4	D区1号道全景
	5	B区作業風景		5	D区1号道全景
PL. 4	1	C区調査区全景	PL. 12	1	B区調査区全景
	2	D区調査区全景		2	B区1号土坑全景
PL. 5	1	C区1~3号畑中央・北部全景		3	B区2号土坑全景
	2	C区1~3号畑南・中央部全景		4	B区3号土坑土層断面
PL. 6	1	C区3号畑中央部土層断面		5	B区3・5号土坑全景
	2	C区3号畑北端部土層断面	PL. 13	1	B区4号土坑全景
	3	D区2・3・5号畑全景		2	B区5号土坑土層断面
	4	D区3号畑中央部土層断面		3	B区6号土坑全景
	5	D区作業風景		4	B区7号土坑全景
PL. 7	1	C区1号集石土層断面		5	B区8号土坑全景
	2	C区1号集石全景		6	B区9号土坑全景
	3	C区2号集石全景		7	B区1号畑洪水層堆積状況
	4	C区3号集石全景		8	B区1号畑全景
	5	D区2号集石土層断面	PL. 14		出土遺物
	6	D区2号集石全景			
	7	D区3号集石全景			
	8	D区4号集石全景			

第1章 川原湯勝沼遺跡の発掘調査とその経過

第1節 調査に至る経過

1 ハッ場ダム建設に先立つ文化財の調査

(1) ハッ場ダム建設と文化財調査の始まり

ハッ場ダムの建設に先立ち、ダム湖関連地域の文化財総合調査化計画が昭和61年7月19日に策定され、これに伴い長野原町は民俗(昭和61・62年度)・石造文化財(昭和63・平成元年度)・自然(平成2～4年度)に関する移設予定文化財調査が行われた(ハッ場ダム地域文化財調査会移設文化財部1995)。これと連動するように長野原町は、群馬県教育委員会刊行の「群馬県遺跡地図」(群馬県教育委員会1973)を補完するものとして埋蔵文化財の分布調査を昭和62・63年度、平成元年度に実施し、長野原町教育委員会より遺跡分布地図「長野原町の遺跡」(長野原町教育委員会1990)を刊行した。

(2) 埋蔵文化財の調査

その後平成6年3月18日に建設省関東地方建設局(以下「建設局」)と群馬県教育委員会(以下「県教委」)との間で「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」が締結され、県教委を調査組織、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(現公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、以下(事業団)とする)を調査機関とする同調査の実施計画が決定した。そして、同年4月1日に建設局と県教委との間で埋蔵文化財発掘調査受委託契約が、また同日付で県教委と事業団との間で発掘調査の受委託契約が締結され、ハッ場ダム建設地域に関する発掘調査が開始された。

2 川原湯勝沼遺跡の調査に至る経過

(1) 川原湯勝沼遺跡の第1次の埋蔵文化財調査

その後、川原湯勝沼遺跡は「川原湯上湯原遺跡」という遺跡名で平成9年12月1日から同月16日にかけて、試掘調査後直ちに本調査が行われた。この調査では縄文時代前期末～中期初頭等の土坑、近世の畑が検出されている

(事業団2002)。なお、川原湯上湯原遺跡から川原湯勝沼遺跡へ遺跡名の変更がなされた経緯は現時点では確認できない。

平成11年4月1日に建設局、県教委、事業団は「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書の一部を変更する協定書」を締結し、以後、調査実施機関を当事業団に変更した。

(2) 川原湯勝沼遺跡の第2次の埋蔵文化財調査

平成15年、国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム工事事務所の依頼を受けた県教育委員会文化課は、同年5月22日、不動大橋(湖面2号橋)西側の地区に対して幅1mの試掘トレンチ4本を設定し、試掘調査を実施した。

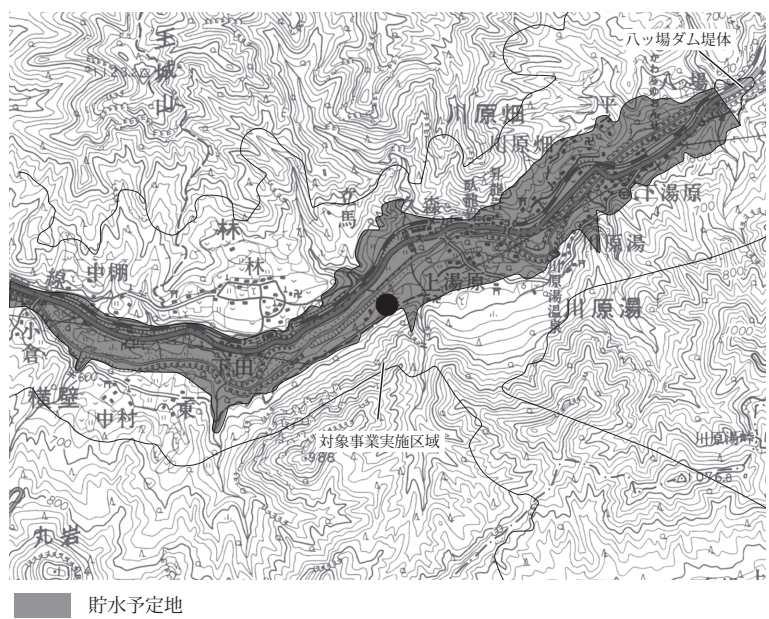
その結果、天明泥流を確認し「江戸時代の畑・溝状遺構・道路状遺構・ヤックラ跡等が検出され」として、「今後本格的な発掘調査の必要」があるという所見を得た。また、同年5月23日に実施した段丘縁辺部での試掘調査では、遺構は検出されず、発掘調査不要の判定がなされている。以上の試掘調査所見は、同年6月5日付けでハッ場ダム工事事務所と長野原町教育委員会に対し通知している。

これを受けて平成15年7月1日～9月3日、同年10月1日から12月26日、平成16年4月5日～同月30日に、天明泥流下面を1面、縄文・古墳・平安時代の調査面を2面として発掘調査を実施し、縄文・古墳時代以降の溝、畑、埋設土器、土坑、ピット、河道、平安時代の竪穴建物、田畑、天明泥流下の畑、ヤックラ(集石)、道、溝などが検出されている(事業団2005)。

(3) 平成28年度の調査に至る経過

上述のように、川原湯勝沼遺跡は既に発掘調査が行われていたが、ハッ場ダム工事事務所は未調査区域(本報告書報告地域)に対する試掘調査の実施を、平成26年5月9日群馬県教育委員会文化財保護課(以下「県保護課」とする)に対して依頼した。これを受けて県保護課は、同月22・23日に幅1mの試掘トレンチ14本を設定して試掘調査を実施したが、その結果、天明泥流の堆積を確認

第1章 川原湯勝沼遺跡の発掘調査とその経過



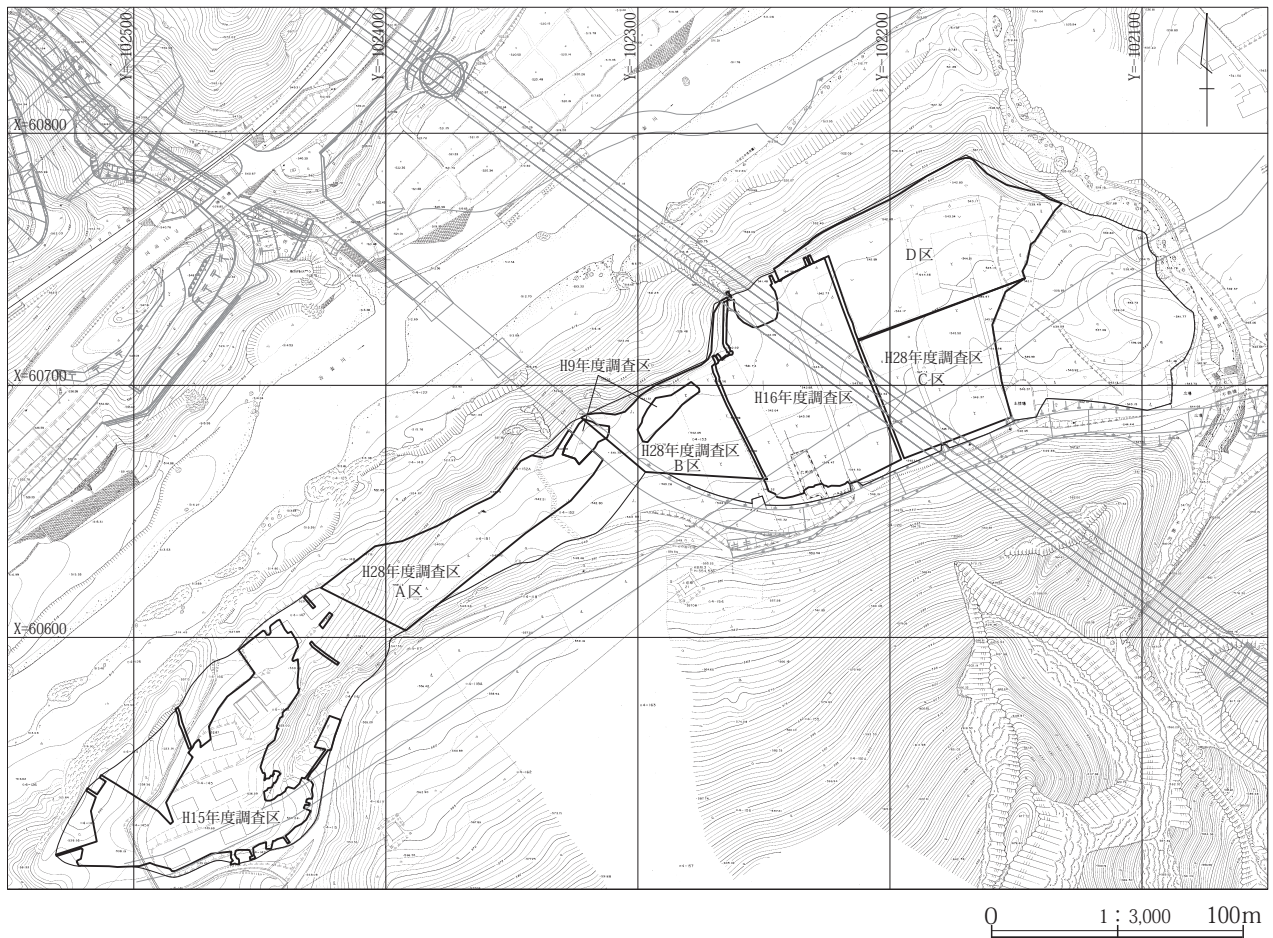
第1図 ハツ場ダムと川原湯勝沼遺跡位置図(国土地理院20万分の1地勢図「長野」平成18年11月1日、5万分の1地形図「草津」平成11年11月1日発行を使用)

し、「その直下にAs-A軽石に埋没した畑及びその可能性がある遺構、時期不明の土坑」を検出したため、同年11月26日に他の試掘調査所見と併せて、一部を除き「要調査地」と判定する報告をハッ場ダム工事事務所と長野原町教育委員会に対し提出した。

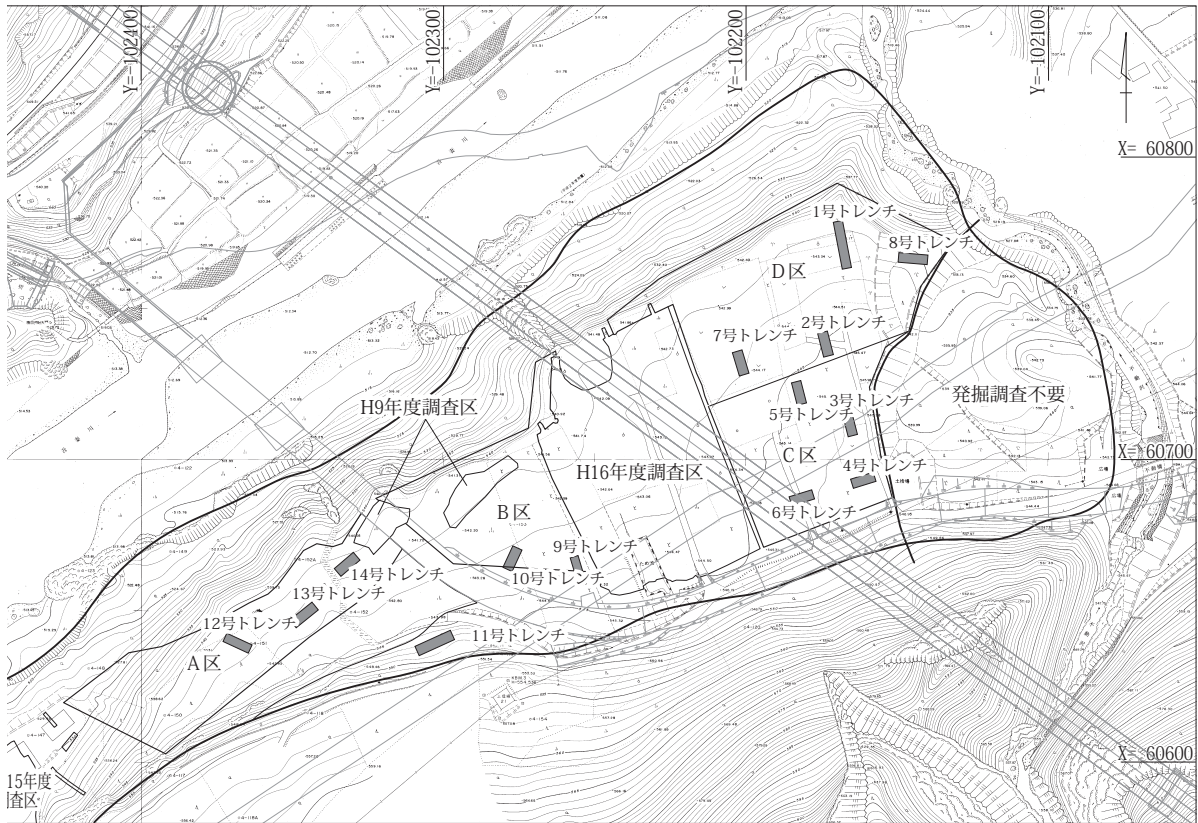
その後平成28年2月24日に至り、県保護課は事業団に対して本遺跡の調査を行わせる調整方針で事務処理を開始し、同年3月6日に県保護課より事業団へ委託する旨の協議、同月7日に事業団が受諾する旨の協議を行い、同年4月3日、国土交通省関東地方整備局と事業団との間で当遺跡を含むハッ場ダム建設工事に伴う発掘調査受委託契約書が交わされ、本報告書に記す、本遺跡としては第3次となる平成28年度の発掘調査が実施されることになったのである。

【参考文献】

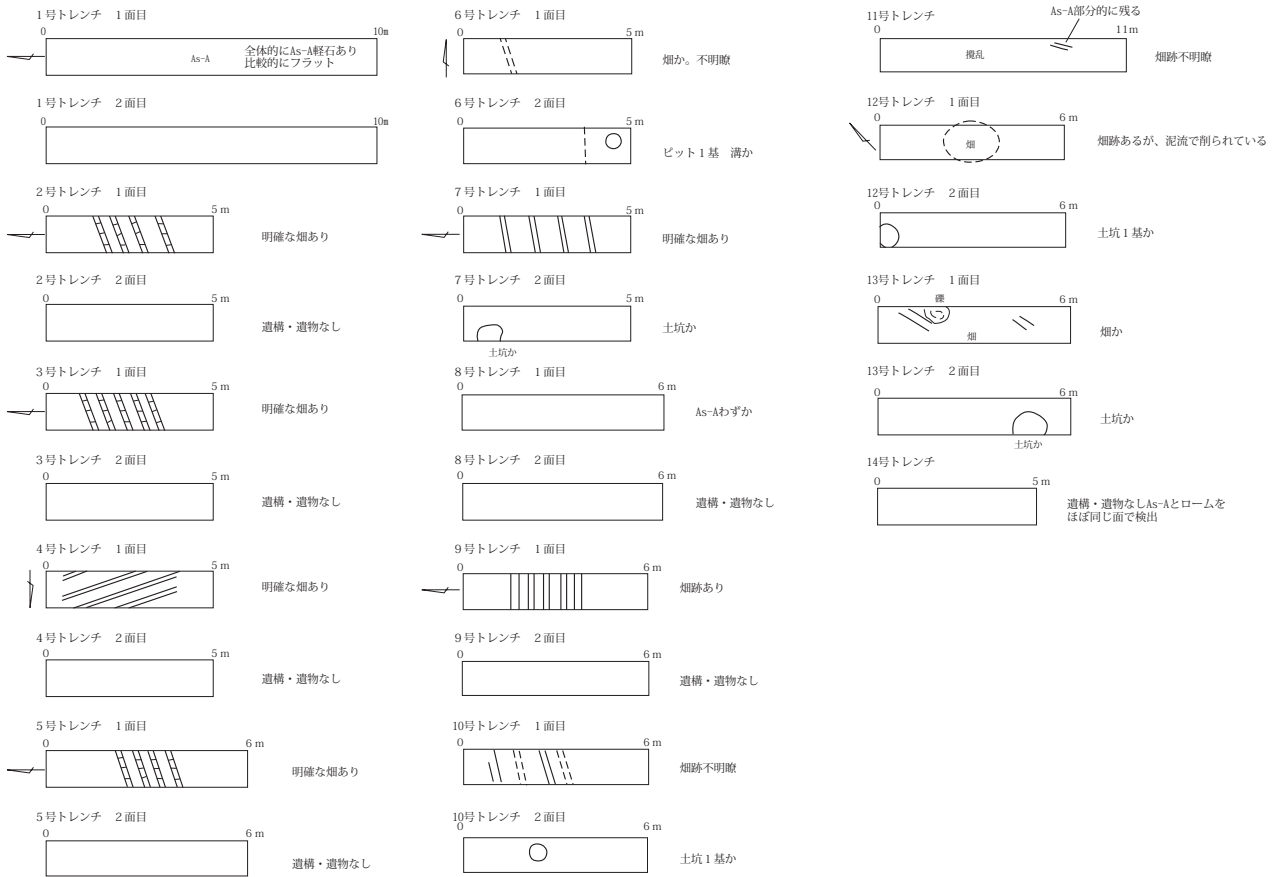
- 長野原町教育委員会(1990)『長野原町の遺跡 一町内遺跡詳細分布調査報告書一』
- ハッ場ダム地域文化財調査会移設文化財部(1995)『ハッ場ダム地域移設予定文化財調査報告書』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2002)『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2005)『川原湯勝沼遺跡(2)』



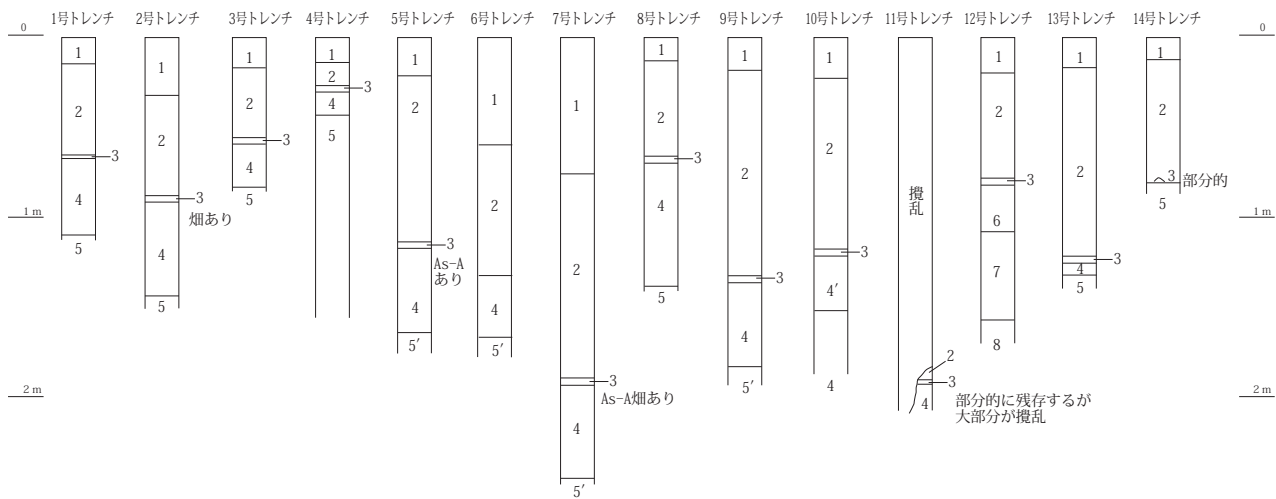
第2図 川原湯勝沼遺跡調査区と国家座標



0 1 : 2,500 100m



第3図の1 川原湯勝沼遺跡の試掘調査



- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 表土 | 5 黄褐色土 礫を多量に含む。礫は大型。 |
| 2 As-A泥流 | 5' 黄褐色土 礫少ない。 |
| 3 As-A軽石 | 6 褐色粘質土 |
| 4 暗褐色土 礫を多量に含む。 | 7 黒色粘質土 |
| 4' 暗褐色土 礫・ロームを多量に含む。 | 8 黄褐色土 |

第3図の2 川原湯勝沼遺跡の試掘調査

第2節 調査経過

平成28(2016)年の発掘調査は、同年7月1日にA区1面の調査から開始し、天明泥流面の調査を実施した。1面の調査終了に伴い、同月12日に2面の遺構確認調査を実施し、遺構の確認に伴い本調査に移行した。更に8月1日には2面の調査終了に伴って3面の確認調査を行い、確認した遺物包含層の調査に着手し、同月19日にA区の調査を終了した。なお8月5日～9日にかけてはA区拡張区の調査を実施している。

その後ひと月の調査中断を経て9月21日からB区1面の調査に着手し、10月5日からC区の1面調査に着手した。同月7日からB区の2面の調査に着手し、同18日に終了した。同月20日からD区1面の調査に着手し、27日にはC区2面の調査に着手し、11月11日に調査終了した。同月D区2面の調査に着手し、12月16日これを終え、21日に撤収しているが、以下に、その概要を記すこととする。

7月

1日 A区遺構確認トレンチ(1～3号)重機による掘削開始。

4日 A区遺構確認トレンチ(1～3号)の断面測量実施。全景写真撮影。

5日 A区、重機による掘削作業開始(泥流面の掘削)。1面遺構の検出確認作業を随時開始。遺構確認トレンチ(1～3号)の平面測量開始。

11日 本部による安全巡回パトロール実施。関係者来場。

12日 A区1号溝と調査区全体の平面測量開始。調査区全景写真撮影。A区2面確認調査トレンチ掘削開始。

15日 A区2面確認調査トレンチ(1～3号)の平面・断面測量実施。遺構写真撮影。A区2面遺構の検出確認作業開始。

25日 A区2面1～3号土坑より調査開始。グリッド取上げ遺物出土状況写真撮影、測量開始。

27日 A区2面検出土坑の断面測量開始。断面写真撮影。

28日 A区2面検出土坑の平面測量開始。全景写真撮影。検出遺構(土坑8基)調査完了。

8月

1日 A区2面調査区全景写真撮影。A区3面の試掘掘削開始。

3日 A区3面グリッド取上げ遺物出土状況写真撮影開始。

第1章 川原湯勝沼遺跡の発掘調査とその経過

- 4日 A区3面グリッド取上げ遺物出土状況測量開始。
- 5日 A区2・3面グリッド取上げ遺物出土状況写真撮影、測量完了。A区調査区拡張範囲の掘削、遺構確認作業実施。1面の測量より写真撮影。終了後2面を着手。
- 8日 A区調査区拡張範囲2面の遺構確認作業より測量、写真撮影。
- 9日 A区調査区拡張範囲の埋め戻し開始。
- 10日 A区3面の断面測量開始。断面写真撮影。
- 18日 A区3面の地形平面測量実施。旧石器時代面の試掘トレンチ掘削開始。
- 19日 A区旧石器時代面の試掘トレンチ写真撮影。A区発掘調査終了。
- 9月
- 20日 調査再開。B～D区調査区範囲設定。B～D区調査区周辺の草刈り実施。
- 21日 B区調査区重機による礫移動開始。
- 23日 B区重機による掘削開始(泥流面の掘削)。
- 26日 B区1面畑の検出確認作業着手。C・D区調査区周辺の草刈り継続。
- 28日 B区1面畑の測量開始。
- 10月
- 3日 B区泥流面の掘削完了。B区1面畑の検出確認作業、測量継続。
- 5日 B区1面畑の測量完了。B区1面調査区全景写真撮影。C区重機による掘削開始(泥流面の掘削)。
- 6日 C区1面畑の検出確認作業着手。
- 7日 B区2面重機による掘削開始。随時2面遺構の検出確認作業着手。C区1面畑の測量開始。
- 12日 B区2面1～5号土坑より調査開始。断面測量、断面写真撮影着手。C区1面畑の検出確認作業、測量継続。
- 13日 B区2面検出土坑の平面測量開始。全景写真撮影着手。
- 14日 B区2面1号畑の測量開始。検出土坑の平面測量、写真撮影継続。B区2面調査区全景写真撮影。
- 18日 B区2面検出遺構(土坑9基、他)の測量、全景写真撮影完了。B区2面の調査終了。C区1面畑の検出確認作業、測量継続。D区重機による掘削開始(泥流面の掘削)。
- 20日 D区1面東端斜面の畑より検出確認作業着手。
- 24日 C区1面ドローンによる空中写真撮影、調査区全景写真撮影実施。
- 25日 C区1面集石の調査開始。
- 26日 C区1面検出遺構の測量、全景写真撮影完了。C区1面の調査終了。D区1面泥流面の掘削、畑の検出確認作業継続。
- 27日 C区2面重機による掘削開始。D区1面畑の測量開始。検出確認作業継続。
- 31日 C区2面遺構の検出確認作業着手。
- 11月
- 2日 C区2面1～4号土坑より調査開始。断面測量開始、断面写真撮影着手。
- 7日 C区2面検出土坑の平面測量開始。全景写真撮影着手。
- 8日 C区2面1～5号ピットの調査開始。断面測量、断面写真撮影着手。
- 9日 C区2面調査区全景写真撮影。C区2面検出ピットの平面測量開始。D区1面泥流面の掘削、畑の調査継続。
- 10日 D区1面泥流面の掘削終了。
- 11日 C区2面検出遺構(土坑21基、ピット5基、他)の測量、全景写真撮影完了。C区2面の調査終了。D区1面畑の調査継続。
- 17日 D区1面ドローンによる空中写真撮影、調査区全景写真撮影実施。D区1面1号道、1～4号集石の調査開始。
- 18日 D区1面検出遺構の測量、全景写真撮影完了。D区1面の調査終了。
- 21日 D区2面重機による掘削開始。
- 24日 降雪のため作業中止。
- 25日 除雪作業実施。
- 28日 D区2面重機による掘削継続。遺構検出確認作業着手。
- 29日 D区2面1号土坑より調査開始。場内盛土重機にて整地。
- 30日 D区2面1号土坑より断面測量開始。断面写真撮影着手。1・2号ピットの調査開始。重機搬出。
- 12月
- 2日 D区2面検出土坑、ピットの平面測量開始。全景

写真撮影着手。

7日 D区2面検出遺構(土坑26基、ピット10基、他)の測量、写真撮影完了。

8日 D区2面調査区全景写真撮影。D区2面再遺構確認作業実施。

9日 D区2面27・28号土坑検出。調査開始。

12日 D区2面1・2号遺物集中検出。調査開始。同遺構の断面測量、写真撮影着手。27・28号土坑の測量、写真撮影完了。

14日 D区2面1・2号遺物集中の平面測量開始。全景写真撮影。

15日 資材等撤収準備開始。

16日 1号遺物集中の遺物取上げ測量完了。D区2面の調査終了。同日全調査区(A～D区)の調査終了。

21日 調査事務所プレハブ撤去。資材撤収完了。長野原警察署に発見届提出。

第3節 調査の方法

1 遺跡略号

ハッ場ダム建設関連発掘調査に於ける遺跡名称、略号、グリッド設定等は、平成6年度開始以来、「ハッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」により設定されている。

遺跡名はハッ場ダム建設に係る長野原町の5地区大字(川原畑、川原湯、横壁、林、長野原)に小字名を加えて命名されている。本遺跡は「川原湯勝沼遺跡」を遺跡名称としているが、前述のように、当初は「川原湯上湯原遺跡」という遺跡名称で調査が行われていた。

次に遺跡略号であるが、遺跡略号は頭書にハッ場ダムの略号「YD」が付される。これに続いて上記5地区に充てられた番号(川原畑:1、川原湯:2、横壁:3、林:4、長野原:5)が付され、「-」を記した後、地区毎の調査順の通し番号が付される。本遺跡は川原湯地区の最初の調査遺跡であるため、遺跡略号は「YD2-01」となる。

2 地区、グリッドの設定

(1)地区・区の設定

本遺跡の地区・区は、「ハッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」による統一の仕様により設定した。

まず地区の設定であるが、東西南北の1km四方を地区とし、同じく100m四方を区として設定している。その起点は、世界測地系第9系のX=58100m、Y=-107400(北緯36°31'03"、東経138°38'03"付近)であり、これを南東隅とする地区を01地区として、その西側及び北側に向かい10地区ずつ設定されている。地区名称は西側に01～10地区、01区の直ぐ北側が11地区、更に北側が21地区と

順に加算し、下1桁は西側に向かって1つつ加算して地区番号を付している。なお、本報告書に報告する地区は26地区に属する。

また、地区の中には東西方向10区画×南北方向10区画の100区画の区が入る。区の呼称は南東隅のものを01区として、西側に下一桁を加算して01～10区、北側に上一桁を加算して11区から91区と加算して区の名を付している。なお、本報告書に報告する調査区は62～64区と72・73区に属する。

(2)グリッドの設定

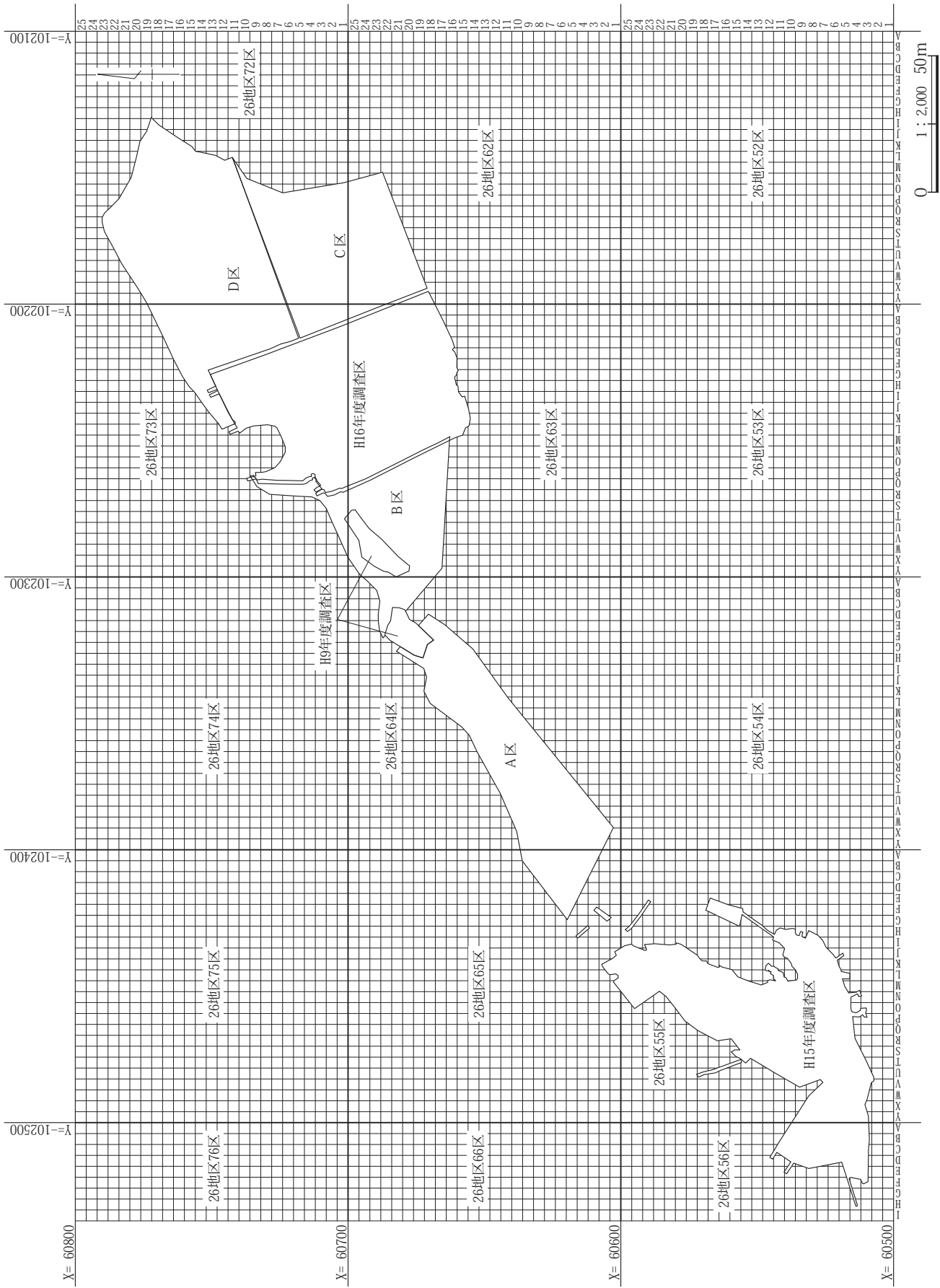
グリッドの設定も、ハッ場ダム地域埋蔵文化財発掘調査統一の仕様により行なった。

グリッドは東西南北方向4m四方の規格を1グリッドとして設定している。1地区内に設定されるグリッドは、東西方向25グリッド×南北方向25グリッドから成る合わせて625グリッドである。なお、グリッドの呼称は西に向かってA～Y、北に向かって1～25の記号と番号が付され、アルファベット・数字の順に標記している。

(3)調査区の設定

上述のように本遺跡の地区、区、グリッドの設定は、「ハッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に依拠して設定し、また前述のように本遺跡には平成9年の1次と平成15・16年度の2次の発掘調査が実施されている。

本報告書に報告する平成28年の発掘調査の調査区は、1・2次調査の調査区に隣接、あるいは交互に配置されていたため、区やグリッド表示だけでは位置情報が錯綜することとなる。そこで、平成28年度調査の3区画に分



第4図 川原湯勝沼遺跡グリッド設定図

割される調査区のうち、最も西側の調査区域を「A区」、中位に位置する区画を「B区」とし、最も東側の区域は南北に分割して南を「C区」、北側を「D区」と呼称することとしたが、C・D区の分割の根拠は詳らかでない。

3 発掘調査の方法

(1) 掘削

本遺跡では、表土及び硬質の天明泥流を爪隠しを装着したバックホー(建設機械)で除去した後、天明泥流及びAs-A軽石下の遺構面をスコップ、鋤簾、移植鋤当の道具を用いて人力で検出した。

また、2、3面の調査前には遺構確認用のトレンチを掘削し、遺構の有無を確認した。その結果、遺構遺存の想定範囲は、2・3面共に1・2面下の土砂をバックホーあるいは人力で除去した後、遺構確認面を精査して遺構確認を行い、検出した遺構を掘削した。あるいは遺物包含層を掘削して遺物の検出を行った。

この他、必要に応じて適宜土層観察用のベルト設定、あるいは半載により土層の観察を行った。更に標準土層の観察用にグリッドを設定して、土層確認を行った。

なお、出土した遺物等は記録化の後、原位置より取り上げ、出土位置の記録等を付して収納した。

(2) 記録

本発掘調査は遺跡の記録保存の記録を得るために実施されたものであるが、遺構の記録は測量と写真撮影による記録を実施した。

遺構図はデジタル測量による地上測量、あるいは航空写真測量を基本として測量した。このうち遺構平面図は1/40縮尺図での割図の作成を原則とし、全体図は1/100縮尺図で作図した。また遺構断面図は割図に合わせ、原則として1/40縮尺図として作図し、一部1/20縮尺図として作図した。

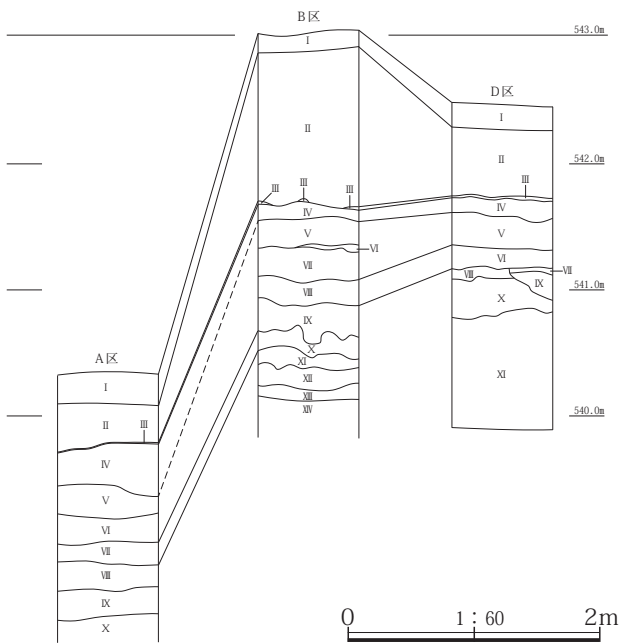
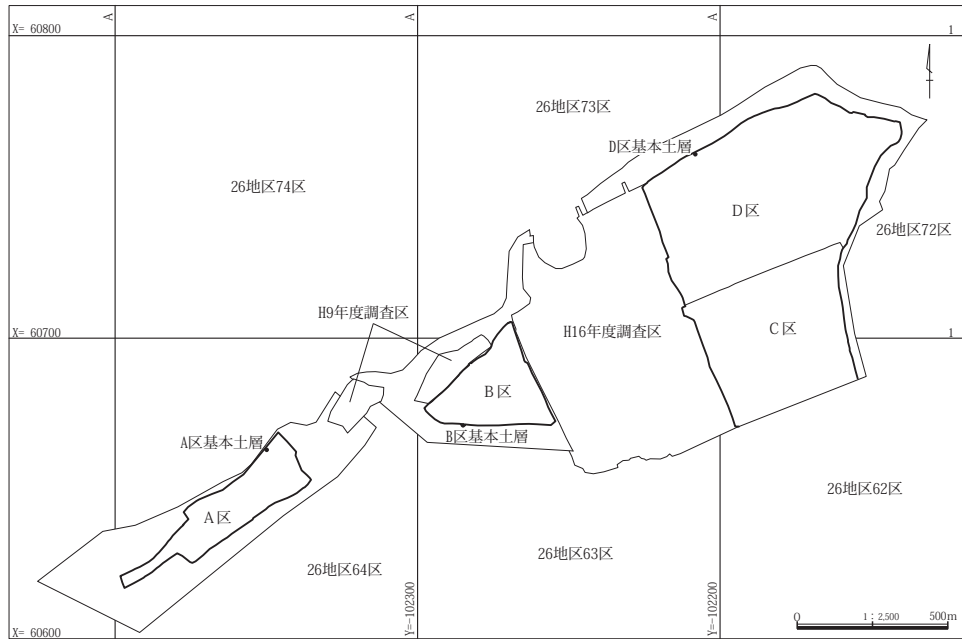
写真撮影はデジタル写真撮影とブローニ版による銀塩写真により撮影した。また、航空写真撮影は委託して撮影したが、一部ドローンを使用した撮影も行った。

4 基本土層

第5図に示したように、本遺跡の堆積物は一様ではなく、特に中・下位層は地点地点により異なる様相を呈する。第5図はA・B・D区の3地点の土層の記録であるが、これらを平均化したものが下の標準土層である。この標準土層は正確性にはやや欠けるが、全体的傾向は示しえたものと思料する。

I～IV層、即ち現耕土から天明3(A.D.1783)年の浅間山の噴火による泥流(II層)と軽石(III層)で被災した耕地までは、A・B・D区に共通する堆積傾向を示す。その下の土壌を挟んで、B・D区では大治3(A.D.1128)年浅間山噴出のAs-Kk軽石を含む土壌の堆積が堆積し、間層を挟んでローム漸移層、ローム層が確認され、更に砂礫層の堆積が確認されている。

- I 表土層
- II 黒褐色天明泥流(天明3年/1783年)
- III As-A軽石層(天明3年/1783年)
- IV 黒褐色から暗褐色土：天明の耕作土
- V 黒色～黄褐色土
- VI 黒色～黒褐色土：As-Kk(大治3年/1128年)含む。
- VII 黒褐色土
- VIII 黄褐色土：ローム漸移層
- IX 黄褐色ローム
- X 黄褐色砂礫層



(A区) 基本土層

- I 表土
- II 黒褐色土 天明泥流
- III 軽石 As-A軽石
- IV 黒褐色土 部分的に鉄分の凝集見られる。
- V 明灰黒褐色土
- VI 黒色土 黒味強く、やや粘性あり。
- VII 黄褐色土 ローム漸移層
- VIII 黄褐色土 ローム
- IX 黒褐色土 黒味強く、大小の礫を含み粘性あり。(早期末の土器出土)
- X 黄褐色土 ローム層(やや砂質)、径3~5cmの軽石(丸みを帯びる)含む。

(B区) 基本土層

- I 表土
- II 天明泥流
- III As-A軽石
- IV 暗褐色土 天明畑耕土。
- V 茶褐色土 小角礫多く含む(山崩れによるものか)。
- VI 黄褐色土 砂層。V層に伴うものか
- VII 黒褐色土 若干の小礫含む砂質土。
- VIII 黒褐色土 細粒で少量の炭化物混入。As-Kk点在。
- IX 黒褐色土 VIII層に近似するが、ロームをわずかに含む。
- X 黄褐色土 ローム漸移層。黒色土の小ブロック見られる。
- XI 黄褐色土 粘性あり。若干の小礫含む。
- XII 黄褐色土 砂礫多く含む粘質。
- XIII 黄褐色土 締まりあり。砂礫層。
- XIV 黄褐色土 締まりあり。砂礫土、白色礫を含む。

(D区) 基本土層

- I 表土
- II 天明泥流
- III As-A軽石
- IV 黒色土 天明畑耕作土
- V 黒色土
- VI 黒色土 若干の小礫含む。細粒、As-Kk含む。
- VII 黒褐色土 二次堆積ローム。
- VIII 暗黄褐色土 礫含む。
- IX 暗褐色土 礫含む。
- X 暗褐色土 IX層と同質だが色調明るい。
- XI 黄褐色土 礫多く含む。

第5図 基本土層観察位置と土層断面

第2章 遺跡を廻る環境

第1節 地理的・地質的環境

1 地理的環境

本遺跡の所在する吾妻郡長野原町は、吾妻峡を境に東西に分けられる群馬県吾妻郡の西半部の東寄りに在り、本遺跡は、逆L形を呈する長野原町の北部やや東寄りに位置している。周辺の大半は山地であり、その中程を吾妻川が東流してこれを裂く。その東端は吾妻川の両岸に山地が迫り名勝「吾妻峡」が形成されているが、吾妻峡以西の区域では、吾妻川沿いに広狭はあるものの河岸段丘が形成され、本遺跡もその一角を占めている。

本遺跡周辺の山地はいずれも火山性山地であるが、本遺跡の南西の吾妻川右岸側の大洞山、北西の左岸の高間山は、共に大洞山系に属する。第6図に示す範囲では、吾妻川の左岸に王城山、天狗獄、久森嶺等が連なり、右岸に丸岩山、堂巖山、柘螺山等が連なる。また後者の背面(南側)には吾妻川支流の温川とその支流が東流して谷地形を形成している。

一方河川は、上述のように利根川の主要な支流の一つである吾妻川が本遺跡の北側に接して東流しているが、吾妻川には草津方面より白砂川、長野原町の南部の応桑方面より熊川が流下し合流している。また本遺跡付近では、吾妻川両岸沿いに東西に連なる山地を源として、吾妻川左岸部では楡木沢、室沢、久森沢川、右岸部では深沢、大沢等の溪流が吾妻川に流入している。本遺跡の東側を北流する不動沢もこうした溪流の一つであり、本稿執筆時点では本遺跡の南側には落差90mの不動滝が見られる。

上述のように遺跡地周辺の大半は山地であり、ダム建設以前は、吾妻川沿いの僅かな河岸段丘面を中心に耕地が営まれ、集落が散見される山村地帯であった。耕地は畑作が中心であるが、水田耕作も散見され、本遺跡東方の吾妻川右岸、大字川原湯には川原湯温泉があり、斜面側に温泉街が形成されていた。これららの耕作地、集落、川原湯温泉は、ダム建設に伴いそれぞれの周辺の代替地

へと移転している。

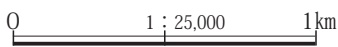
吾妻川左岸には近世より街道が存していたが、これは明治期には長野街道と呼ばれた道路となり、後にコ字状に吾妻川を渡河して川原湯温泉駅前を通過するルートを取って整備され、国道145号となる。右岸側にも川原湯から横壁にかけて道路が通っていた。また国道145号に沿って昭和20年開通のJ R 吾妻線(長野原線)が走っていた。吾妻線は先の大戦中、六合村(現中之条町)に発見された群馬鉄山の鉄鉱石輸送のために計画された鉄道路線であるが、昭和17年頃の路線及び着工日決定の関係各省の合同会議において、トンネル施工はせず道路沿いを切り崩して排土も吾妻川へ投棄する方法で速やかに開通するべしという陸軍省・海軍省に対し、文部省が名勝「吾妻峡」の保護を主張して最後まで抵抗した。そしてついに軍も折れてトンネル施工を認め、排土も搬出する方針に改められた結果、吾妻線旧線はトンネルの多い路線となったという逸話が残る。なお、これらの道路と鉄道は代替地を通過する位置へ上げられ、国道145号は上信自動車道八ッ場バイパスとして移設され、吾妻川右岸の道路は県道375号林岩下線として東吾妻町へ続く道路となり、J R 吾妻線は西部を除いて吾妻川右岸側を通過するルートに改められ、新しい川原湯温泉駅も建設されて移設が成った。またこれらの建設に合わせて、将来のダム湖を渡って吾妻川右岸と左岸をつなぐ橋梁も設けられている。

2 地質的環境

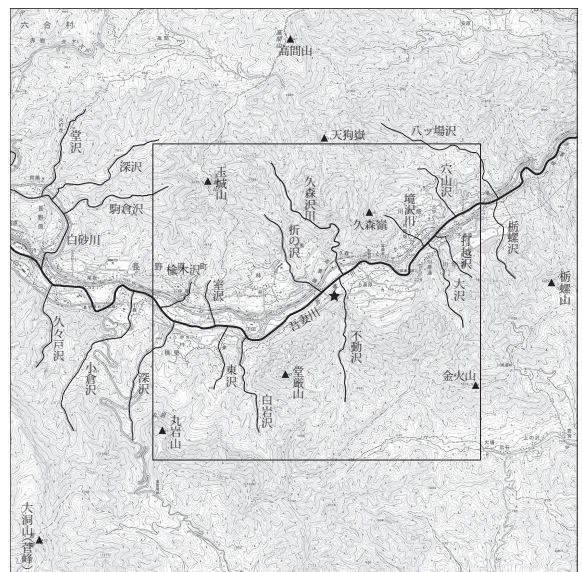
本遺跡周辺の地質は火山性山地であり、新生代新第三紀から第四紀にかけて形成されたものである。本遺跡付近で確認される最下位層は新生代新第三紀の中期中新世とされる枕状溶岩、凝灰角礫岩、流紋岩質軽石凝灰岩及び凝灰岩から成る川原畑層(Kh)であり、川原畑層の上には、前期鮮新世の紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩と凝灰角礫岩及び凝灰岩から成り本遺跡の基盤層となる八ッ場層(Yn)が乗り、その上に後期鮮新世の軽石凝灰岩と凝灰岩及びデイサイト溶岩から成る横壁層(Yk)、そして新生代



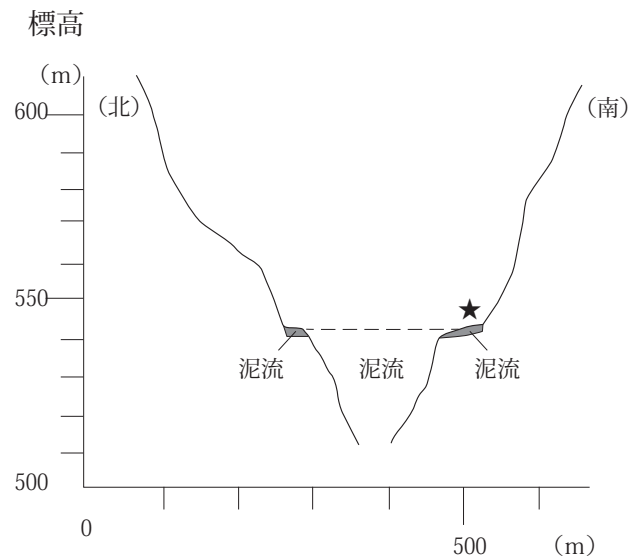
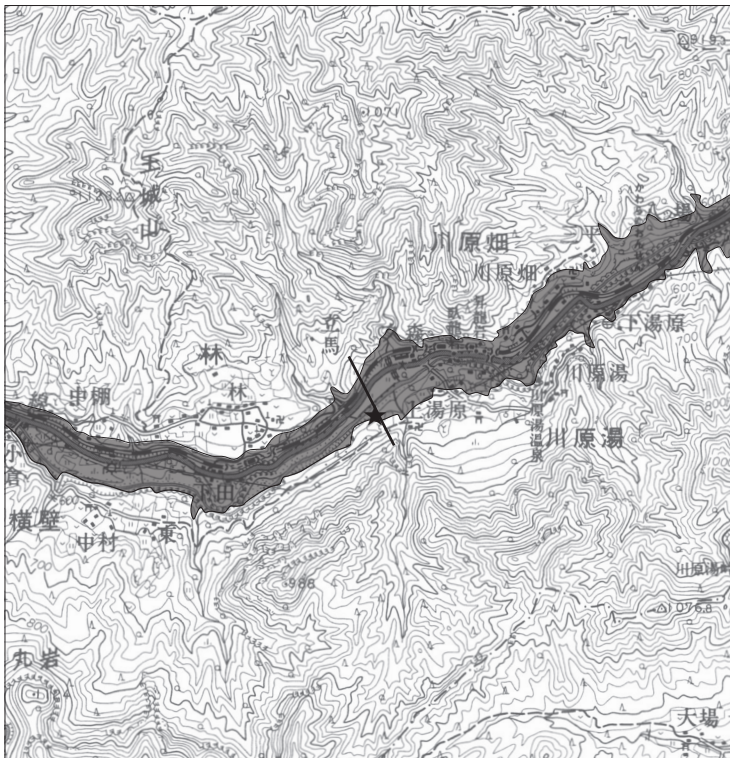
Ojo



- Ky ; 川原湯峠層 紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩・凝灰角礫互層
- Yk ; 横壁層 軽石凝灰岩、凝灰岩及びデイナイト溶岩
- Yn ; ハッ場層 紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩、凝灰角礫岩及び凝灰岩
- Kh ; 川原畑層 枕状溶岩、凝灰角礫岩、流紋岩質軽石凝灰岩及び凝灰岩
- Ai ; 火成岩類 安山岩溶岩
- Ad ; 火成岩類 安山岩岩脈
- Rm ; 火成岩類 流紋岩ないしデイサイト岩体
- Am ; 火成岩類 安山岩岩体
- Gp ; 火成岩類 花こう斑岩ないし石英斑岩
- Ojo ; 王城火山噴出物 紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩及び火砕岩
- Fds ; 不動沢岩体 紫蘇輝石普通輝石安山岩
- 断層



第6図 川原湯勝沼遺跡周辺地質図(国土地理院2.5万分の1地形図「長野原」平成9年7月1日発行を使用)、群馬県(1986)より作成



第7図 天明泥流到達範囲((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2003)を加筆、右図今回作成)

第四紀の前期更新世の紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩と凝灰角礫互層から成る川原湯峠層(Ky)が乗り、同時期の形成による紫蘇輝石普通輝石安山岩から成る不動沢岩体(Fds)、紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩及び火砕岩から成る王城火山噴出物(0jo)が確認される。

また、火成岩類としては、第6図左下の丸岩山は安山岩溶岩(Ai)から成るドーム形を呈する山体があり、本遺跡北東に在る帯状に現れる柱状節理の発達する安山岩岩脈(Ad)の「川原湯岩脈」は国指定天然記念物である。川原湯岩脈では、共に吾妻川左岸に在って西側の岩脈の吾妻川へ到達する地点の「臥龍岩」と東側の岩脈の段丘崖に見られる「昇龍岩」が知られるが、両岩はダム湖に没することとなる。この他、流紋岩またはデイサイト岩体(Rm)、安山岩岩体(Am)、花崗斑岩または石英斑岩(Gp)から成る火成岩類も散見される。

ところで、本遺跡周辺は天明3(1783)年の浅間山の噴火に伴う被災地域であるが、天明3年7月7日(新暦8月4日)午後から翌8日朝にかけて降下したAs-A軽石が地表を覆い、その後、同日午前10時の爆発に伴い発生した天明泥流は、第7図に示したように吾妻川から氾濫し

て河岸段丘面一杯に広がり、2～3m厚で堆積し、大きな被害をもたらしている。

【参考文献】

群馬県(1986)『群馬県河川図』
 群馬県地質図作成委員会(1999)『群馬県10万の1地質図』
 群馬県地質図作成委員会(1999)『群馬県10万の1地質図解説書』
 国土地理院(1973)『長野原』、1/25000縮尺図
 参議院(1972)『第68国会参議院建設委員会議事録』第16号、pp 1-8
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2003)『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』、pp314-315天明泥流到達範囲図
 大日本帝國陸地測量部(1915)『草津』、1/50000縮尺図
 長野原町誌編纂委員会(1976)『長野原町誌』上巻
 長野原町役場(1983)『群馬県吾妻郡長野原町図』、国土地理院1/25000図(平成元年第56号複製承認)に複製長野原町加筆
 中村庄八、藤本光一郎、中村俊雄、方違重治「群馬県吾妻地域における中期中新世以降の火山岩類と変質」(2016)『地質学雑誌』Vol.122 No.8、pp397-411

第2節 歴史的環境

1 旧石器時代

本遺跡周辺地を含む吾妻郡長野原町内では、柳沢城遺跡(長野原町横壁)で細石刃文化に伴うと思われる削器1点が表採されているが、旧石器時代の明確な遺跡は確認されていない。

2 縄文時代

本遺跡周辺の縄文時代の遺跡は、吾妻川等の上位の段丘崖や丘陵地に立地している。

草創期の遺跡は吾妻川左岸地域に認められ、石畑Ⅰ岩陰(21)があるが、横壁勝沼遺跡(10)からも草創期の槍先形尖頭器が表採され、楡木Ⅱ遺跡(62)では表裏縄文の土器片が得られている。

早期では、前半の撚糸文期の集落が楡木Ⅱ遺跡(62)で調査された他、撚糸文期・沈線文期の竪穴建物が立馬Ⅰ遺跡(37)や立馬Ⅲ遺跡(39)で調査されている。また早期後半の条痕文期の竪穴建物が立馬Ⅲ遺跡(39)で調査されている。また立馬Ⅱ遺跡(38)で撚糸文や押形文土器が出土している。

前期では、上原Ⅰ遺跡(45)と林中原Ⅱ遺跡(46)で初頭の花積下層Ⅰ式土器や塚田式の土器が多量に出土する集落があり、三平Ⅰ遺跡(26)、立馬Ⅰ遺跡(37)、立馬Ⅱ遺跡(38)、林中原Ⅰ遺跡(47)、林中原Ⅱ遺跡(46)などで前半期の遺構、遺物が確認されている。また楡木Ⅱ遺跡(62)で前・中葉(二木式～有尾式・黒浜式)の10棟の竪穴建物が調査され、後半期(諸磯式)のものとしては林中原Ⅰ遺跡(47)で竪穴建物、川原湯勝沼遺跡(1)、三平Ⅰ遺跡(26)、三平Ⅱ遺跡(27)で土坑が確認された。

中期では遺跡数が増加し、立馬Ⅱ遺跡(38)で中期初頭から前半(五領ヶ台式～阿玉台式・焼町式)の9棟の竪穴建物、横壁中村遺跡(11)では前半と250棟を上回る中期後半の竪穴建物が検出された他、上ノ平Ⅰ遺跡(28)、林中原Ⅱ遺跡(46)等で遺構・遺物が確認されている。

後期に入ると集落遺跡は減少傾向を見せるが横壁中村遺跡(11)、林中原Ⅱ遺跡(46)等の遺跡で加曾利B式期の遺構・遺物が検出されている。

晩期に入ると更に遺跡数は減少するが、本遺跡(1)では氷Ⅱ式土器を伴う再葬墓の可能性のある土坑が調査されている。

3 弥生時代

本遺跡周辺域での弥生時代の遺跡は少ない。

本遺跡周辺では、横壁中村遺跡(11)で前期檜王式の埴甕が出土し、楡木Ⅲ遺跡(61)では土器が集中的に出土している。

立馬Ⅰ遺跡(37)で中期後半の竪穴建物と甕棺墓が調査され、同時期の遺跡では横壁中村遺跡(11)がある。

横壁中村遺跡(11)や二社平遺跡(23)で後期樽式の土器片が多数出土している。

4 古墳時代

本遺跡周辺においては、古墳時代の遺構、遺物の分布は薄い。古墳の分布は、平成の古墳総合調査(群馬県教育委員会2017)においても確認されなかった。

集落遺跡では前期の竪穴建物が上原Ⅰ遺跡(45)で、中・後期の竪穴建物が上原Ⅳ遺跡(50)や下原遺跡(54)で調査されている。

5 奈良・平安時代

律令期(飛鳥～平安時代)、吾妻郡には長田郷、伊参郷、大田郷の3郷が属していたことが平安時代の辞書「和名類聚抄」に記されている。しかしその比定地はいずれも吾妻郡東部に在り、本遺跡周辺がどの郷に属していたかは不明である。なお、本遺跡周辺に最も近い郷は、吾妻川が吾妻峽を抜けた、吾妻川右岸地域に充てられる大田郷であり、本遺跡周辺地を含む吾妻郡西部地域がこれに含まれていた可能性が考慮される。

奈良時代の遺跡は確認されていないが、上ノ平Ⅰ遺跡(28)で皇朝十二銭の「貞観永寶」や多数の灰釉陶器の出土が見られた。

また平安時代の遺跡は9世紀後半から10世紀のものを中心に多く確認され、集落としては本遺跡(1)の他、横壁中村遺跡(11)や山根Ⅲ遺跡(17)、西久保Ⅰ遺跡(18)、

二社平遺跡(23)、三平Ⅰ遺跡(26)、三平Ⅱ遺跡(27)、花畑遺跡(40)、林宮原遺跡(51)、下原遺跡(54)で数棟の竪穴建物が調査されている。特に上ノ平Ⅰ遺跡(28)と楡木Ⅱ遺跡(62)では30棟以上の竪穴建物が確認されているが、前者からは炭化したオオムギ、コムギ、アワが多く出土してイネ以外に主食穀物を求めた傾向が窺われ、後者からは屯倉を連想させる「三家」の墨書土器が出土している。

6 中世

鎌倉時代、吾妻郡西部地域では孀恋村付近に信州の滋野源氏の一系である下屋幸房により三原荘が開いた。そして室町期には同族の海野一族が扶植し、鎌原(孀恋西部、鎌原氏)、三原(熊五井西部と長野原の一部、西窪氏)、草津(旧六合村と草津、湯本氏)、羽尾(長野原、羽尾氏)に四分して支配した。従って、本遺跡付近は羽尾氏の支配下にあった可能性が考慮される。また本遺跡西方の長野原町大字横壁に在った柳沢城には、応仁の頃、柳沢治



第8図 川原湯勝沼遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院2.5万分の1地形図「長野原」平成9年7月1日発行を使用)

第2章 遺跡を廻る環境

表1 周辺遺跡一覧

No.	遺 跡 名	町遺跡番号	所 在 地	時 代								備 考
				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	
1	川原湯勝沼遺跡	206	長野原町大字川原湯		○		○		○		○	本遺跡
2	下湯原遺跡	217	長野原町大字川原湯		○				○	○	○	
3	西ノ上遺跡	212	長野原町大字川原湯		○	○			○	○	○	
4	金光山岩跡	207	長野原町大字川原湯									
5	川原湯中原Ⅰ遺跡	16	長野原町大字川原湯									
6	石川原遺跡	17	長野原町大字川原湯		○	○			○	○	○	
7	川原湯中原Ⅲ遺跡	19	長野原町大字川原湯		○				○	○	○	
8	川原湯中原Ⅱ遺跡	18	長野原町大字川原湯						○			
9	北入遺跡	20	長野原町大字川原湯						○			
10	横壁勝沼遺跡	23	長野原町大字横壁		○				○	○	○	
11	横壁中村遺跡	24	長野原町大字横壁		○	○			○	○	○	
12	上野Ⅱ遺跡	22	長野原町大字横壁						○		○	
13	上野Ⅰ遺跡	21	長野原町大字横壁		○				○			
14	山根Ⅰ遺跡	26	長野原町大字横壁		○				○			
15	山根Ⅱ遺跡	28	長野原町大字横壁						○		○	
16	山根Ⅳ遺跡	30	長野原町大字横壁		○				○			
17	山根Ⅲ遺跡	29	長野原町大字横壁		○	○			○	○	○	
18	西久保Ⅰ遺跡	31	長野原町大字横壁		○	○			○	○	○	
19	丸岩城跡	34	長野原町大字横壁									丸屋城
20	石畑遺跡	210	長野原町大字川原畑		○	○	○		○		○	
21	石畑Ⅰ岩陰	10	長野原町大字川原畑		○							
22	二社平岩陰	11	長野原町大字川原畑									
23	二社平遺跡	209	長野原町大字川原畑		○	○						
24	温井Ⅱ遺跡	2	長野原町大字川原畑		○							
25	温井Ⅰ遺跡	1	長野原町大字川原畑		○				○			
26	三平Ⅰ遺跡	3	長野原町大字川原畑		○	○			○	○	○	
27	三平Ⅱ遺跡	4	長野原町大字川原畑		○				○	○		
28	上ノ平Ⅰ遺跡	5	長野原町大字川原畑		○				○	○	○	
29	上ノ平Ⅱ遺跡	6	長野原町大字川原畑									
30	三ツ堂岩陰	12	長野原町大字川原畑								○	
31	東宮遺跡	208	長野原町大字川原畑		○					○	○	
32	西宮遺跡	7	長野原町大字川原畑								○	
33	西宮岩陰	13	長野原町大字川原畑								○	
34	川原畑の宝篋印塔	15	長野原町大字川原畑								○	
35	久森沢Ⅰ岩陰群	53	長野原町大字林									
36	久森沢Ⅱ岩陰	54	長野原町大字林									
37	立馬Ⅰ遺跡	37	長野原町大字林		○	○			○	○	○	
38	立馬Ⅱ遺跡	213	長野原町大字林		○	○			○		○	
39	立馬Ⅲ遺跡	215	長野原町大字林		○				○	○	○	
40	花畑遺跡	205	長野原町大字林		○				○			
41	東原Ⅰ遺跡	38	長野原町大字林		○	○			○	○	○	
42	東原Ⅱ遺跡	39	長野原町大字林		○					○	○	
43	東原Ⅲ遺跡	40	長野原町大字林		○				○	○	○	
44	林の御塚	59	長野原町大字林		○							
45	上原Ⅰ遺跡	41	長野原町大字林		○	○	○		○		○	
46	林中原Ⅱ遺跡	46	長野原町大字林		○	○			○	○	○	
47	林中原Ⅰ遺跡	45	長野原町大字林		○				○	○	○	
48	上原Ⅲ遺跡	43	長野原町大字林		○	○			○	○	○	
49	上原Ⅱ遺跡	42	長野原町大字林		○				○			
50	上原Ⅳ遺跡	44	長野原町大字林		○	○	○		○	○	○	
51	林宮原遺跡	48	長野原町大字林				○		○	○	○	
52	林城		長野原町大字林									

No.	遺 跡 名	町遺跡番号	所 在 地	時 代								備 考	
				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世		
53	下田遺跡	47	長野原町大字林		○	○				○	○	○	
54	下原遺跡	204	長野原町大字林		○	○	○			○	○	○	
55	中棚の砦		長野原町大字林										
56	二反沢遺跡		長野原町大字林								○	○	
57	滝沢観音岩陰	55	長野原町大字林										
58	中棚Ⅰ遺跡	49	長野原町大字林		○					○	○	○	
59	中棚Ⅱ遺跡	203	長野原町大字林		○					○		○	
60	楡木Ⅰ遺跡	50	長野原町大字林		○					○	○	○	
61	楡木Ⅲ遺跡	202	長野原町大字林		○	○				○	○		
62	楡木Ⅱ遺跡	51	長野原町大字林		○					○	○	○	
63	蜂ッ沢岩陰	56	長野原町大字林										
64	御獄山岩陰	57	長野原町大字林										
a	真田道(赤岩通り)												近世初頭

部少輔が居住したという伝承がある。

戦国期後半に入ると、東吾妻の岩櫃城主斎藤憲次が上記4氏を幕下に加えたが、これに不満を持った鎌原幸重が武田信玄に働きかけて真田幸隆の吾妻侵攻の端緒をつくる。この真田氏と斎藤氏の攻防の中で斎藤氏が没落して吾妻は真田領となるが、羽尾氏も盛衰があり、一旦本家筋が途絶えた後、天正年間(A.D.1576-1593)に上杉氏の下で丸岩城(19)に拠った記録も残る。なお丸岩城へは後北条氏が西吾妻に侵攻する天正後期には、西吾妻諸勢が在番している。吾妻郡の東西を結ぶ道路は吾妻溪を避けて南北に迂回するが、第8図の中では北に迂回する真田道(赤岩通り)が見られ、本遺跡付近はこれらの街道からは外れるが、永禄(A.D.1558-1570)あるいは元亀(A.D.1570-1573)年間には海野長門守幸光が領し、後に真田昌幸が領したと伝えられる。

第8図に記した範囲でも中世の遺跡が散見される。前節において述べた安山岩溶岩から成るドーム形の丸岩山山頂にはY字形を呈する郭群から成る丸岩山城(19、丸岩の要害)は、北西にある柳沢城の詰城である。この丸岩城は主郭周囲と南に延びる、風除けと考察されている山城としては異常なほど高い土塁が特徴である。また林城(52)は全容が明瞭ではない城郭であるが、堀や石垣等の城郭遺構の他、城下遺構も確認されている。三平Ⅰ遺跡(26)、三平Ⅱ遺跡(27)、東原Ⅰ遺跡(41)、東原Ⅱ遺跡(42)、東原Ⅲ遺跡(43)、楡木Ⅱ遺跡(62)では掘立柱建物や土坑、畠跡が確認されている。また二反沢遺跡(56)では製鉄関連遺物の出土も見られ、石川原遺跡(6)では中世の可能性のある墓壙が確認されている。

7 近世

近世に入り本遺跡周辺は、沼田藩領として真田氏の支配を受けたが、延宝8(1680)年の真田信直の改易後は、天領あるいは旗本領となった。

中位・下位段丘面は広い範囲で天明3(1783)年の浅間山の噴火に伴う泥流に埋没しており、天明3年当時の集落の景観を観察することができた。遺跡によっては建物の建築材や道具類、生産物、そして被災者の人骨が出土することもある。このうち屋敷跡を含む集落址は石川原遺跡(6)、横壁中村遺跡(11)、東宮遺跡(31)、西宮遺跡(32)、下田遺跡(53)、楡木Ⅰ遺跡(60)で確認、調査されている。耕作遺構や用水路も道路遺構は上記の他、本遺跡等多数の遺跡で確認されている。また、横壁中村遺跡(11)、上ノ平Ⅰ遺跡(28)、林中原Ⅰ遺跡(47)、林中原Ⅱ遺跡(46)では墓壙が確認され、横壁中村遺跡(11)と川原畑の宝篋印塔(34)からは一字一石経が出土した。

【参考文献】

- 群馬県教育委員会(1983)『歴史の道調査報告書 吾妻の諸街道』
- 群馬県教育委員会(1988)『群馬県の中世城館跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2002)『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2003)『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2004)『久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』

第2章 遺跡を廻る環境

- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2005)『横壁中村遺跡(2)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2005)『川原湯勝沼遺跡(2)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2006)『横壁中村遺跡(3)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2006)『立馬Ⅱ遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2006)『上郷遺跡 廣石A遺跡
 二反沢遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2006)『横壁中村遺跡(4)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2006)『立馬Ⅰ遺跡』集
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2007)『下原遺跡Ⅱ』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2007)『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2007)『横壁中村遺跡(5)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2008)『山根Ⅲ遺跡(2) 上原Ⅳ
 遺跡 幸神遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2008)『榎木Ⅱ遺跡(1)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2008)『横壁中村遺跡(6)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2008)『横壁中村遺跡(7)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2008)『上ノ平Ⅰ遺跡(1)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2009)『立馬Ⅲ遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2009)『榎木Ⅱ遺跡(2)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2009)『横壁中村遺跡(8)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2009)『横壁中村遺跡(9)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2010)『横壁中村遺跡(10)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2010)『横壁中村遺跡(11)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2010)『東原Ⅰ遺跡 東原Ⅱ遺跡
 東原Ⅲ遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2011)『東宮遺跡(1)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2012)『横壁中村遺跡(12)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2012)『東宮遺跡(2)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2012)『榎木Ⅰ遺跡・上原Ⅳ遺
 跡(2)・西久保Ⅳ遺跡』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2013)『横壁中村遺跡(13)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2014)『長野原城跡 林中原Ⅰ
 遺跡』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2014)『横壁中村遺跡(14)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2015)『上原Ⅰ遺跡 上原Ⅲ遺
 跡 林宮原遺跡』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2016)『林中原Ⅱ遺跡(1)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2017)『上ノ平Ⅰ遺跡(2)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2017)『上原Ⅲ遺跡(2) 久々
 戸遺跡(3)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2017)『東宮遺跡(3)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2017)『下田遺跡(2)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2018)『東宮遺跡(4)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2018)『西宮遺跡(1) 西宮岩
 陰』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2018)『上ノ平Ⅰ遺跡(3)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2018)『川原湯中原Ⅲ遺跡』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2018)『石川原遺跡(1)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2018)『下湯原遺跡(1)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2018)『林中原Ⅱ遺跡(2)』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2016)『年報35』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2017)『年報36』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2018)『年報37』
 長野原町教育委員会(1990)『長野原町の遺跡』
 長野原町教育委員会(2004)『町内遺跡Ⅳ』
 長野原町教育委員会(2004)『林宮原遺跡Ⅱ』
 長野原町教育委員会(2006)『町内遺跡Ⅵ』
 長野原町教育委員会(2008)『町内遺跡Ⅶ』
 長野原町教育委員会(2009)『町内遺跡Ⅷ』
 長野原町教育委員会(2010)『町内遺跡Ⅸ』
 長野原町教育委員会(2011)『町内遺跡Ⅹ』
 長野原町教育委員会(2013)『町内遺跡ⅩⅡ』
 長野原町教育委員会(2013)『三平Ⅰ遺跡』
 長野原町教育委員会(2013)『町内遺跡ⅩⅢ』
 長野原町教育委員会(2014)『町内遺跡ⅩⅣ』
 長野原町教育委員会(2015)『林地区遺跡群』
 長野原町教育委員会(2016)『町内遺跡ⅩⅤ』
 長野原町教育委員会(2018)『町内遺跡ⅩⅦ』
 長野原町誌編集委員会(1976)『長野原町誌』上巻
 (有)平凡社地方資料センター(1987)『群馬県の地名』、日本歴史地
 名大系第10巻、平凡社



北より調査区周辺を望む

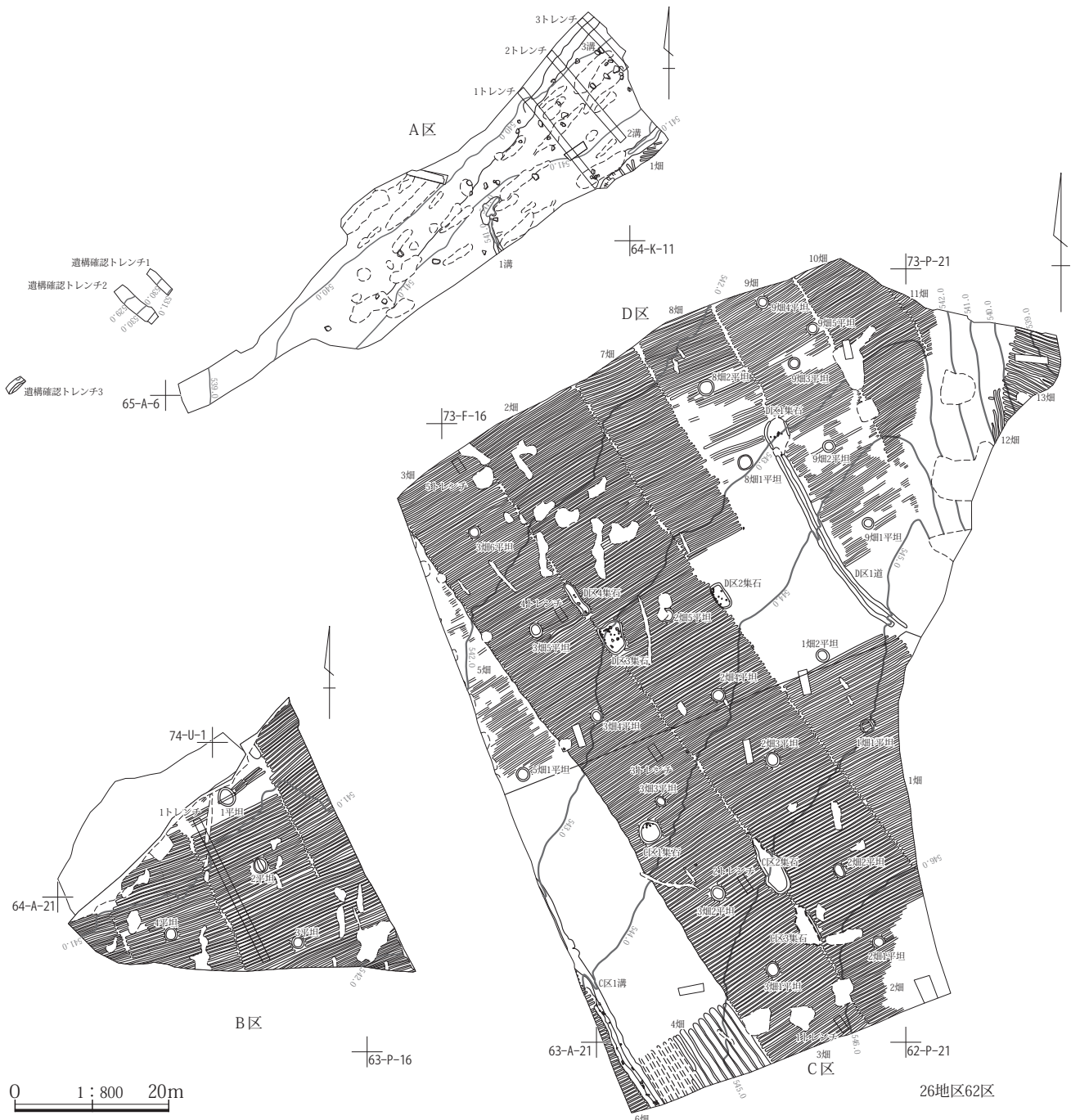
第3章 発見された遺構と遺物

第1節 平成28年度の調査成果概要

既に第1章第4節に記したように、平成28年度の発掘調査は、ハッ場ダム調査区域の26地区62～64・72・73区に所在する調査区を対象に実施された。この調査区は3区画に分かれており、便宜上東端の調査区を2区に分け

た「A区」「B区」「C区」「D区」の4区に分割している。これらの調査区は共に2面の調査面に対する調査が実施されている。

A・B・C・D各区共に、天明3(1783)年夏の浅間山の噴火(浅間焼け)に伴い降下した軽石(As-A)と、その後

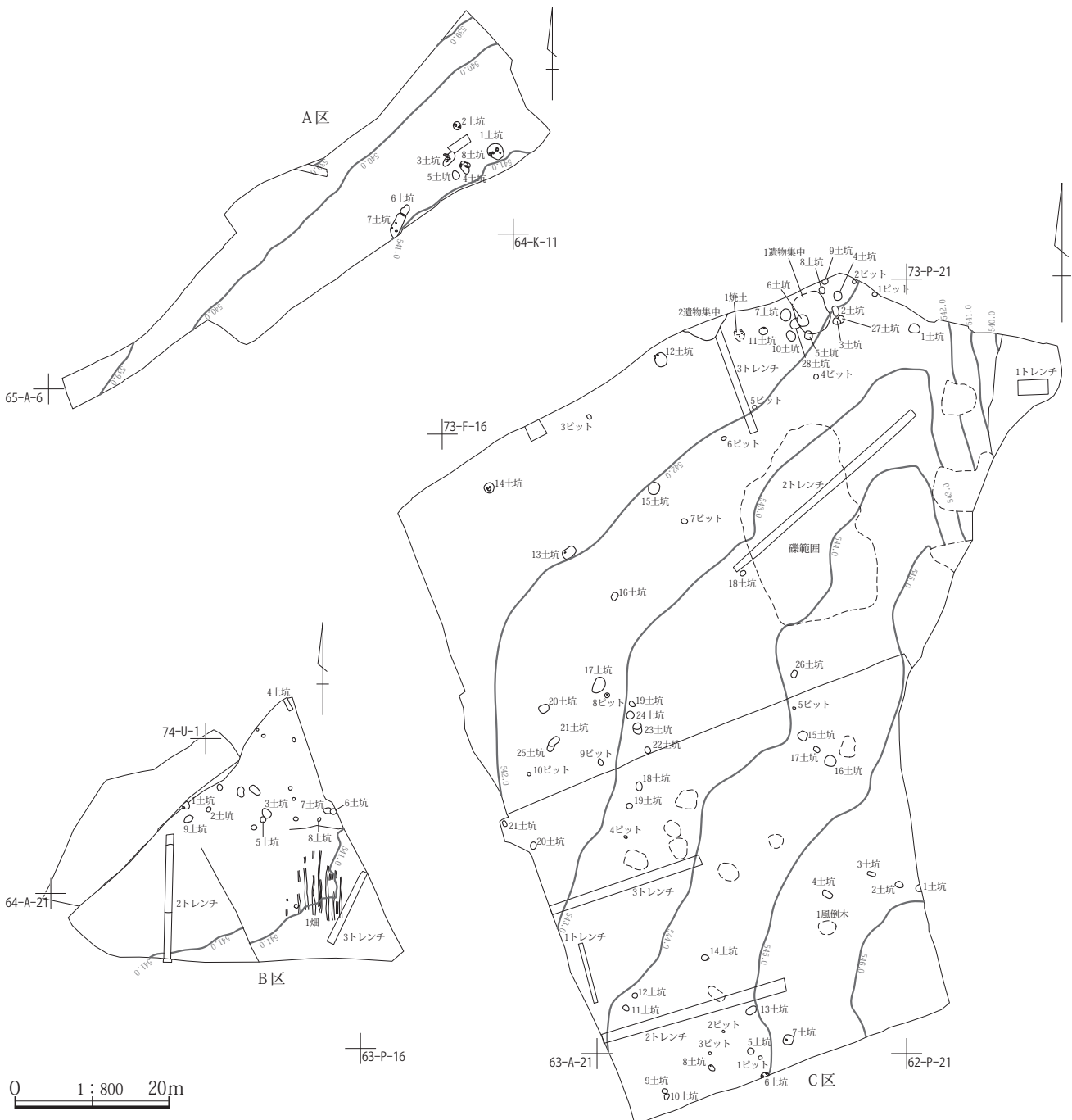


第9図 A～D区1面全体図

第3章 発見された遺構と遺物

表2 川原湯勝沼遺跡遺構数量一覧

区・面	遺物集中	土坑	ピット	溝	道	畑	集石	平坦面	焼土	風倒木	計
A区1面				3		1					4
A区2面		8									8
B区1面						2		4			6
B区2面		9				1					10
C区1面				1		5	3	8		1	18
C区2面		21	5								26
D区1面					1	10	4	12	1		28
D区2面	2	28	10								40
計	2	66	15	4	1	19	7	24	1	1	140



第10図 A～D区2面全体図

発生した泥流(天明泥流)に被覆、埋没した被災直前の耕地を以て1面としている。従って1面の遺構は浅間焼けのテフラと泥流で被覆された遺構であり、同時期の遺構群である。

しかし2面は地区によりその確認面は異なり、A区はローム漸移層(黄褐色土)上面、B区はAs-Kk軽石を含む黒褐色土層中、C・D区は礫混じりの暗黄褐色土層(ローム)上面を確認面とした。従ってA・C・D区の2面の遺構は、縄文時代以降、理論上、近世にかけての遺構で

あり、B区の2面の遺構は概ね中・近世の遺構である。なお、特にA・C・D区2面の遺構は、正確にその帰属時期を峻別することは困難であった。

本書は諸般の事情により、縄文時代の遺構・遺物を後に刊行する発掘調査報告書に報告することとした。しかし、上述のようにA・C・D区の2面の遺構を縄文時代の遺構と以降の遺構とを明確に峻別することが困難なため、明らかな近世面である各区1面と中世遺構の確認であるB区2面を対象として報告することとする。

第2節 1面の調査と発見された遺構と遺物

1 A区1面の遺構と遺物

(1) A区1面の概要

A区は26地区64区に位置する。

全体として、畑の分布範囲と思料されるが、遺構の分布は南側段丘崖沿いに限定され、過半の区画は泥流により削平されており、遺構の遺存状態は良くない。

以下に報告する遺構は畑1面と溝3条に過ぎない。また、調査区東端部付近と北端付近にも溝状の状態が確認されるが、調査時点で遺構としての認識はない

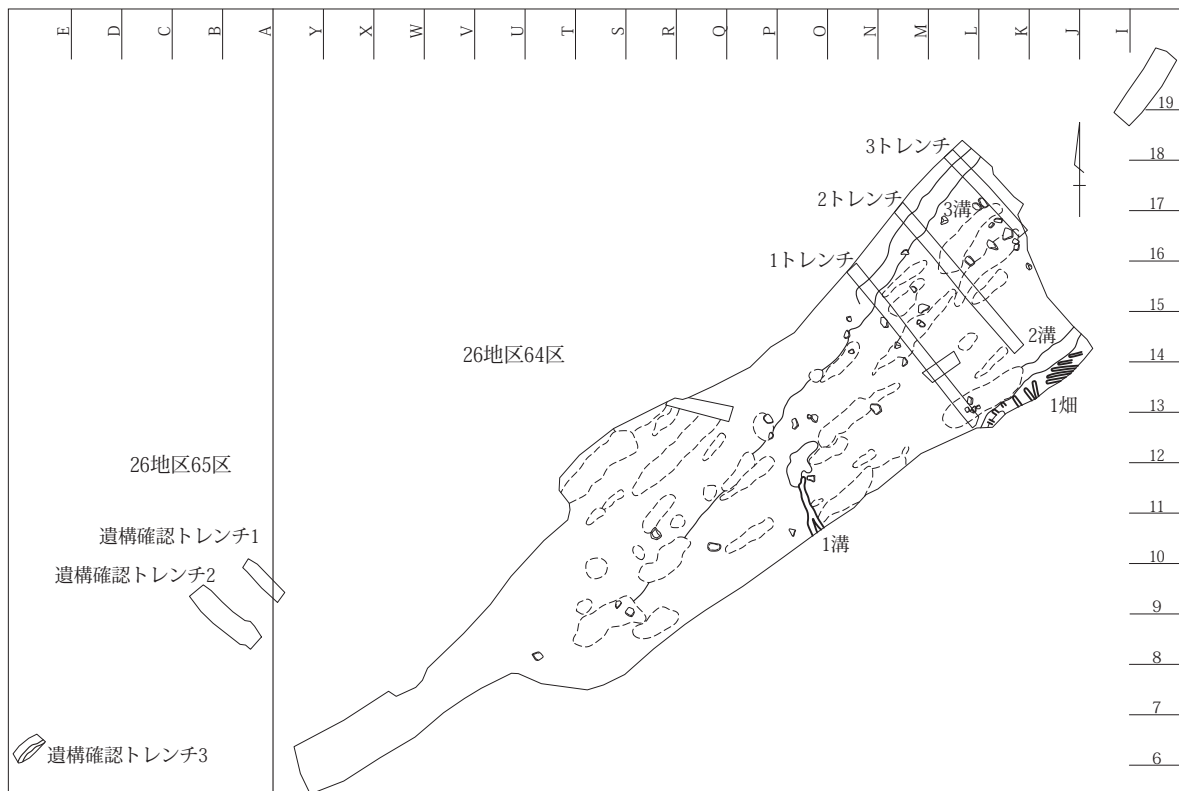
(2) 1号畑(第12図)

概要 1号畑はA区南東隅部に確認された畑である。本畑はその北端の一部が確認されたに過ぎず、遺存状態も良好ではない。

本畑は一括で報告するが、サクの方向の違いから東のA群と西のB群に大別される。

位置 本畑はA区南東隅部南側調査区際に在り、I～K-12～14グリッドに位置する。

(A群) I・J-13・14グリッド



第11図 A区1面全体図

(B群) J・K-12・13グリッド

規模・サク方位

A群 [規模]幅：3.28m 確認長：1.84m

[サク方位] N79° E

[サク]幅：0.19~0.25m(平均：0.212m)

サク底部-畝頂部高：-m

サク間：0.42~0.47m(平均：0.440)

B群 [規模]幅：5.96m 確認長：1.20m

[サク方位] N13~53° W

[サク]幅：0.26~0.30m(平均：0.283m)

サク底部-畝頂部高：-m

サク間：0.41~1.09m(平均：0.842)

重複 本畑は、A群、B群共に単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

覆土 本畑は天明泥流で覆われている。

構造 本畑は11条のサクで構成されているが、上述のよ

うに東西の2群に分けられる。

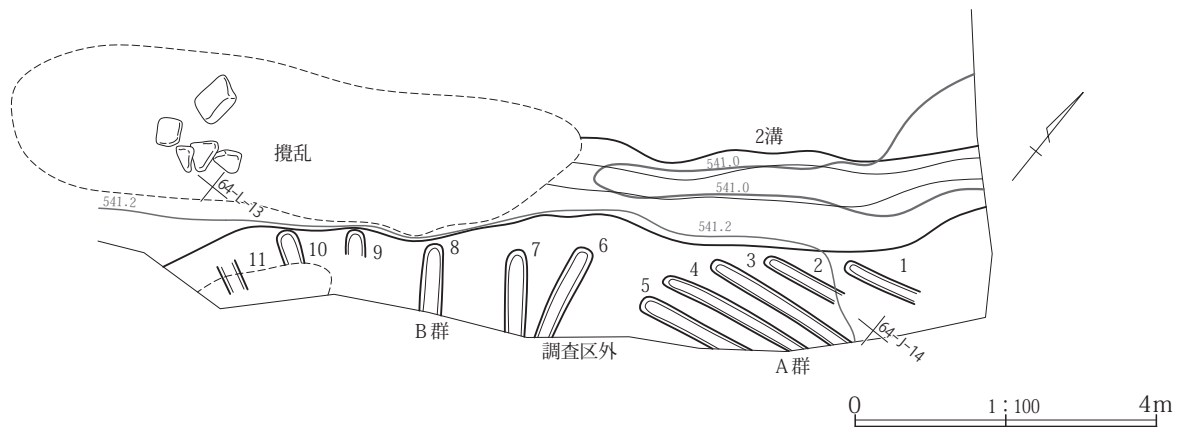
東側のA群は並行に走行するサク1~5の5条のサクから成る。

西側のB群はサク6~11の6条のサクから成るが、サク7・8がほぼ平行である以外は、放射状に開いて在る。それぞれのサクは、サク6がN13°W、サク7がN37°W、サク8がN33°W、サク9がN38°W、サク10がN53°W、サク11がN52°W方向の走行を呈する。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 本畑はその一部を調査したに過ぎないため、全容は詳らかでない。本畑のうちA群は本書に報告する他の区の畑と同様、平坦面に耕作された痕跡と思料されるが、B群は南側断崖に連なる地形に制約されて耕作されたものと想定される。

本畑は、これを覆うテフラと泥流から推して、天明3年の畑と判断される。



第12図 A区1号畑

表3 A区1号畑サク一覧

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	区分	備考(主軸方位)
1	1.07	0.19	-	A群	N79° E
2	1.12	0.20	-	A群	N79° E
3	2.08	0.21	-	A群	N79° E
4	2.03	0.21	-	A群	N79° E
5	1.35	0.25	-	A群	N79° E
6	1.32	0.29	-	B群	N13° W
7	1.12	0.30	-	B群	N37° W
8	0.91	0.30	-	B群	N33° W
9	0.37	0.26	-	B群	N38° W
10	0.45	0.29	-	B群	N53° W
11	0.40	0.26	-	B群	N52° W

-は計測不可

単位 (m)

表4 A区1号畑サク間一覧

サク間番号	サク間	サク間位置	区分	備考
1	0.45	1-2	A群	
2	0.42	2-3	A群	
3	0.42	3-4	A群	
4	0.47	4-5	A群	
5	0.77	6-7北	A群	
6	0.41	6-7南	B群	
7	1.09	7-8	B群	
8	1.05	8-9	B群	
9	0.87	9-10	B群	
10	0.86	10-11	B群	

単位 (m)

(3) 1号溝(第13図、PL. 1)

概要 1号溝はA区中部の南側調査区際に確認された。本溝はその北端部が確認されたに過ぎず、全容は詳らかにできなかった。掘削深度も浅く、遺存状況も良好とはいえない。

位置 本溝はA区中央部調査区南際に在り、O-10・11グリッドに位置する。

規模・サク方位

[規模] 確認長：4.54m 幅：0.51m 深さ：0.11m
 [サク方位] 南：N35°W 中：N23°W 北：N7°E
 分流[規模] 長さ：1.78m 幅：0.52m 深さ：0.13m
 [サク方位] 中・南：N22°W 北：N4°W

重複 本溝は、他の遺構との重複は見られなかった。

覆土 溝にはAs-A軽石が堆積し、その上は天明泥流で覆われている。

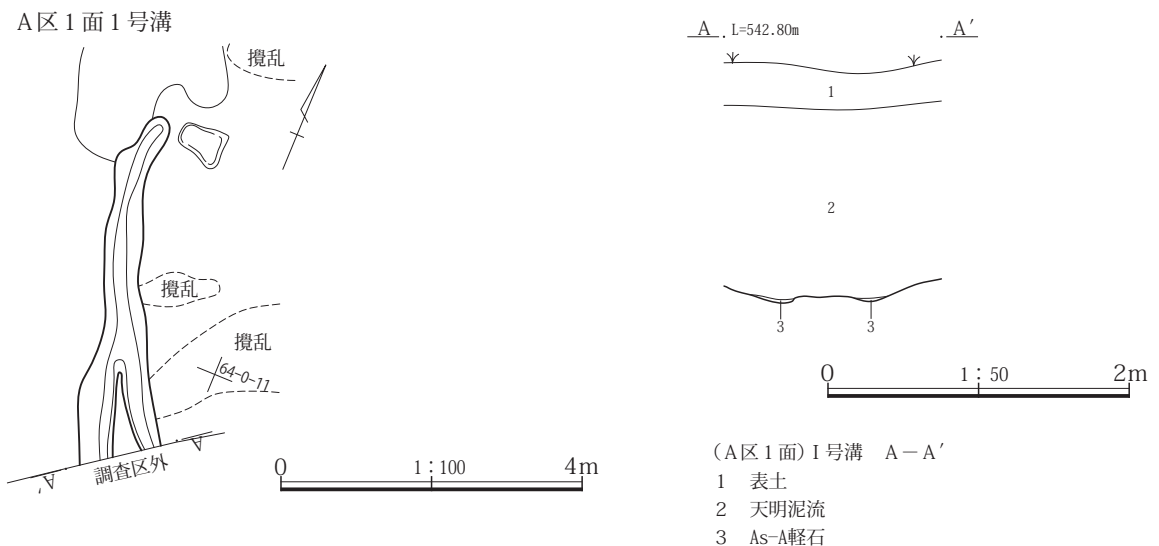
構造 本溝は南側より調査区に入り、時計回りに緩やかに弧を描くプランで走行して、途絶える。底面の横断面形は丸底状を呈し、壁面は緩やかに広がる。勾配は1.98%と平坦に近い。

本溝は南寄り、掘削形態が近似する分流が西側に分岐する。その勾配は6.07%を測る。

遺物 本溝からの出土遺物得られなかった。

所見 本溝はその一部を調査したに過ぎず、全容は詳らかでない。本溝の掘削目的は明らかにできないが、分岐するその平面形態から推して、土地の境界を成すものとは思えず、寧ろ調査区南側からの降水時等の非恒常的湧水の処理に伴うものである可能性が考慮される。

本溝は、これを覆うテフラと泥流から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。



第13図 A区1号溝

(4) 2号溝(第14図)

概要 本溝はA区南東隅部近くに位置する、溝遺構である。本溝の東部は調査区外に在り、また西部は南壁を除いて攪乱により壊され、西端は南側調査区外に抜けていて全容は詳らかにすることはできなかった。

位置 本溝はA区南東隅部南側調査区際に在り、I~K-13・14グリッドに位置する。

規模・サク方位

[規模] 確認長：10.95m 幅：0.8~1.3m
 深さ：0.18~0.3m

[サク方位] N50°E

重複 本溝は、他の遺構との重複は見られなかった。

なお、南に1号畑が近接して在る。

覆土 本溝は天明泥流に覆われていた。

構造 本溝は上述のように西半部は過半が壊されているため、全容は詳らかにできなかった。

本溝は東側より調査区に入り、直線的に走行するが西端でS25°W方向に折れ、1.3m程直線的に走行した後、南側調査区外に抜けている。

また、本溝の北方は南肩に比し20cm低くなっている。

第3章 発見された遺構と遺物

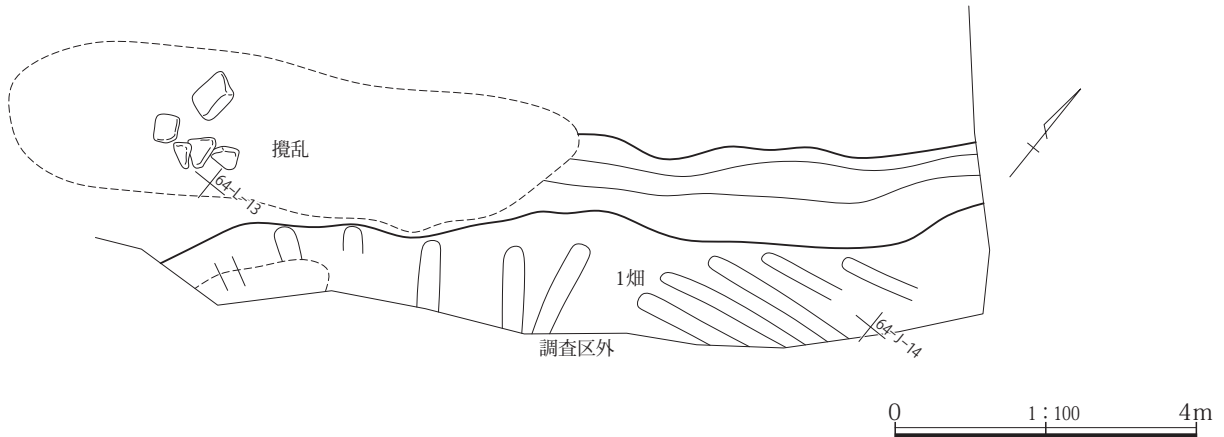
底面は西側の方が僅かに高いが、勾配は1.10%と平坦に近い状態にある。

遺物 本溝からの出土遺物は得られなかった。

所見 本溝はその一部を調査したに過ぎず、全容は詳らかでない。本溝の掘削目的は明らかにできないが、傾斜

部に沿って掘削された状態から推して、土地区画を目的として掘削されたものと思料される。

本溝は、これを覆うテフラと泥流から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。



第14図 A区2号溝

(5) 3号溝(第15図)

概要 本溝はA区の調査区北東端から調査区に中央付近にかけて掘削された溝遺構である。本溝の中・西部は、北壁或は底面が失われているため、全容を詳らかにすることはできなかった。

位置 本溝はA区北東隅部から西部やや南寄りに位置する。K～R-9～18グリッドに位置する。

規模・サク方位

[規模] 確認長：44.8m 幅：1.8m 深さ：0.27m

[サク方位] N38° E

重複 本溝は、他の遺構との重複は見られなかった。

覆土 本溝は天明泥流に覆われていたことが確認されている。

構造 本溝は北西方向に18.46%の勾配で傾斜する土地に西上から東下に掘削されている。

本溝は東側より調査区に入り、直線的に走行する。東端より15m付近以西では北壁が失われている。傾斜地にやや斜方向に掘削されているため、南壁の方が北壁より若干高くなっている。

底面は西側の方が僅かに高いが、勾配は5.00%と緩傾斜を呈している。

遺物 本溝からの出土遺物得られなかった。

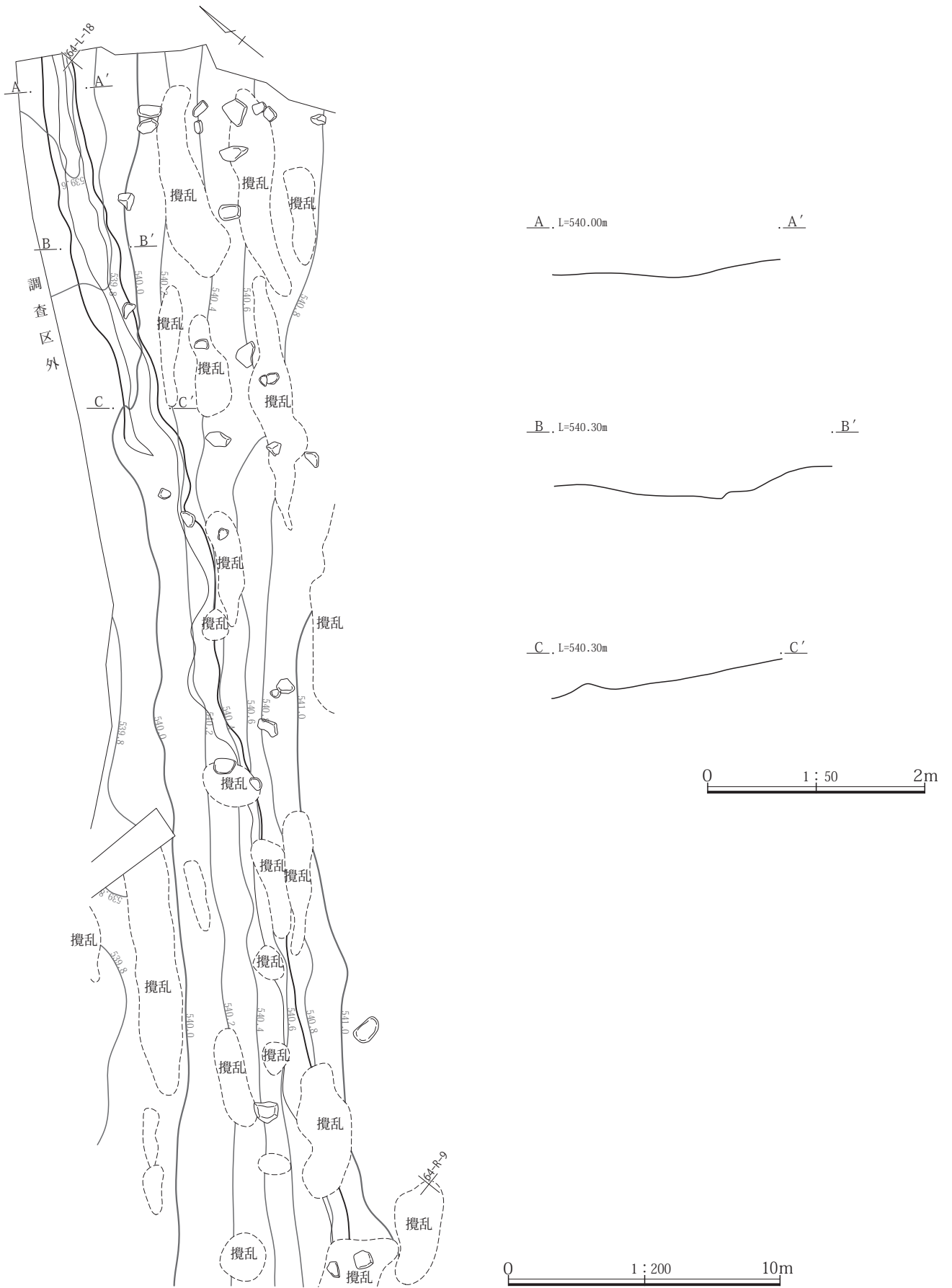
所見 本溝はその一部を調査したに過ぎず、全容は詳らかでない。本溝の掘削目的は明らかにできなかったが、傾斜面に比較的沿って掘削された状態から推して、土地区画を目的としたものと思料される。

本溝は、これを覆うテフラと泥流から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。

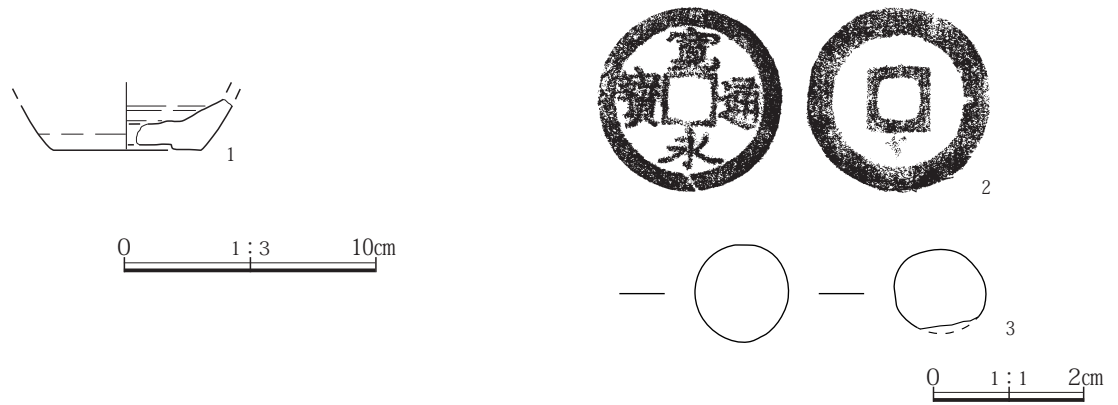
(6) A区の出土遺物(第16図、PL.14)

概要 A区においては、天明泥流下から鉛製鉄砲玉(3)と破碎された銅製キセル片(4)の出土を見た。また2面の調査時の出土遺物であるが徳利と思われる瀬戸美濃陶器片(1)と古寛永(2)の出土が見られた他、国産磁器1片、国産施釉陶器2片、詳細不明の陶磁器類1片が出土している。

所見 これらはいずれも近世の所産と判断される。



第15図 A区3号溝



第16図 A区出土遺物

2 B区1面の遺構と遺物

(1) B区1面の概要

B区は26地区63・73区に位置する。

全体として、畑群から成る区域である。畑は細分も可能であるが、サクの不連続状態を以て西の「1号畑」、東の「2号畑」の2区画に大別し、それぞれに報告する。な

お、サクの途絶箇所等から1号畑はA・B・Cの3区画、2号畑も同様にA・B・Cの3区画に区画されている。

この他、1号畑Cと2号畑Aに各1箇所、2号畑Bに2箇所の円形の平坦面が確認された。

また、B区はその北側に平成9年度調査区域(以下「H9」とする)が接しており、同区域西側のH9-2号畑が本報告のB区1号畑B・C群と、H9-1号畑が同じく



第17図 B区1面全体図

2号畑B群の北西隅サク35～41に連なる畑と判断される。またB区はその東側が平成16年度調査区(以下「H16」とする)に接し、H16-K A11-1・2号畑が本報告のB区2号畑C群に、H16-K A11-3号畑が2号畑A・C群に、H16-K A11-4号畑が2号畑A群に接続するものである。

なお、B区1面は全体的に3.43%の勾配で北北西方向に傾斜しているが、東端部付近は北東方向に5.41%の勾配で傾斜している。

(2) 1号畑(第18図、PL. 2・3)

概要 1号畑はB区西部に確認された畑である。本畑は、調査区を南北に縦断する東側の2号畑とのサクの不連続状態を以て地境となし、異なる筆として分かれたものと判断した。

また本畑のサクはいずれも東北東-西南西方向に掘削されている。しかし本畑南部のサクは東西方向に途切れることなく掘削されるものの、中・北部のサクは西寄りではサクの不連続が見られ、その不連続は北北西-南南東に直線的なラインを見せている。そこで本書では、南部のサク群をA群、中西部のものをB群、中東・北東部のものをC群とそれぞれ表記、報告することとする。

位置 本畑はB区西部に在り、63区T～Y-18～24グリッドに位置する。

(A群) T～W-18・19グリッド

(B群) W～Y-18～20グリッド

(C群) T～X-18～23グリッド

規模・サク方位 [規模]確認範囲：20.5×19.0m

A群 [規模]確認幅：6.0m 確認長：15.3m

[サク方位] N75° E

[サク]幅：0.24～0.37m(平均：0.30m)

サク底部-畝頂部高：-m

サク間：0.35～0.56m(平均：0.456)

B群 [規模]確認幅：6.9m 確認長：16.1m

[サク方位] N70° E

[サク]幅：0.20～0.34m(平均：0.244m)

サク底部-畝頂部高：-m

サク間：0.32～0.50m(平均：0.394)

C群 [規模]確認幅：15.4m 確認長：11.3m

[サク方位] N72° E

[サク]幅：0.18～0.37m(平均：0.292m)

サク底部-畝頂部高：-m

サク間：0.35～1.01m(平均：0.479)

重複 本畑は、A群、B群は単独で在り、他の遺構との重複は見られなかったが、C群はその南部に4号平坦面が設けられ、本来は1条のサクとなるサク3・4・5、6・7、8・9、10は4号平坦面で分かれたれている。

覆土 本畑のサクにはAs-A軽石が降下堆積し、全体的に天明泥流で覆われている。

構造 本畑は67条のサクで構成されているが、上述のようにA・B・Cの3群に分けた。A群は12条、B群は17条、C群は38条のサクで構成されている。なお、本畑は北北西方向に傾斜する土地に耕作されたものである。

また、このうちB群の北側とC群の西北部のサク22・23・24の西端が途絶えていることから、B群とC群西端部にかけて平坦面が形成されていた可能性が考慮される。

サクの掘削はおおむね並行であるが、A・C群では東部のサクとサクの間隔が、西部に対し若干開く箇所が見られる。

上述のB群とC群との境はN24°W方向を向き、長さ6.5m程を測る。なお、1号畑と2号畑の境は、中・北部はN22°W、南部はN17°W方向を向くラインを成している。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 上述のように本畑はH9-2号畑に続くものであるが、1号畑のB・C群の境を成すサクの途絶はH9-2号畑には反映されておらず、B群の北側でC群のサク25付近以北は、A群同様一続きのサクとして掘削されていたものと思料される。

本畑は、これを覆うテフラと泥流から推して、天明3年の畑と判断される。

(3) 2号畑(第18図、PL. 2・3)

概要 2号畑はB区東部に在る畑である。

本畑のサクはいずれも東北東—西南西方向に掘削されているが、1号畑と同様、本畑南部のサクは東西方向に途切れることなく掘削されているが、中・北部のサクは、東寄り以北北西—南南東に直線的なラインでサクの不連続が見られる。そこで本書では、南部のサク群をA群、中西部のものをB群、中東・北東部のものをC群とそれぞれ表記、報告することとする。

位置 本畑はB区東部に在り、63区N～U-18～25グリッド、73区Q～S-1・2グリッドに位置する。

(A群) 63区N～T-18～22グリッド

(B群) 63区O～U-20～25グリッド

(C群) 63区P～S-21～25、73区Q～S-1・2グリッド

規模・サク方位 [規模]確認範囲：38.0×19.2m

A群 [規模]確認幅：19.9m 確認長：16.2m

[サク方位]N65°E

サク2～7：N71°E

[サク]幅：0.18～0.04m(平均：0.31m)

深：0.03～0.07m(平均：0.049m)

[サク底部—畝頂部高] 0.05～0.10m

(平均：0.078m)

[サク間] 0.32～0.65m(平均：0.442)

B群 [規模]確認幅：13.5m 確認長：16.2m

[サク方位]N63°E

サク35～40：N52°E

[サク]幅：0.21～0.48m(平均：0.314m)

深：0.01～0.07m(平均：0.0323m)

[サク底部—畝頂部高] 0.04～0.09m

(平均：0.057m)

[サク間] 0.36～1.31m(平均：0.485)

C群 [規模]確認幅：9.7m 確認長：21.6m

[サク方位]N54°E

サク1～3：N65°E

[サク]幅：0.18～0.43m(平均：0.328m)

[サク底部—畝頂部高] —m

[サク間] 0.30～0.75m(平均：0.464)

重複 本畑は、C群は単独で在り、他の遺構との重複は見られなかったが、A群西部に3号平坦面、B群の中心

線上の北部に1号平坦面、南部に2号平坦面が重複する。これにより、本来は1条のサクとなるA群のサク21・22・23・24、25・26、27・28は3号平坦面、B群のサク8・9、10・11、12・13、14・15、16・17は2号平坦面で分かれ、B群のサク35・37・39の西端は1号平坦面により途切れている。

覆土 本畑のサクにはAs-A軽石が降下堆積し、全体的に天明泥流で覆われている。

構造 本畑は129条のサクで構成されているが、上述のようにA・B・Cの3群に分けた。A群は41条、B群は41条、C群は47条のサクで構成され、全体的にそれぞれのサクは近接しておおむね並行に配置されている。なお、2号畑の中西部は北北西方向に傾斜する土地に耕作されたものであるが、東部、即ちA群東部とC群は北東方向に傾斜する地形上に耕作されたものである。

A群のうち(恐らくはサク1～12を含む)サク13～19の西側が若干南に傾いており、全域が直線的なサク20～41と区分することができる。

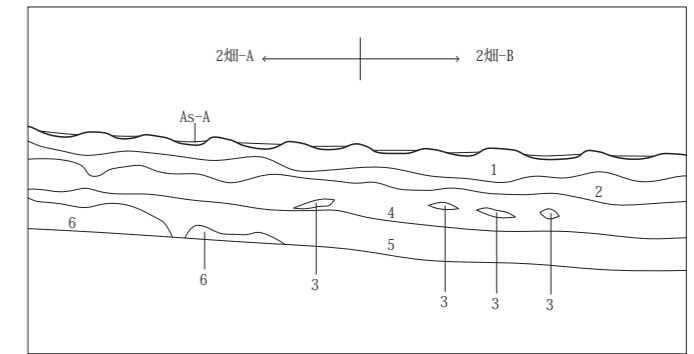
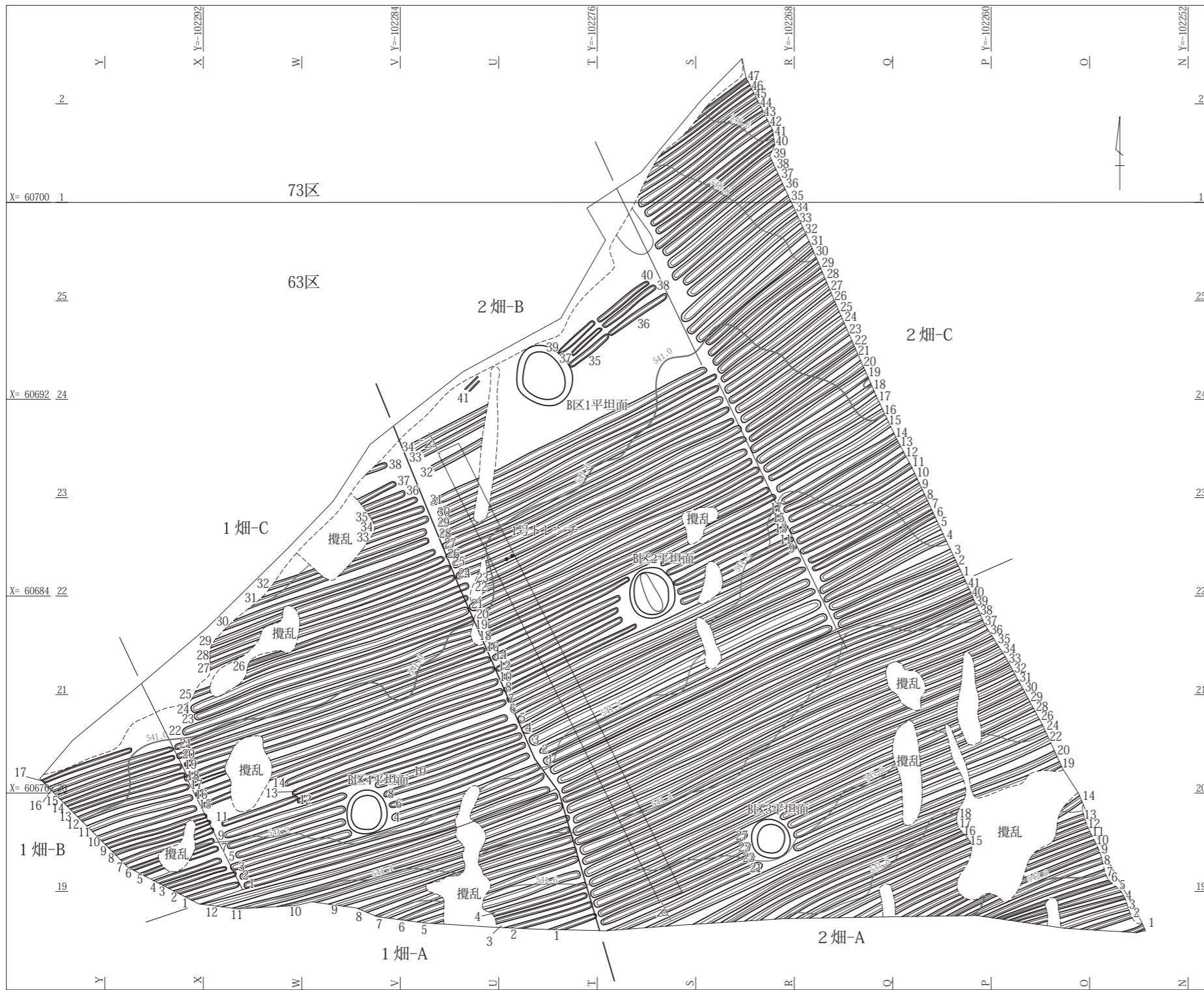
B群ではサク1～31はまとまって在るが、サク32～41はサク31から5～15m以上離れて在り、サク32～34の走行がサク1～31の走行に近いN65°Eであるのに対し、サク35～41はN51°Eと異なった角度である。またサク35～40は東西に途切れて在り、西側のサク35・37・39、東側のサク36・38・40に分けられている。

C群は若干の走行方向の異なりや、幅員の相違による細かいグループ分けができる。そのグループはサク1～3、4・5、6、7・8、9～13、14～20、21～26、27～31、32・33、34～39、40～47という11グループほどである。

上述のB群とC群との境はN26°W方向を向く直線的なものである。

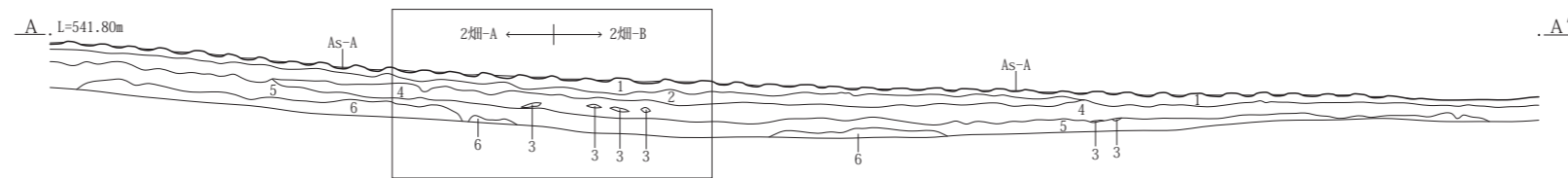
遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 既に述べたように本畑の北側はH9-2号畑に続き、東側はH16-KA11-1～4畑に続くものである。このうちH9-2号畑の走行方向は、本報告の2号畑のサク35～41に近似するが、その位置から推して、H9-2号畑に続くものは本報告の2号畑のサク41であろうと判断される。なお、平成9年度調査域においては、本報告2号畑のサク35～40に続く位置にサクは確認されていない。



(B区1面)1号トレンチ A-A'

- 1 黒色土 天明畑耕土。
- 2 黒褐色土 鉄分、角礫多く含む。山からの崩落土か。
- 3 黒褐色土 黒味あり細粒でやや締まりあり。鉄分凝集みられる。
- 4 灰褐色土 As-Kkか。微細粒土。
- 5 黒褐色土 小礫わずかに含み、細粒でローム土若干含む。
- 6 黄褐色土 ロームの二次堆積層か。



第18図 B区1・2号畑

また、平成16年度調査域に確認されたH16-K A11-1号畑は本報告2号畑C群のサク32~47の位置に繋がっており、H16-K A11-2号畑は本報告2号畑C群のサク9~31の位置に、H16-K A11-3号畑は本報告2号畑A群のサク14~41とC群のサク1~8の位置に繋がる。またH16-K A11-4号畑は本報告2号畑A群のサク1~13の位置に繋がるものと判断される。しかし、2号畑A群とC群の境はH16-K A11-3号畑に反映されていないため、畑の分割所見については再考が必要と思われる。

なお、H16-K A11-1~3号畑の南端(本報告2号畑C群サク32~35、同サク9~12、A群サク14~17の延長部)にH16-K A11-1~3号平坦面、2号畑A群サク17~22の延長部にH16-K A11-4号平坦面が設けられている。これらH16-K A11-1~4号平坦面は、後述する本報告の1~3号平坦面と同様、直線的な配列を呈する。

本畑は、これを覆うテフラと泥流から推して、天明3年の畑と判断される。

表5 B区畑一覧

単位 (m)

畑番号	地区	区	所在グリッド	検出規模		検出サク数	主軸方位	備考
				検出長さ(北南軸)	検出長さ(東西軸)			
1-A	26	63	T~X-18・19	6.0	15.3	12	N75° E	
1-B	26	63	W~Y-18~20	6.9	6.1	17	N70° E	
1-C	26	63	T~X-19~23	15.4	11.3	38	N72° E	
2-A	26	63	N~T-18~22	16.2	19.9	41	N71° E N65° E	サク番号2~7
2-B	26	63	O~U-20~25	16.2	13.5	41	N63° E N52° E	サク番号35~40
2-C	26	63・73	P~S- [63] 21 ~ [73] 2	21.6	9.7	47	N65° E N54° E	サク番号1~3

表6 B区1-A号畑サク一覧

単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	2.02	0.24	—	
2	3.70	0.27	—	
3	3.85	0.25	—	
4	(4.01)	0.28	—	攪乱で切られる
5	(6.84)	0.37	—	攪乱で切られる
6	(7.69)	0.30	—	攪乱で切られる
7	(8.58)	0.34	—	攪乱で切られる
8	(9.18)	0.32	—	攪乱で切られる
9	(10.20)	0.31	—	攪乱で切られる
10	(12.36)	0.27	—	攪乱で切られる
11	(14.04)	0.35	—	攪乱で切られる
12	(15.12)	0.31	—	攪乱で切られる

—は計測不可
()内寸法は推定長さ

表7 B区1-A号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間番号	サク間	サク間位置	備考
1	0.52	1-2	
2	0.45	2-3	
3	0.35	3-4	
4	0.56	4-5	
5	0.55	5-6	
6	0.41	6-7	
7	0.48	7-8	
8	0.37	8-9	
9	0.38	9-10	
10	0.50	10-11	
11	0.45	11-12	

表8 B区1-B号畑サク一覧

単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	2.18	0.24	—	
2	2.66	0.20	—	
3	2.62	0.22	—	
4	2.84	0.24	—	
5	(3.35)	0.23	—	攪乱で切られる
6	(3.63)	0.21	—	攪乱で切られる
7	(3.98)	0.26	—	攪乱で切られる
8	(4.20)	0.23	—	攪乱で切られる
9	4.28	0.22	—	
10	4.17	0.28	—	
11	4.48	0.34	—	
12	4.70	0.28	—	
13	4.92	0.22	—	
14	5.03	0.27	—	
15	5.05	0.25	—	
16	5.28	0.25	—	
17	3.91	0.21	—	

—は計測不可
()内寸法は推定長さ

表9 B区1-B号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間番号	サク間	サク間位置	備考
1	0.40	1-2	
2	0.35	2-3	
3	0.35	3-4	
4	0.40	4-5	
5	0.33	5-6	
6	0.39	6-7	
7	0.36	7-8	
8	0.32	8-9	
9	0.40	9-10	
10	0.47	10-11	
11	0.47	11-12	
12	0.50	12-13	
13	0.38	13-14	
14	0.42	14-15	
15	0.34	15-16	
16	0.43	16-17	

第3章 発見された遺構と遺物

表10 B区1-C号畑サク一覧

単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	13.04	0.34	—	
2	13.08	0.30	—	
3	5.15	0.31	—	
4	6.40	0.34	—	
5	4.68	0.30	—	
6	6.03	0.28	—	
7	5.05	0.32	—	
8	6.12	0.29	—	
9	5.24	0.33	—	
10	6.30	0.33	—	
11	3.30	0.25	—	
12	9.45	0.27	—	
13	9.30	0.30	—	
14	9.62	0.33	—	
15	(13.12)	0.28	—	攪乱で切られる
16	(13.18)	0.30	—	攪乱で切られる
17	(1.46)	0.18	—	攪乱で切られる
18	(13.43)	0.31	—	攪乱で切られる
19	13.21	0.34	—	
20	13.32	0.30	—	
21	12.91	0.30	—	
22	12.50	0.37	—	
23	12.08	0.29	—	
24	12.02	0.36	—	
25	(12.00)	0.28	—	攪乱で切られる
26	9.60	0.25	—	
27	(10.61)	0.29	—	攪乱で切られる
28	(10.45)	0.28	—	攪乱で切られる
29	(10.07)	0.29	—	攪乱で切られる
30	9.14	0.28	—	
31	(7.80)	0.28	—	攪乱で切られる
32	(6.84)	0.30	—	攪乱で切られる
33	2.55	0.27	—	
34	2.12	0.26	—	
35	2.08	0.25	—	
36	1.80	0.25	—	
37	1.68	0.24	—	
38	0.85	0.25	—	

—は計測不可
○内寸法は推定長さ

表12 B区2-A号畑サク一覧

単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	0.87	0.21	—	
2	2.10	0.22	—	
3	2.89	0.31	—	
4	(4.21)	0.25	—	攪乱で切られる
5	(4.54)	0.27	—	攪乱で切られる
6	4.85	0.18	—	
7	5.26	0.27	—	
8	6.02	0.29	—	
9	(6.73)	0.21	—	攪乱で切られる
10	(7.42)	0.22	—	攪乱で切られる
11	(8.36)	0.26	—	攪乱で切られる
12	(8.57)	0.24	—	攪乱で切られる
13	(10.22)	0.30	—	攪乱で切られる
14	(11.60)	0.29	—	攪乱で切られる
15	7.69	0.28	—	
16	8.40	0.26	—	
17	9.45	0.30	—	
18	10.62	0.27	—	
19	(16.29)	0.33	—	攪乱で切られる
20	(18.12)	0.39	—	攪乱で切られる
21	6.84	0.30	—	
22	(11.31)	0.37	—	攪乱で切られる
23	6.81	0.28	0.04	
24	(11.09)	0.34	—	攪乱で切られる
25	6.80	0.34	0.03	
26	(11.12)	0.36	—	攪乱で切られる
27	6.88	0.33	0.04	
28	(11.20)	0.35	—	攪乱で切られる
29	(19.47)	0.36	0.06	
30	(19.32)	0.34	0.06	
31	(19.30)	0.36	0.07	
32	(19.14)	0.35	0.05	
33	(19.01)	0.40	0.04	
34	(18.99)	0.32	0.04	
35	(18.82)	0.38	0.06	
36	(18.56)	0.36	0.07	
37	18.60	0.38	0.05	
38	18.58	0.34	0.04	
39	18.48	0.33	0.06	
40	18.45	0.39	0.05	
41	18.54	0.38	0.03	

—は計測不可
○内寸法は推定長さ

表11 B区1-C号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間番号	サク間	サク間位置	備考
1	0.45	1-2	西側端
2	0.43	2-3	西側端
3	0.43	3-5	西側端
4	0.45	5-7	西側端
5	0.46	7-9	西側端
6	0.49	9-11	西側端
7	1.01	11-15	西側端
8	0.45	15-16	西側端
9	0.48	16-17	西側端
10	0.35	17-18	西側端
11	0.41	1-2	東側端
12	0.46	2-4	東側端
13	0.55	4-6	東側端
14	0.55	6-8	東側端
15	0.46	8-10	東側端
16	0.44	10-12	東側端
17	0.47	12-13	東側端
18	0.62	13-14	東側端
19	0.46	14-15	東側端
20	0.44	15-16	東側端
21	0.50	16-18	東側端
22	0.45	18-19	東側端
23	0.39	19-20	東側端
24	0.40	20-21	東側端
25	0.52	21-22	東側端
26	0.35	22-23	東側端
27	0.46	23-24	東側端
28	0.42	24-25	東側端
29	0.48	25-26	東側端
30	0.48	26-27	東側端
31	0.44	27-28	東側端
32	0.45	28-29	東側端
33	0.41	29-30	東側端
34	0.56	30-31	東側端
35	0.38	31-32	東側端
36	0.45	32-33	東側端
37	0.48	33-34	東側端
38	0.40	34-35	東側端
39	0.42	35-36	東側端
40	0.51	36-37	東側端
41	0.85	37-38	東側端

表13 B区2-A号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間番号	サク間	サク間位置	備考
1	0.65	1-2	
2	0.43	2-3	
3	0.40	3-4	
4	0.39	4-5	
5	0.38	5-6	
6	0.42	6-7	
7	0.50	7-8	
8	0.38	8-9	
9	0.40	9-10	
10	0.39	10-11	
11	0.40	11-12	
12	0.38	12-13	
13	0.50	13-14	
14	0.40	14-15	
15	0.40	15-16	
16	0.37	16-17	
17	0.38	17-18	
18	0.41	18-19	
19	0.43	19-20	
20	0.61	20-22	
21	0.54	22-24	
22	0.56	24-26	
23	0.44	26-28	
24	0.46	28-29	
25	0.43	29-30	
26	0.40	30-31	
27	0.46	31-32	
28	0.38	32-33	
29	0.49	33-34	
30	0.40	34-35	
31	0.42	35-36	
32	0.50	36-37	
33	0.49	37-38	
34	0.45	38-39	
35	0.32	39-40	
36	0.40	40-41	
37	0.46	19-20	3平坦東側
38	0.53	20-22	3平坦東側
39	0.45	22-24	3平坦東側
40	0.49	24-26	3平坦東側
41	0.41	26-28	3平坦東側
42	0.40	28-29	3平坦東側
43	0.50	19-20	3平坦西側
44	0.50	20-21	3平坦西側
45	0.45	21-23	3平坦西側
46	0.45	23-25	3平坦西側
47	0.47	25-27	3平坦西側
48	0.41	27-29	3平坦西側
49	0.42	29-30	3平坦西側

第2節 1面の調査と発見された遺構と遺物

表14 B区2-B号畑サク一覧 単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	12.91	0.38	0.05	
2	12.90	0.36	0.04	
3	(13.08)	0.48	0.07	攪乱で切られる
4	(13.18)	0.40	0.04	攪乱で切られる
5	(13.11)	0.32	0.03	攪乱で切られる
6	(13.31)	0.32	0.05	攪乱で切られる
7	13.22	0.39	0.02	
8	6.02	0.21	0.03	
9	(5.20)	0.24	—	攪乱で切られる
10	5.41	0.29	0.04	
11	(5.18)	0.23	—	攪乱で切られる
12	5.53	0.26	0.02	
13	(5.19)	0.24	—	攪乱で切られる
14	5.74	0.28	0.02	
15	5.28	0.28	—	
16	6.38	0.27	0.03	
17	5.40	0.24	—	
18	(12.93)	0.32	0.04	攪乱で切られる
19	(12.61)	0.30	0.02	攪乱で切られる
20	(12.48)	0.35	0.03	攪乱で切られる
21	13.04	0.34	0.04	
22	12.08	0.32	0.02	
23	11.75	0.38	0.04	
24	13.05	0.32	0.03	
25	12.98	0.36	0.04	
26	12.96	0.30	0.04	
27	12.90	0.33	0.03	
28	12.72	0.32	0.02	
29	(12.67)	0.32	0.02	攪乱で切られる
30	(12.62)	0.33	0.02	攪乱で切られる
31	(12.45)	0.37	0.01	攪乱で切られる
32	2.40	0.27	—	
33	2.94	0.28	—	
34	3.38	0.30	—	
35	2.00	0.24	—	
36	2.85	0.25	—	
37	1.59	0.18	—	
38	2.70	0.24	—	
39	1.88	0.25	—	
40	2.59	0.25	—	
41	0.76	0.20	—	

—は計測不可
○内寸法は推定長さ

表16 B区2-C号畑サク一覧 単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	5.42	0.34	—	
2	5.44	0.30	—	
3	5.47	0.37	—	
4	5.51	0.32	—	
5	5.52	0.38	—	
6	5.29	0.38	—	
7	5.44	0.36	—	
8	5.42	0.30	—	
9	5.58	0.33	—	
10	5.51	0.32	—	
11	5.58	0.29	—	
12	5.38	0.30	—	
13	5.40	0.31	—	
14	5.33	0.34	—	
15	5.30	0.35	—	
16	5.40	0.36	—	
17	5.43	0.38	—	
18	5.52	0.36	—	
19	5.62	0.39	—	
20	5.51	0.30	—	
21	5.50	0.30	—	
22	5.53	0.32	—	
23	5.59	0.35	—	
24	5.67	0.36	—	
25	5.68	0.34	—	
26	5.65	0.37	—	
27	5.64	0.35	—	
28	5.75	0.30	—	
29	5.78	0.29	—	
30	5.70	0.34	—	
31	6.02	0.30	—	
32	6.26	0.33	—	
33	6.24	0.43	—	
34	5.54	0.39	—	
35	5.52	0.35	—	
36	5.86	0.33	—	
37	5.80	0.37	—	
38	5.75	0.34	—	
39	5.94	0.30	—	
40	6.05	0.28	—	
41	6.24	0.29	—	
42	6.26	0.31	—	
43	6.32	0.34	—	
44	6.12	0.28	—	
45	5.44	0.28	—	
46	4.65	0.22	—	
47	2.63	0.18	—	

—は計測不可
○内寸法は推定長さ

表15 B区2-B号畑サク間一覧 単位 (m)

サク間番号	サク間	サク間位置	備考
1	0.43	1-2	
2	0.60	2-3	
3	0.53	3-4	
4	0.50	4-5	
5	0.42	5-6	
6	0.48	6-7	
7	0.45	7-8	
8	0.40	8-10	
9	0.40	10-12	
10	0.49	12-14	
11	0.49	14-16	
12	0.49	16-18	
13	0.36	18-19	
14	0.47	19-20	
15	0.45	20-21	
16	0.41	21-22	
17	0.41	22-23	
18	0.48	23-24	
19	0.49	24-25	
20	0.46	25-26	
21	0.42	26-27	
22	0.42	27-28	
23	0.47	28-29	
24	0.47	29-30	
25	0.46	30-31	
26	1.31	31-32	
27	0.72	32-33	
28	0.43	33-34	
29	0.45	6-7	2平坦東側
30	0.46	7-9	2平坦東側
31	0.47	9-11	2平坦東側
32	0.50	11-13	2平坦東側
33	0.42	13-15	2平坦東側
34	0.45	15-17	2平坦東側
35	0.44	17-18	2平坦東側
36	0.37	18-19	2平坦東側
37	3.22	31-36	1平坦東側
38	0.42	36-38	1平坦東側
39	0.34	38-40	1平坦東側
40	2.91	31-35	1平坦東側
41	0.40	35-37	1平坦東側
42	0.35	37-39	1平坦東側

表17 B区2-C号畑サク間一覧 単位 (m)

サク間番号	サク間	サク間位置	備考
1	0.50	1-2	
2	0.44	2-3	
3	0.75	3-4	
4	0.56	4-5	
5	0.45	5-6	
6	0.36	6-7	
7	0.42	7-8	
8	0.47	8-9	
9	0.45	9-10	
10	0.47	10-11	
11	0.50	11-12	
12	0.51	12-13	
13	0.39	13-14	
14	0.52	14-15	
15	0.55	15-16	
16	0.48	16-17	
17	0.52	17-18	
18	0.61	18-19	
19	0.41	19-20	
20	0.53	20-21	
21	0.36	21-22	
22	0.48	22-23	
23	0.46	23-24	
24	0.52	24-25	
25	0.44	25-26	
26	0.48	26-27	
27	0.50	27-28	
28	0.42	28-29	
29	0.40	29-30	
30	0.37	30-31	
31	0.54	31-32	
32	0.56	32-33	
33	0.50	33-34	
34	0.50	34-35	
35	0.48	35-36	
36	0.45	36-37	
37	0.49	37-38	
38	0.40	38-39	
39	0.35	39-40	
40	0.40	40-41	
41	0.46	41-42	
42	0.40	42-43	
43	0.45	43-44	
44	0.42	44-45	
45	0.36	45-46	
46	0.30	46-47	

(4) 1～3号平坦面(第19図、PL. 3)

概要 1～3号平坦面はB区東部の2号畑のやや西寄りに位置する円形あるいは楕円形を呈する平坦面である。

位置 1～3号平坦面はB区東半部、2号畑の中央やや西寄りに所在し、N27°W方向に直列に位置し、1・2号平坦面は9.8m、2・3号平坦面は11.5の間隔で配される。

(1号平坦面) 63区T-23・24グリッド

(2号平坦面) 63区S-21・22グリッド

(3号平坦面) 63区R-19グリッド

規模・主軸方位

(1号平坦面) 〔径〕2.56×2.22m 〔周溝幅〕0.25～0.34m
〔周溝深〕0.01～0.03m

(2号平坦面) 〔径〕2.05×1.82m 〔周溝幅〕0.12～0.27m

〔周溝深〕0.02～0.06m

(3号平坦面) 〔径〕1.63×1.52m 〔周溝幅〕0.12～0.24m

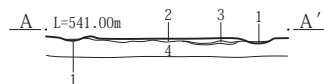
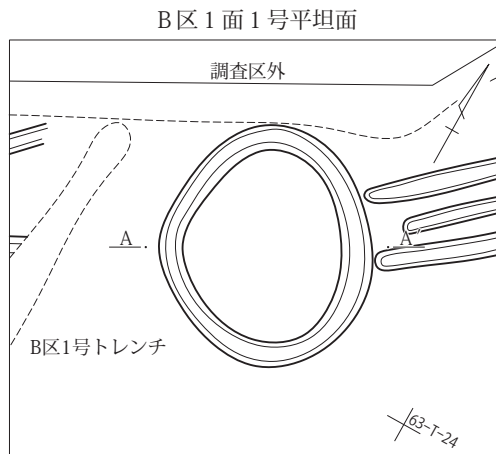
〔周溝深〕0.01～0.03m

重複 1～3号平坦面は、共に他の遺構との重複は見られなかったが、1号平坦面は2号畑B群のサク35・37・39と接するか近接して在る。また2号平坦面は、2号畑B群のサク7～18が接するか近接して在り、周囲に2.48×2.32mの楕円形様の空間が設けられ、3号平坦面は1号畑B群のサク20～29が近接して在り、周囲に1.72×1.96mの楕円形様の空間が設けられている。

覆土 1～3号平坦面は天明泥流で埋没している。

構造 そのプランは、1号平坦面は楕円形を呈し、2・3号平坦面はほぼ円形の形状を呈している。

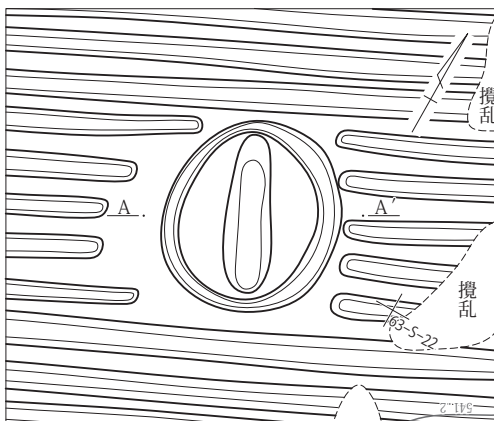
1～3号平坦面は共に、外周沿いに狭く浅い溝が廻る。



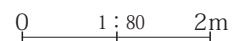
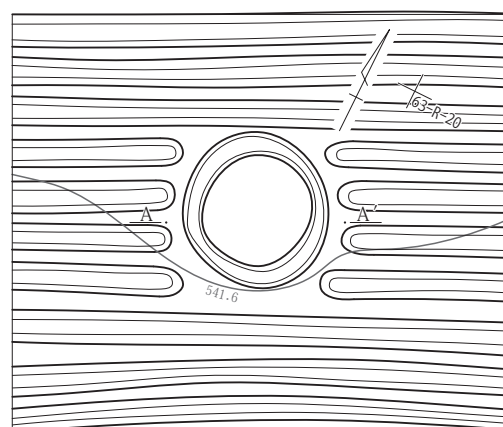
(B区1面) 1号平坦面 A-A'

- 1 As-軽石
- 2 灰黒褐色土 締まりあり。砂粒含む砂質土。
- 3 茶褐色土 2層に似るが鉄分の凝集顕著。
- 4 黒褐色土 若干の小礫含む。天明畑耕土

B区1面2号平坦面



B区1面3号平坦面



第19図 B区1～3号平坦面

その内側は、1・3号平坦面は平坦であるが、2号平坦面には北北西-南南東方向に浅い溝が見られる。

遺物 各平坦面からの出土遺物得られなかった。

所見 1～3号平坦面は、その杵状の窪みを伴う遺構の形態と畑の中に所在することから推して、肥桶等の桶状の構造物が設置されていたものと判断される。

また1～3号平坦面は、これを覆う泥流の堆積状況から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。

外周沿いに杵状の狭く浅い溝が廻る構造を有する。

遺物 本平坦面からの出土遺物は得られなかった。

所見 本平坦面は、その杵状の窪みを伴う遺構形態と1号畑A群との境に近い同畑C群の中に在って所在することから推して、肥桶等の桶状の構造物が設置されていたものと想定される。

また本平坦面は、これを覆う泥流の堆積状況から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。

(5) 4号平坦面(第20図、PL. 3)

概要 4号平坦面はB区西部の1号畑の中央やや東寄りに位置する平坦面である。

位置 本平坦面はB区西半部、1号畑C群の中央の南端近くに位置する。

63区R-19・20グリッド

規模・主軸方位

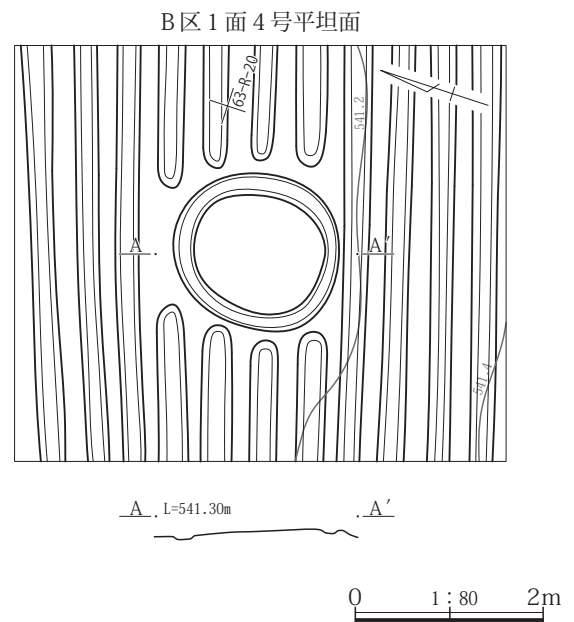
[径] 1.76×1.65m [周溝幅] 0.13～0.24m

[周溝深] 0.00～0.01m

重複 本平坦面は、他の遺構との重複は見られなかったが、1号畑C群のサク2～10・12と近接して在り、本来は繋がるであろう位置に耕作された1号畑C群のサク3～10を途絶させた位置に在る。

覆土 本平坦面は天明泥流に覆われていた。

構造 本平坦面のプランは、ほぼ円形を呈している。



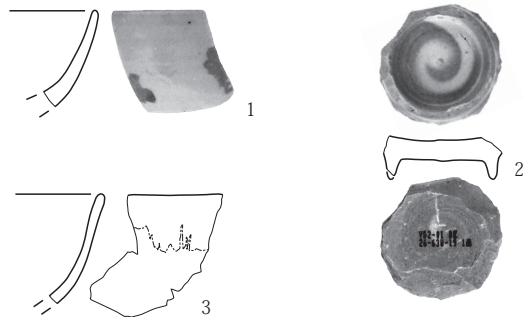
第20図 B区4号平坦面

表18 B区平坦面一覧

畑番号	番号	地区	区	所在グリッド	形状	長軸×短軸(m)	周溝幅 (m)	周溝深さ (m)	主軸方位	備考
2畑B	1	26	63	T-23・24	楕円形	2.56×2.22	0.25～0.34	0.01～0.03	N26°W	
2畑B	2	26	63	S-21・22	ほぼ円形	2.05×1.82	0.12～0.27	0.02～0.06	N0°	
2畑A	3	26	63	R-19	ほぼ円形	1.63×1.52	0.12～0.24	0.01～0.03	N0°	
1畑C	4	26	63	R-19・20	ほぼ円形	1.76×1.65	0.13～0.24	0～0.01	N0°	

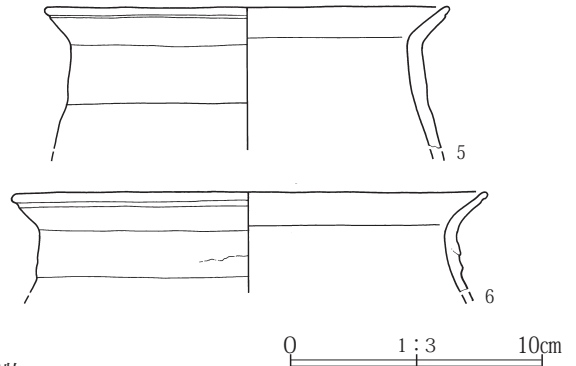
(6) B区の出土遺物(第21図、PL.14)

概要 B区1面からは肥前陶器染付碗(1)・刷毛目碗(2)、瀬戸美濃陶器尾呂碗(3)と漆小片(4)の出土を見た。また出土層位不明の土師器コノ字甕(5・6)が出土



第21図 B区出土遺物

している。この他、国産施釉陶器片1片が出土している。
所見 このうち(1・3)は18世紀の所産であり、(2・4)は江戸時代、(5・6)は9世紀の所産である。なお、(2)は円盤状に整形した二次加工品である。



3 C・D区1面の遺構と遺物

(1) C・D区1面の概要

C区は26地区62・72区、D区は同地区72・73区に位置する。本来であれば、C・D区は別項で報告すべきであるが、南側のC区と北側のD区は連続して在り、区を超えて位置する遺構もあることから、両区を合わせて報告することとする。

全体として、畑群から成る区域である。畑は細分も可能であるが、サクの不連続状態を以て13面の畑に分けて報告する。なお、C・D区の畑はサクの掘削は幅狭でサク間が狭いものが一般的である。

また1号畑で2箇所、2号畑で5箇所、3号畑で6箇所、5号畑で1箇所、8号畑で2箇所、9号畑で5箇所の平坦面があり、C区域で3箇所の集石と溝1条、D区域で4箇所の集石と道路1条をそれぞれ確認している。

また、C・D区はその西側に平成16年度調査区が接し、本報告のC区5号畑にH16-KA9-3・4号畑が、D区6号畑にH16-KA10-13~15号畑が接続している。

なお、B区1面は全体的に5.95%の勾配で北西方向に傾斜しているが、C区東端部付近は東方に向かって10.5~14m程間、28.99%の勾配で畑の耕作が確認されない緩斜面があり、東端で勾配が18.52%に減じて以東には畑が確認されている。なお、上記の緩斜面の上面南寄りの9号畑の東側と、下面南寄りの11号畑の緩斜面側にも畑の有った可能性が考えられる。

(2) 1号畑(第23図、PL.5)

概要 1号畑は殆どがC区東部に在る畑である。本畑は後述するようにほぼ均等なサクの幅、サク間で耕作されており、細分することはできなかった。

位置 本畑はC区東からD区中部南端に在り、26地区72区O~S-1~9グリッドに位置する。

規模・サク方位 [規模] 東西:16.2m

南北確認範囲:19.1m

[サク方位] N62°E

[サク幅] 0.27~0.42m(平均:0.321m)

[サク底部-畝頂部高] -m

[サク間] 0.46~0.63m(平均:0.541m)

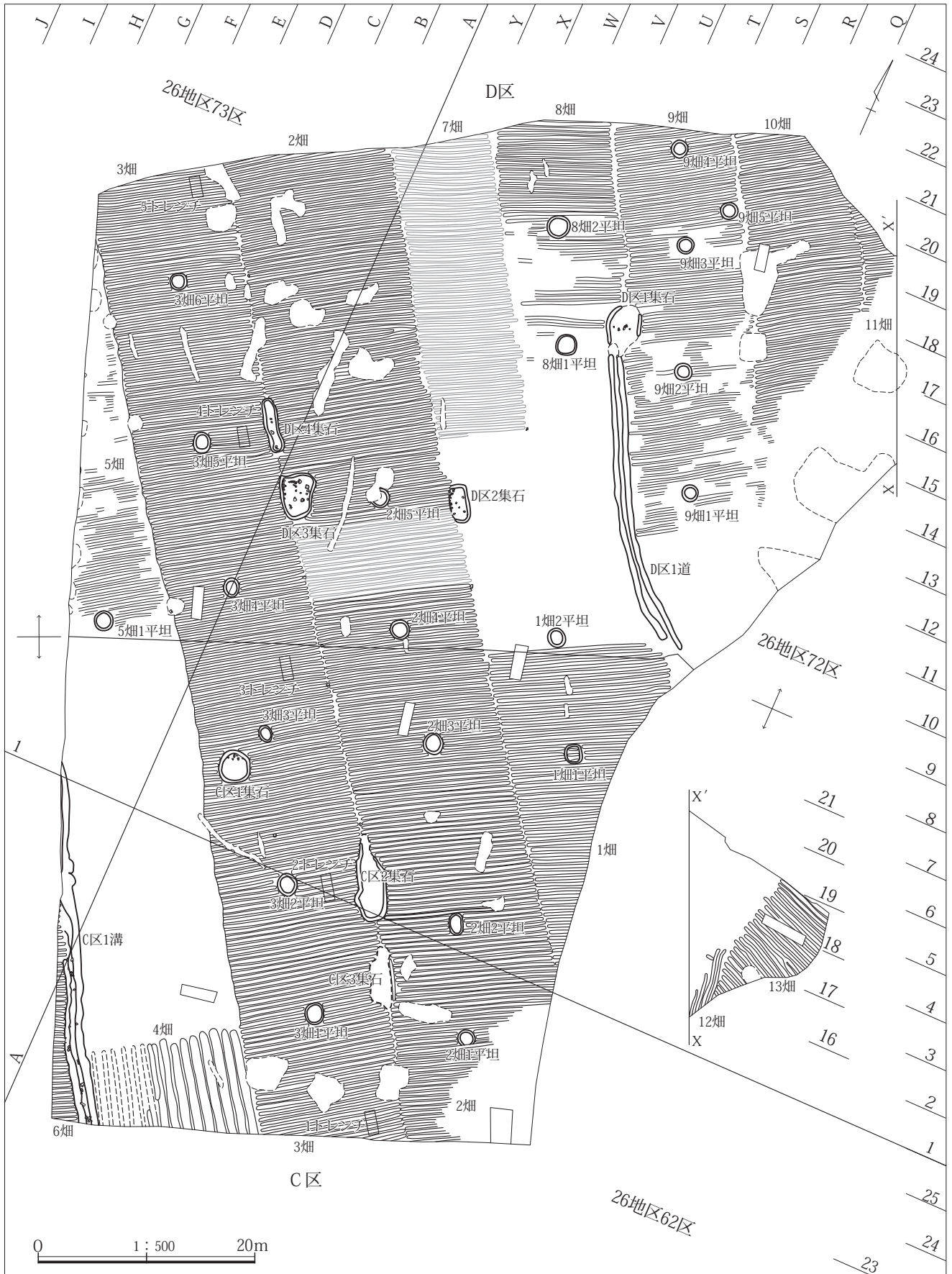
重複 本畑はその中央やや北寄りに1号畑1号平坦面が重複し、本畑の北側に1号畑2号平坦面がある。共に併存していたものと想定される。

また重複するものではないが、本畑の西側には2号畑が接するように在る。その他、本畑の北東隅部は欠けた状態で掘削されているが、この位置に近接するD区1号道を避けたためと思料される。

覆土 本畑は天明泥流に覆われていた。

構造 本畑は57条のサクで構成されているが、南東側が調査区外に在るため、全容は詳らかでない。

本畑は長さ30m以上、幅16.2mを測る、N36°W方向に主軸を向ける短冊形の区画の中に掘削されたものである。短冊形の区画の短径方向に掘削したサクを、南北に並行して密集するように掘削しているが、サクは短冊形



第22図 C・D区1面全体図

表19 C・D区畑一覧

畑番号	地区	区	区分	所在グリッド	検出規模		検出サク数	主軸方位	備考
					検出長さ(南北軸)	検出長さ(東西軸)			
1	26	72	C・D区	O～S-1～9	19.1	16.2	57	N62°E	
2	26	62・72・73	C・D区	[62]O～[73]E-[62]21～[63]17	91.8	18.3	229	N61°E N58°E	サク番号1～55 サク番号56～229
3	26	62・72・73	C・D区	[62]Q～[73]G-[62]20～[73]15	91.3	14.3	221	N55°E N58°E	サク番号1～157 サク番号158～221
4	26	62	C区	T～X-19～22	10.3	14.1	17	N34°W	
5	26	73	D区	B～E-4～10	26.6	7.8	48	N56°E N65°E	サク番号35～37
6	26	62・72	C区	[62]X～[72]A-18～22	18.3	2.4	42	N63°E	
7	26	72・73	D区	[72]U～[73]A-11～18	27.9	11.4	59	N64°E	
8	26	72	D区	T～X-14～19	22.2	12.3	48	N67°E	
9	26	72	D区	O～V-11～20	37.7	13.4	127	N58°E N62°E	サク番号1～60 サク番号61～127
10	26	72	D区	O～S-14～21	26.7	12.3	57	N58°E	
11	26	72	D区	O・P-18～20	9.7	3.5	21	N68°E	サク番号1～3
								N55°E	サク番号4～6
								N60°E	サク番号7～11
								N57°E	サク番号12～16
12	26	72	D区	L・M-15～17	6.9	1.7	5	N8°W N83°W	サク番号5
13	26	72	D区	K・L-16～19	12.7	7.3	26	N69°W	

で、地形に対して8°程時計回りに傾いて掘削されている。

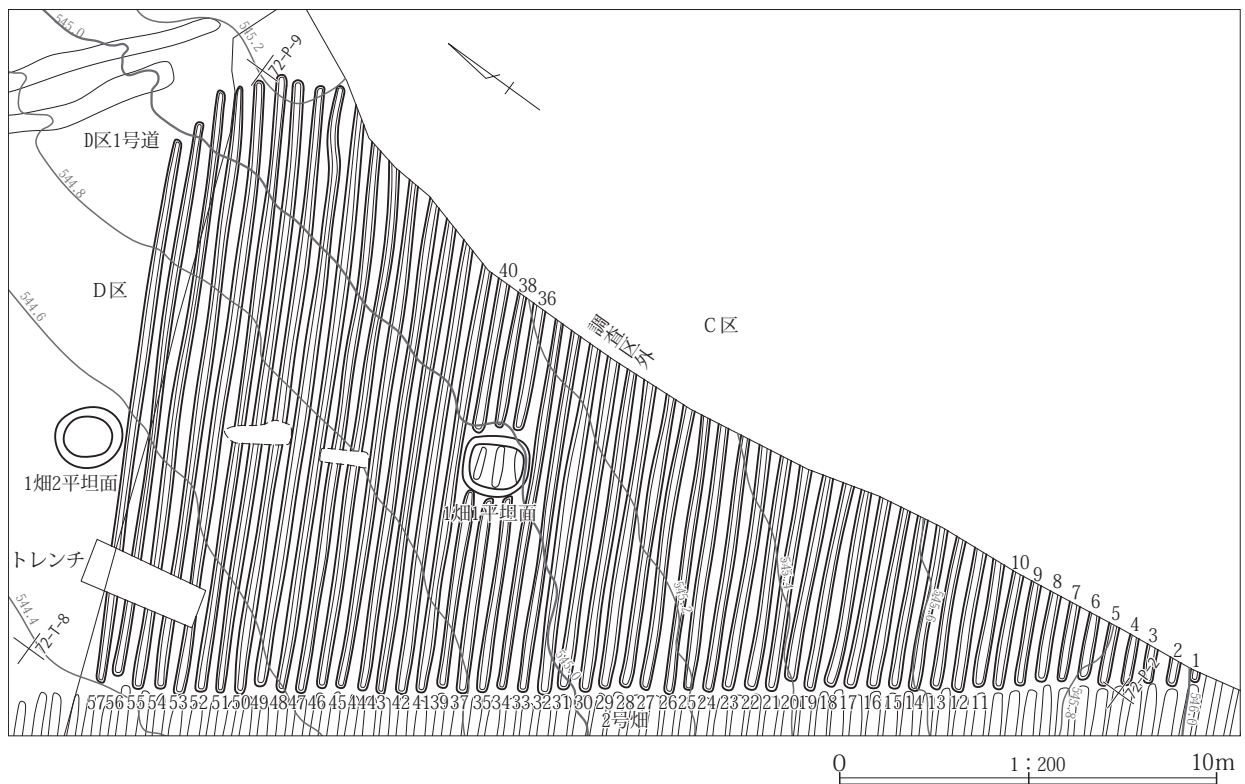
本畑の北側は約20mの間、非耕作地の空間となっている。

なお、本畑の筆は、土地の傾斜に対して90°ほど時計廻りの方向を向いている。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 上述のように本畑は東南部が調査区外に在るため、全容は詳らかでないが、繰り返すように本畑は短冊形の土地に耕作された畑であるが、サクの幅、サク間が狭い畑であるが、4号畑を除くC・D区の畑と共通する形状を示すものである。

本畑は、これを覆うと見られるテフラと泥流から推して、天明3年の畑と判断される。



第23図 C区1号畑

第2節 1面の調査と発見された遺構と遺物

表20 C区1号畑サク一覧

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	0.30	0.27	—	
2	0.70	0.28	—	
3	0.98	0.30	—	
4	1.32	0.27	—	
5	1.65	0.29	—	
6	1.78	0.32	—	
7	2.09	0.28	—	
8	2.37	0.33	—	
9	2.75	0.27	—	
10	3.11	0.32	—	
11	3.36	0.35	—	
12	3.78	0.33	—	
13	4.05	0.30	—	
14	4.41	0.31	—	
15	4.61	0.30	—	
16	4.84	0.35	—	
17	5.10	0.33	—	
18	5.25	0.31	—	
19	5.55	0.30	—	
20	5.51	0.34	—	
21	5.98	0.32	—	
22	6.20	0.34	—	
23	6.53	0.35	—	
24	6.82	0.29	—	
25	7.09	0.32	—	
26	7.42	0.27	—	
27	7.56	0.31	—	
28	7.82	0.36	—	
29	8.20	0.37	—	
30	8.59	0.34	—	
31	8.87	0.36	—	
32	9.32	0.42	—	
33	9.62	0.27	—	
34	9.84	0.27	—	
35	5.14	0.31	—	
36	3.22	0.34	—	
37	5.21	0.33	—	
38	3.67	0.27	—	
39	5.30	0.31	—	
40	4.08	0.30	—	
41	11.41	0.34	—	
42	12.07	0.35	—	
43	12.62	0.34	—	
44	13.12	0.33	—	
45	13.55	0.33	—	
46	(14.02)	0.32	—	攪乱で切られる
47	(14.65)	0.30	—	攪乱で切られる
48	15.53	0.37	—	
49	16.04	0.38	—	
50	(16.28)	0.38	—	攪乱で切られる
51	(16.38)	0.35	—	攪乱で切られる
52	(16.52)	0.33	—	攪乱で切られる
53	(16.46)	0.34	—	トレンチで切られる
54	(16.13)	0.34	—	トレンチで切られる
55	(16.04)	0.32	—	トレンチで切られる
56	(14.88)	0.28	—	トレンチで切られる
57	(14.56)	0.32	—	トレンチで切られる

—は計測不可
○内寸法は推定長さ

表21 C区1号畑サク間一覧

サク間番号	サク間	サク間位置	備考
1	0.60	1-2	
2	0.61	2-3	
3	0.57	3-4	
4	0.59	4-5	
5	0.55	5-6	
6	0.55	6-7	
7	0.55	7-8	
8	0.55	8-9	
9	0.57	9-10	
10	0.49	10-11	
11	0.55	11-12	
12	0.56	12-13	
13	0.58	13-14	
14	0.55	14-15	
15	0.51	15-16	
16	0.57	16-17	
17	0.47	17-18	
18	0.62	18-19	
19	0.57	19-20	
20	0.46	20-21	
21	0.49	21-22	
22	0.63	22-23	
23	0.50	23-24	
24	0.58	24-25	
25	0.48	25-26	
26	0.58	26-27	
27	0.54	27-28	
28	0.60	28-29	
29	0.53	29-30	
30	0.53	30-31	
31	0.54	31-32	
32	0.52	32-33	
33	0.53	33-34	
34	0.52	34-35	
35	0.57	35-37	
36	0.52	37-39	
37	0.52	49-41	
38	0.51	41-42	
39	0.53	42-43	
40	0.48	43-44	
41	0.50	44-45	
42	0.53	45-46	
43	0.52	46-47	
44	0.54	47-48	
45	0.59	48-49	
46	0.58	49-50	
47	0.52	50-51	
48	0.48	51-52	
49	0.57	52-53	
50	0.52	53-54	
51	0.56	54-55	
52	0.55	55-56	
53	0.54	56-57	
54	0.48	33-34	1畑1平坦東側
55	0.59	34-36	1畑1平坦東側
56	0.51	36-38	1畑1平坦東側
57	0.54	38-40	1畑1平坦東側
58	0.50	40-41	1畑1平坦東側
59	0.56	41-42	1畑1平坦東側

(3) 2号畑(第24図、PL. 5・6)

概要 2号畑はC区(東部)からD区(西部)に在る畑である。本畑も1号畑同様にほぼ均等なサクの幅、サク間で耕作された畑であるが、南東隅部は四分円形の平坦面が有ってサクは掘削されていない。この地点はAs-A軽石の処理のためのサク上げの痕跡と判断される。

なお、サクの走行方向からサク1～55とサク56～229に細分することも可能であり、細かい走行の比較やサク幅の比較から細分することも可能であるが、明確にはし得なかった。

位置 本畑はC区東からD区中部南端に在り、26地区62・72・73区に跨り62区Q～73区E—62区21～73区17グ

リッドに亘って位置する。

規模・サク方位 [規模] 東西：18.3m

南北確認範囲：91.8m

[サク方位] (サク1～55) N61°E

(サク56～229) N58°E

[サク幅]：0.18～0.41m(平均：0.305m)

[サク底部—畝頂部高] —m

[サク間] 0.32～0.55m(平均：0.443m)

重複 本畑では南半部(C区)に2号畑1～3号平坦面、北半部(D区)に2号畑4・5号平坦面が後述するように、均等及び直列に近い配置で重複している。

また本畑の東辺南寄りにはD区2号集石が接するよう

第3章 発見された遺構と遺物

表22 C・D区2号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間 番号	サク 間	サク間 位置	備考
1	0.48	1-2	
2	0.47	2-3	
3	0.40	3-4	
4	0.50	4-5	
5	0.41	5-6	
6	0.40	6-7	
7	0.46	7-8	
8	0.39	8-9	
9	0.47	9-10	
10	0.43	10-11	
11	0.44	11-12	
12	0.43	12-13	
13	0.42	13-14	
14	0.39	14-15	
15	0.48	15-16	
16	0.46	16-17	
17	0.42	17-18	
18	0.40	18-19	
19	0.39	19-20	
20	0.52	20-21	
21	0.35	21-23	
22	0.47	23-25	
23	0.45	25-27	
24	0.45	27-28	
25	0.43	28-29	
26	0.48	29-30	
27	0.44	30-31	
28	0.45	31-32	
29	0.43	32-33	
30	0.47	33-34	
31	0.44	34-35	
32	0.45	35-36	
33	0.45	36-37	
34	0.44	37-38	
35	0.46	38-39	
36	0.48	49-40	
37	0.42	40-41	
38	0.43	41-42	
39	0.48	42-43	
40	0.45	43-44	
41	0.44	44-45	
42	0.40	45-46	
43	0.45	46-47	
44	0.39	47-49	
45	0.43	49-51	
46	0.48	51-53	
47	0.46	53-55	
48	0.47	55-56	
49	0.45	56-57	
50	0.43	57-58	
51	0.48	58-59	
52	0.42	59-60	
53	0.46	60-61	
54	0.44	61-62	
55	0.48	62-63	
56	0.48	63-64	
57	0.40	64-65	
58	0.46	65-66	
59	0.46	66-67	
60	0.45	67-68	
61	0.43	68-69	
62	0.42	69-70	
63	0.43	70-71	
64	0.48	71-72	
65	0.44	72-73	
66	0.40	73-74	
67	0.41	74-75	
68	0.41	75-76	
69	0.47	76-77	
70	0.48	77-78	
71	0.55	78-79	
72	0.52	79-80	
73	0.38	80-81	
74	0.41	81-82	
75	0.44	82-83	
76	0.42	83-84	
77	0.50	84-85	
78	0.47	85-86	
79	0.43	86-87	
80	0.46	87-89	
81	0.48	89-91	
82	0.47	91-93	

サク間 番号	サク 間	サク間 位置	備考
83	0.45	93-95	
84	0.46	95-97	
85	0.44	97-98	
86	0.43	98-99	
87	0.49	99-100	
88	0.45	100-101	
89	0.46	101-102	
90	0.49	102-103	
91	0.40	103-104	
92	0.47	104-105	
93	0.50	105-106	
94	0.41	106-107	
95	0.43	107-108	
96	0.47	108-109	
97	0.46	109-110	
98	0.46	110-111	
99	0.43	111-112	
100	0.47	112-113	
101	0.45	113-114	
102	0.47	114-115	
103	0.50	115-116	
104	0.49	116-118	
105	0.40	118-120	
106	0.48	120-122	
107	0.41	122-124	
108	0.42	124-125	
109	0.48	125-126	
110	0.42	126-127	
111	0.49	127-128	
112	0.45	128-129	
113	0.38	129-130	
114	0.47	130-131	
115	0.53	131-132	
116	0.45	132-133	
117	0.40	133-134	
118	0.44	134-135	
119	0.44	135-136	
120	0.50	136-137	
121	0.47	137-138	
122	0.40	138-139	
123	0.46	139-140	
124	0.43	140-141	
125	0.40	141-142	
126	0.47	142-143	
127	0.46	143-144	
128	0.43	144-145	
129	0.48	145-146	
130	0.46	146-147	
131	0.39	147-149	
132	0.40	149-151	
133	0.45	151-153	
134	0.44	153-155	
135	0.43	155-156	
136	0.45	156-157	
137	0.46	157-158	
138	0.50	158-159	
139	0.46	159-160	
140	0.40	160-161	
141	0.44	161-162	
142	0.48	162-163	
143	0.40	163-164	
144	0.49	164-165	
145	0.43	165-166	
146	0.45	166-167	
147	0.40	167-168	
148	0.47	168-169	
149	0.43	169-170	
150	0.44	170-171	
151	0.39	171-172	
152	0.46	172-173	
153	0.45	173-174	
154	0.38	174-175	
155	0.50	175-176	
156	0.40	176-177	
157	0.44	177-178	
158	0.44	178-179	
159	0.44	179-180	
160	0.46	180-182	
161	0.38	182-183	
162	0.40	183-184	
163	0.47	184-185	
164	0.44	185-186	

サク間 番号	サク 間	サク間 位置	備考
165	0.44	186-187	
166	0.45	187-188	
167	0.50	188-189	
168	0.37	189-190	
169	0.40	190-191	
170	0.48	191-192	
171	0.40	192-193	
172	0.39	193-194	
173	0.48	194-195	
174	0.37	195-196	
175	0.38	196-197	
176	0.50	197-198	
177	0.38	198-199	
178	0.42	199-200	
179	0.41	200-201	
180	0.43	201-202	
181	0.41	202-203	
182	0.50	203-204	
183	0.38	204-205	
184	0.40	205-206	
185	0.40	206-207	
186	0.34	207-208	
187	0.53	208-209	
188	0.37	209-210	
189	0.42	210-211	
190	0.45	211-212	
191	0.45	212-213	
192	0.40	213-214	
193	0.46	214-215	
194	0.44	215-216	
195	0.42	216-217	
196	0.41	217-218	
197	0.44	218-219	
198	0.43	219-220	
199	0.46	220-221	
200	0.44	221-222	
201	0.40	222-223	
202	0.41	223-224	
203	0.41	224-225	
204	0.47	225-226	
205	0.41	226-227	
206	0.40	227-228	
207	0.50	19-20	2畑1平坦東側
208	0.32	20-22	2畑1平坦東側
209	0.40	22-24	2畑1平坦東側
210	0.52	24-26	2畑1平坦東側
211	0.45	26-27	2畑1平坦東側
212	0.46	27-28	2畑1平坦東側
213	0.44	45-46	2畑2平坦東側
214	0.48	46-48	2畑2平坦東側
215	0.46	48-50	2畑2平坦東側
216	0.43	50-52	2畑2平坦東側
217	0.44	52-54	2畑2平坦東側
218	0.47	54-55	2畑2平坦東側
219	0.43	55-56	2畑2平坦東側
220	0.42	85-86	2畑3平坦東側
221	0.48	86-88	2畑3平坦東側
222	0.44	88-90	2畑3平坦東側
223	0.42	90-92	2畑3平坦東側
224	0.47	92-94	2畑3平坦東側
225	0.44	94-96	2畑3平坦東側
226	0.48	96-97	2畑3平坦東側
227	0.47	98-99	2畑3平坦東側
228	0.39	114-115	2畑4平坦東側
229	0.47	115-117	2畑4平坦東側
230	0.54	117-119	2畑4平坦東側
231	0.38	119-121	2畑4平坦東側
232	0.49	121-123	2畑4平坦東側
233	0.45	123-124	2畑4平坦東側
234	0.44	124-125	2畑4平坦東側
235	0.52	145-146	2畑5平坦東側
236	0.50	146-148	2畑5平坦東側
237	0.46	148-150	2畑5平坦東側
238	0.44	150-152	2畑5平坦東側
239	0.46	152-154	2畑5平坦東側
240	0.40	154-155	2畑5平坦東側
241	0.50	155-156	2畑5平坦東側



表23 C・D区1面2号畑一覧 単位(m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	4.55	0.27	—	
2	4.04	0.33	—	
3	3.60	0.30	—	
4	2.94	0.22	—	
5	3.00	0.24	—	
6	3.92	0.26	—	
7	3.75	0.30	—	
8	4.30	0.28	—	
9	4.76	0.33	—	
10	4.65	0.29	—	
11	4.62	0.29	—	
12	4.90	0.30	—	
13	4.75	0.30	—	
14	5.54	0.28	—	
15	5.82	0.31	—	
16	6.36	0.29	—	
17	7.60	0.30	—	
18	8.28	0.25	—	
19	8.42	0.24	—	
20	8.93	0.31	—	
21	5.73	0.29	—	
22	1.26	0.18	—	
23	5.56	0.28	—	
24	1.21	0.30	—	
25	5.73	0.30	—	
26	1.37	0.29	—	
27	9.55	0.31	—	
28	10.72	0.29	—	
29	(11.28)	0.30	—	攪乱で切られる
30	(12.10)	0.30	—	攪乱で切られる
31	(14.70)	0.30	—	攪乱で切られる
32	(14.84)	0.36	—	攪乱で切られる
33	(14.65)	0.33	—	攪乱で切られる
34	14.61	0.31	—	
35	14.64	0.33	—	
36	14.26	0.30	—	
37	14.69	0.40	—	
38	14.95	0.34	—	
39	(14.67)	0.35	—	攪乱で切られる

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
40	(14.60)	0.38	—	攪乱で切られる
41	(14.69)	0.30	—	攪乱で切られる
42	(14.54)	0.34	—	攪乱で切られる
43	14.65	0.37	—	
44	14.67	0.33	—	
45	15.02	0.32	—	
46	15.18	0.33	—	
47	6.43	0.37	—	
48	7.59	0.32	—	
49	6.53	0.28	—	
50	7.10	0.32	—	
51	6.43	0.32	—	
52	7.19	0.33	—	
53	6.73	0.37	—	
54	7.16	0.36	—	
55	(14.35)	0.35	—	攪乱で切られる
56	(13.91)	0.38	—	攪乱で切られる
57	13.97	0.32	—	
58	13.70	0.37	—	
59	13.63	0.34	—	
60	13.58	0.32	—	
61	13.56	0.36	—	
62	13.40	0.39	—	
63	13.45	0.41	—	
64	(13.39)	0.35	—	攪乱で切られる
65	(13.21)	0.38	—	攪乱で切られる
66	(13.30)	0.37	—	攪乱で切られる
67	(13.56)	0.35	—	攪乱で切られる
68	(13.92)	0.36	—	攪乱で切られる
69	(14.22)	0.33	—	攪乱で切られる
70	(14.13)	0.35	—	攪乱で切られる
71	14.12	0.35	—	
72	14.14	0.36	—	
73	14.71	0.35	—	
74	(14.66)	0.35	—	攪乱で切られる
75	(14.43)	0.40	—	攪乱で切られる
76	14.51	0.32	—	
77	14.62	0.40	—	
78	14.65	0.34	—	

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
79	14.62	0.35	—	
80	14.37	0.34	—	
81	14.40	0.33	—	
82	14.50	0.34	—	
83	14.64	0.32	—	
84	14.71	0.33	—	
85	14.54	0.31	—	
86	14.62	0.29	—	
87	7.45	0.28	—	
88	5.78	0.28	—	
89	7.07	0.27	—	
90	5.50	0.27	—	
91	7.10	0.29	—	
92	5.24	0.28	—	
93	7.44	0.27	—	
94	5.33	0.28	—	
95	7.71	0.30	—	
96	5.61	0.27	—	
97	(14.74)	0.35	—	トレンチで切られる
98	(14.70)	0.31	—	トレンチで切られる
99	(14.48)	0.31	—	トレンチで切られる
100	(14.60)	0.30	—	トレンチで切られる
101	(14.51)	0.30	—	トレンチで切られる
102	(14.37)	0.28	—	トレンチで切られる
103	14.18	0.30	—	
104	14.12	0.29	—	
105	14.17	0.35	—	
106	13.91	0.32	—	
107	14.50	0.27	—	
108	14.78	0.30	—	
109	14.90	0.30	—	
110	14.48	0.28	—	
111	14.63	0.27	—	
112	14.65	0.28	—	
113	14.64	0.29	—	
114	(14.76)	0.28	—	攪乱で切られる
115	(14.48)	0.29	—	攪乱で切られる
116	6.58	0.29	—	
117	6.57	0.30	—	

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
118	6.82	0.26	—	
119	6.15	0.25	—	
120	(6.70)	0.30	—	攪乱で切られる
121	6.14	0.32	—	
122	(6.90)	0.27	—	攪乱で切られる
123	6.41	0.33	—	
124	(14.79)	0.33	—	攪乱で切られる
125	(14.76)	0.30	—	攪乱で切られる
126	14.74	0.35	—	
127	14.61	0.37	—	
128	14.64	0.30	—	
129	14.54	0.38	—	
130	14.72	0.34	—	
131	14.82	0.32	—	
132	14.63	0.28	—	
133	14.70	0.28	—	
134	14.83	0.34	—	
135	14.92	0.34	—	
136	14.80	0.37	—	
137	14.72	0.36	—	
138	14.96	0.37	—	
139	15.03	0.36	—	
140	(14.79)	0.32	—	攪乱で切られる
141	(14.78)	0.32	—	攪乱で切られる
142	(14.71)	0.30	—	攪乱で切られる
143	(14.62)	0.30	—	攪乱で切られる
144	(14.58)	0.29	—	攪乱で切られる
145	(14.59)	0.33	—	攪乱で切られる
146	(13.49)	0.35	—	攪乱で切られる
147	(5.95)	0.30	—	攪乱で切られる
148	5.71	0.28	—	
149	(5.30)	0.28	—	攪乱で切られる
150	5.50	0.26	—	
151	(5.00)	0.24	—	攪乱で切られる
152	5.70	0.30	—	
153	(4.95)	0.26	—	攪乱で切られる
154	5.70	0.30	—	
155	(12.48)	0.30	—	攪乱で切られる
156	(11.93)	0.29	—	攪乱で切られる

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
157	(11.46)	0.27	—	攪乱で切られる
158	(11.49)	0.30	—	攪乱で切られる
159	(11.25)	0.29	—	攪乱で切られる
160	(12.26)	0.28	—	攪乱で切られる
161	(14.49)	0.35	—	攪乱で切られる
162	14.78	0.33	—	
163	14.76	0.30	—	
164	14.56	0.24	—	
165	14.20	0.34	—	
166	14.00	0.30	—	
167	13.73	0.28	—	
168	13.87	0.31	—	
169	14.10	0.30	—	
170	14.25	0.31	—	
171	14.16	0.30	—	
172	(14.17)	0.30	—	攪乱で切られる
173	(13.91)	0.30	—	攪乱で切られる
174	(13.72)	0.31	—	攪乱で切られる
175	(13.60)	0.31	—	攪乱で切られる
176	(13.72)	0.30	—	攪乱で切られる
177	(14.14)	0.30	—	攪乱で切られる
178	(14.37)	0.26	—	攪乱で切られる
179	(14.46)	0.32	—	攪乱で切られる
180	5.05	0.29	—	
181	2.00	0.19	—	
182	(14.72)	0.33	—	攪乱で切られる
183	(14.65)	0.28	—	攪乱で切られる
184	(14.60)	0.29	—	攪乱で切られる
185	(14.55)	0.27	—	攪乱で切られる
186	(14.60)	0.30	—	攪乱で切られる
187	(14.83)	0.28	—	攪乱で切られる
188	(12.64)	0.28	—	攪乱で切られる
189	(14.00)	0.29	—	攪乱で切られる
190	13.79	0.30	—	
191	13.80	0.28	—	
192	(13.75)	0.30	—	攪乱で切られる
193	(13.71)	0.27	—	攪乱で切られる
194	(13.60)	0.24	—	攪乱で切られる
195	(14.80)	0.28	—	攪乱で切られる

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
196	(14.73)	0.27	—	攪乱で切られる
197	(14.80)	0.26	—	攪乱で切られる
198	(14.79)	0.27	—	攪乱で切られる
199	(14.92)	0.25	—	攪乱で切られる
200	(14.63)	0.28	—	攪乱で切られる
201	(14.73)	0.30	—	攪乱で切られる
202	14.84	0.30	—	
203	14.97	0.29	—	
204	14.64	0.28	—	
205	14.65	0.29	—	
206	14.97	0.32	—	
207	14.95	0.31	—	
208	14.94	0.31	—	
209	14.94	0.28	—	
210	(14.85)	0.30	—	攪乱で切られる
211	(14.80)	0.28	—	攪乱で切られる
212	(14.73)	0.25	—	攪乱で切られる
213	(14.76)	0.26	—	攪乱で切られる
214	(14.97)	0.28	—	攪乱で切られる
215	(14.92)	0.28	—	攪乱で切られる
216	(15.07)	0.27	—	攪乱で切られる
217	(14.96)	0.24	—	攪乱で切られる
218	(14.80)	0.27	—	攪乱で切られる
219	(14.84)	0.28	—	攪乱で切られる
220	(15.18)	0.28	—	攪乱で切られる
221	14.30	0.29	—	
222	14.44	0.29	—	
223	14.62	0.26	—	
224	14.90	0.29	—	
225	14.81	0.28	—	
226	14.59	0.29	—	
227	10.20	0.27	—	
228	6.50	0.26	—	
229	2.90	0.15	—	

○ 内寸法は推定長さ
— は計測不可

に在り、同じく西辺には、C区のやや南寄りにC区2・3号集石、D区南寄りにD区3・4号集石が、いずれも本畑に喰い込むようにして重複している。

また、本畑の東辺南部にN37°W方向の狭間を挟んで1号畑、同北部にN33°W方向の狭間を挟んで7号畑、西辺には中・南部でN36°W、北部でN34°W方向の狭間を挟んで3号畑が接するように位置している。北部に7号畑、西辺には3号畑が接するように位置している。

覆土 本畑は天明泥流に覆われていた。

構造 本畑は229条のサクで構成されている。南端付近南東側は四分円状に平坦面が広がるため、サクは残されていない。また南端西部と北部も調査区外に出ていて確認できないため、全容は詳らかにできない。

本畑は長さ90m以上、幅15mを測る、N33°W方向に主軸を向ける短冊形の区画の中にサクが掘削されたものである。上述のように、南東隅部はサクの確認が無いが、短冊形の地割に対して短径方向に掘削したサクが並行に密集して掘削されている。

なお、本畑の地割も、1号畑同様土地の傾斜に対して90°ほど時計廻りの方向を向いている。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 上述のように本畑は北側と南側の西部が調査区外に在るため、全容は詳らかでないが、本畑は短冊形の土地に耕作された畑である。サクの幅、サク間が狭いC区、D区の畑に一般的な掘削状態を呈する畑である。

本畑は、これを覆うテフラと泥流から推して、天明3年の畑と判断される。

(4) 3号畑(第25図、PL. 5・6)

概要 3号畑はC区(中部)からD区(西部)に在る畑である。本畑もC・D区に標準的なやや幅狭のサク幅とサク間で耕作された畑であるが、南北両側は調査区外に出ていて、全容は詳らかでない。

なお、サクの走行方向からサク1～157とサク158～221に細分することも可能であり、細かい走行の比較やサク幅の比較から細分すること検討できる状態にはあるが、明確なグループ分けは行い得なかった。

位置 本畑はC区中部からD区西部に在り、62・72・73区に跨り62区Q～73区G-62区20～73区15グリッドに亘って位置する。

規模・サク方位〔規模〕 東西：14.3m

南北確認範囲：91.3m

〔サク方位〕(サク1～155) N55°E

(サク156～221) N58°E

〔サク〕幅：0.22～0.41m(平均：0.308m)

深：0.01～0.10m(平均：0.045m)

〔サク底部一畝頂部高〕 0.03～0.12m(平均：0.069m)

〔サク間〕 0.33～0.60m(平均：0.459m)

重複 本畑は短冊形の主軸方向中央から東寄りに、3号畑1～6号平坦面が直線的な配列で重複し、南寄り3号平坦面の南西に近接してC区1号集石(調査時点の錯覚で本遺構はD区に在る)が重複する。また、本畑の東辺北寄りにD区3・4号集石が、本畑に僅かに喰い込むようにして重複している。

なお、本畑の東側には、中・南部でN36°W、北部でN34°W方向の狭間を挟んで2号畑が、また本畑の西辺南部にはN34°W方向に狭間を挟んで4号畑が接するように位置しており、北部には5号畑が近接して耕作されている。

覆土 本畑では、サク内にAs-A軽石が堆積し、その上を天明泥流で覆っている。

構造 本畑は221条のサクで構成されているが、上述のように南北両側は調査区外に出ているため、全容は詳らかでない。

本畑は長さ90.6m以上、幅12.3mを測る、N35°W方向に主軸を向ける短冊形の区画の中に掘削されている。この地割の短径方向に幅狭のサクが掘削されるが、サクは並行に密集して掘削されている。

また、サク159は3号畑5号平坦面を迂回するように、長さ1.8mの間、南東側へ0.2m程湾曲している。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 上述のように本畑は南北両側が調査区外に在るため、全容は詳らかでないが、繰り返すように本畑は短冊形の土地に耕作された畑であるが、サクの幅、サク間が狭い、C区、D区に一般的な掘削状態を示す畑である。

また、本畑はAs-A軽石の堆積がサクの中に限られ、畝に入ることが無いため、軽石降下から翌日の泥流到達までの間に(土用の)培土が行われなかったことが分かる。

本畑は、これを覆うテフラと泥流から推して、天明3年の畑と判断される。

第3章 発見された遺構と遺物

表24 C・D区3号畑サク一覧

単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	2.15	0.27	—	
2	4.00	0.30	0.06	
3	6.20	0.33	0.05	
4	8.70	0.33	0.04	
5	10.85	0.32	0.05	
6	12.88	0.34	0.05	
7	13.03	0.31	0.04	
8	12.55	0.28	0.02	
9	(11.16)	0.27	0.03	攪乱で切られる
10	(11.01)	0.29	0.02	攪乱で切られる
11	(11.47)	0.37	0.04	攪乱で切られる
12	(11.56)	0.30	0.04	攪乱で切られる
13	(11.50)	0.34	0.03	攪乱で切られる
14	(11.79)	0.42	0.03	攪乱で切られる
15	(10.84)	0.30	0.05	攪乱で切られる
16	10.60	0.36	0.04	
17	10.20	0.35	0.03	
18	9.86	0.34	0.06	
19	10.18	0.31	0.04	
20	11.06	0.33	0.04	
21	13.72	0.35	0.03	
22	13.70	0.35	0.03	
23	13.65	0.37	0.04	
24	13.64	0.32	0.04	
25	5.80	0.33	0.04	
26	6.31	0.36	—	
27	5.34	0.32	0.03	
28	6.05	0.32	—	
29	4.46	0.33	0.06	
30	6.14	0.34	—	
31	4.43	0.33	0.05	
32	6.00	0.32	—	
33	12.22	0.31	0.06	
34	12.40	0.32	0.03	
35	12.37	0.38	0.06	
36	12.48	0.34	0.04	
37	12.60	0.36	0.05	
38	12.67	0.36	0.05	
39	13.17	0.37	0.05	
40	13.56	0.36	0.04	
41	13.72	0.38	0.06	
42	13.95	0.35	0.07	
43	13.80	0.38	0.08	
44	14.00	0.35	0.10	
45	14.03	0.37	0.06	
46	13.83	0.36	0.06	
47	12.86	0.36	0.05	
48	12.79	0.35	0.03	
49	12.43	0.37	0.07	
50	12.39	0.34	0.07	
51	12.30	0.37	0.05	
52	12.34	0.33	0.08	
53	12.62	0.38	0.06	
54	5.89	0.38	0.07	
55	5.75	0.35	—	
56	5.52	0.36	0.08	
57	5.32	0.32	—	
58	5.47	0.35	0.06	
59	5.24	0.32	—	
60	5.64	0.37	0.07	
61	5.06	0.30	—	
62	6.00	0.38	0.06	
63	5.70	0.33	—	
64	13.28	0.39	0.08	
65	(13.49)	0.31	0.07	攪乱で切られる
66	(13.60)	0.34	0.06	攪乱で切られる
67	(13.67)	0.30	0.05	攪乱で切られる
68	(13.65)	0.35	0.03	攪乱で切られる
69	(13.75)	0.33	0.06	攪乱で切られる
70	(13.74)	0.34	0.05	攪乱で切られる
71	(13.77)	0.32	0.07	攪乱で切られる
72	(13.58)	0.34	0.06	攪乱で切られる
73	(13.47)	0.30	0.05	攪乱で切られる
74	13.17	0.36	0.04	
75	13.20	0.31	0.05	
76	13.70	0.33	0.04	
77	13.61	0.30	0.04	
78	13.46	0.28	0.05	
79	13.25	0.37	0.03	
80	13.31	0.31	0.02	
81	13.20	0.36	0.03	
82	9.08	0.32	0.02	
83	1.65	0.31	—	

表25 C・D区3号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間番号	サク間	サク間位置	備考
1	0.45	1-2	
2	0.40	2-3	
3	0.34	3-4	
4	0.47	4-5	
5	0.43	5-6	
6	0.42	6-7	
7	0.43	7-8	
8	0.40	8-9	
9	0.40	9-10	
10	0.40	10-11	
11	0.36	11-12	
12	0.37	12-13	
13	0.40	13-14	
14	0.42	14-15	
15	0.37	15-16	
16	0.39	16-17	
17	0.38	17-18	
18	0.45	18-19	
19	0.34	19-20	
20	0.37	20-21	
21	0.40	21-22	
22	0.40	22-23	
23	0.36	23-24	
24	0.39	24-25	
25	0.37	25-27	
26	0.41	27-29	
27	0.40	29-31	
28	0.39	31-33	
29	0.41	33-34	
30	0.40	34-35	
31	0.39	35-36	
32	0.34	36-37	
33	0.39	37-38	
34	0.34	38-39	
35	0.41	39-40	
36	0.33	40-41	
37	0.40	41-42	
38	0.38	42-43	
39	0.37	43-44	
40	0.38	44-45	
41	0.37	45-46	
42	0.34	46-47	
43	0.34	47-48	
44	0.37	48-49	
45	0.39	49-50	
46	0.41	50-51	
47	0.37	51-52	
48	0.40	52-53	
49	0.40	53-54	
50	0.40	54-56	
51	0.41	56-58	
52	0.40	58-60	
53	0.41	60-62	
54	0.41	62-64	
55	0.49	64-65	
56	0.42	65-66	
57	0.47	66-67	
58	0.50	67-68	
59	0.50	68-69	
60	0.49	69-70	
61	0.48	70-71	
62	0.47	71-72	
63	0.52	72-73	
64	0.50	73-74	
65	0.47	74-75	
66	0.46	75-76	
67	0.50	76-77	
68	0.48	77-78	
69	0.50	78-79	
70	0.46	79-80	
71	0.49	80-81	
72	0.42	81-82	
73	0.54	82-84	
74	0.55	84-86	
75	0.45	86-88	
76	0.43	88-90	
77	0.49	90-91	
78	0.52	91-93	
79	0.44	93-95	
80	0.43	95-97	
81	0.55	97-99	
82	0.44	99-101	
83	0.48	101-102	

第2節 1面の調査と発見された遺構と遺物

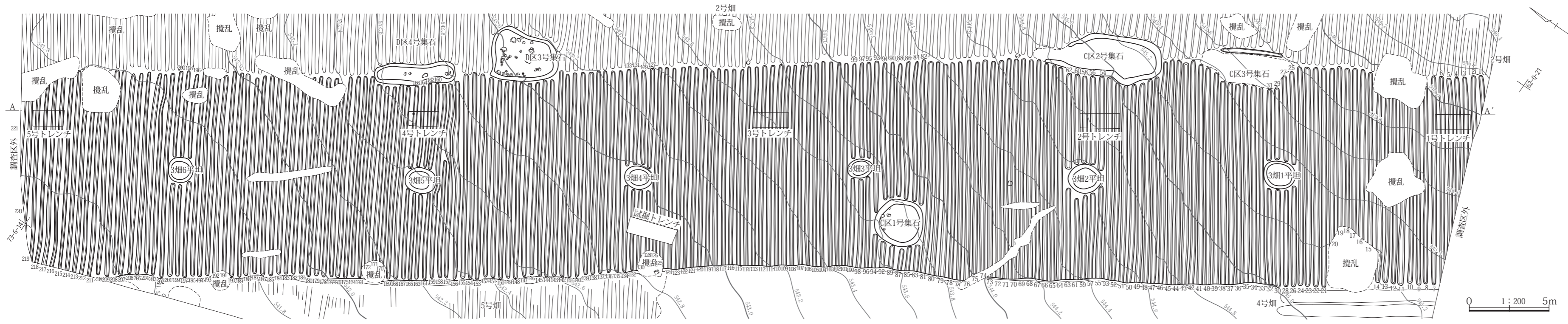
サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
84	8.74	0.30	0.05	
85	1.54	0.28	—	
86	8.62	0.32	0.08	
87	1.36	0.28	—	
88	8.31	0.27	0.06	
89	1.45	0.31	—	
90	9.50	0.34	0.04	
91	8.55	0.35	0.05	
92	1.62	0.32	—	
93	9.46	0.30	0.06	
94	2.11	0.27	—	
95	6.02	0.27	0.05	
96	5.70	0.30	—	
97	5.93	0.30	0.04	
98	5.54	0.31	—	
99	5.94	0.28	0.04	
100	5.52	0.30	—	
101	12.62	0.29	0.03	
102	12.66	0.29	0.04	
103	12.76	0.30	0.03	
104	12.81	0.30	0.04	
105	12.69	0.28	0.03	
106	12.50	0.30	0.03	
107	12.47	0.30	0.04	
108	12.52	0.27	0.05	
109	12.43	0.30	0.05	
110	12.56	0.29	0.04	
111	12.53	0.30	0.06	
112	12.49	0.29	0.06	
113	12.38	0.28	0.05	
114	12.41	0.27	0.05	
115	12.20	0.27	0.04	
116	12.22	0.27	0.04	
117	12.22	0.28	0.04	
118	12.30	0.30	0.05	
119	12.18	0.26	0.07	
120	12.43	0.32	0.06	
121	12.47	0.28	0.06	
122	12.62	0.26	0.05	
123	12.62	0.28	0.04	
124	(12.52)	0.31	0.05	トレンチで切られる
125	(12.53)	0.30	0.04	トレンチで切られる
126	(12.60)	0.29	0.04	トレンチで切られる
127	6.27	0.29	0.04	
128	(3.80)	0.27	—	トレンチで切られる
129	5.84	0.28	0.05	
130	(5.05)	0.28	—	トレンチで切られる
131	6.06	0.29	0.06	
132	(5.09)	0.23	—	トレンチで切られる
133	6.03	0.32	0.03	
134	5.44	0.30	—	
135	12.58	0.32	0.03	
136	12.62	0.35	0.05	
137	12.70	0.28	0.04	
138	12.74	0.31	0.06	
139	12.65	0.33	0.05	
140	12.82	0.32	0.07	
141	12.78	0.31	0.07	
142	12.65	0.28	0.06	
143	12.84	0.33	0.06	
144	12.32	0.31	0.09	
145	12.26	0.30	0.06	
146	12.02	0.28	0.07	
147	12.11	0.30	0.04	
148	12.26	0.30	0.04	
149	12.32	0.32	0.04	
150	12.34	0.33	0.05	
151	12.32	0.31	0.06	
152	12.44	0.35	0.02	
153	12.85	0.34	0.04	
154	12.90	0.29	0.05	
155	12.76	0.33	0.05	
156	12.35	0.37	0.04	
157	12.12	0.35	0.04	
158	7.34	0.30	—	
159	12.15	0.28	0.04	
160	5.42	0.25	0.01	
161	5.47	0.25	—	
162	5.26	0.23	0.05	
163	5.31	0.26	—	
164	5.08	0.22	0.03	
165	5.44	0.23	—	
166	5.17	0.27	0.07	

サク間番号	サク間	サク間位置	備考
84	0.46	102-103	
85	0.47	103-104	
86	0.45	104-105	
87	0.41	105-106	
88	0.46	106-107	
89	0.46	107-108	
90	0.47	108-109	
91	0.45	109-110	
92	0.48	110-111	
93	0.48	111-112	
94	0.50	112-113	
95	0.43	113-114	
96	0.46	114-115	
97	0.51	115-116	
98	0.46	116-117	
99	0.46	117-118	
100	0.41	118-119	
101	0.49	119-120	
102	0.51	120-121	
103	0.46	121-122	
104	0.44	122-123	
105	0.47	123-124	
106	0.46	124-125	
107	0.42	125-126	
108	0.48	126-127	
109	0.45	127-129	
110	0.46	129-131	
111	0.51	131-133	
112	0.50	133-135	
113	0.50	135-136	
114	0.48	136-137	
115	0.42	137-138	
116	0.50	138-139	
117	0.45	139-140	
118	0.53	140-141	
119	0.40	141-142	
120	0.49	142-143	
121	0.50	143-144	
122	0.44	144-145	
123	0.45	145-146	
124	0.57	146-147	
125	0.50	147-148	
126	0.47	148-149	
127	0.47	149-150	
128	0.48	150-151	
129	0.53	151-152	
130	0.47	152-153	
131	0.50	153-154	
132	0.54	154-155	
133	0.50	155-156	
134	0.39	156-157	
135	0.44	157-159	
136	0.48	159-160	
137	0.42	160-162	
138	0.45	162-164	
139	0.43	164-166	
140	0.56	166-168	
141	0.41	168-169	
142	0.44	169-170	
143	0.43	170-171	
144	0.50	171-172	
145	0.48	172-173	
146	0.37	173-174	
147	0.47	174-175	
148	0.55	175-176	
149	0.45	176-177	
150	0.40	177-178	
151	0.48	178-179	
152	0.51	179-180	
153	0.45	180-181	
154	0.50	181-182	
155	0.49	182-183	
156	0.50	183-184	
157	0.56	184-185	
158	0.47	185-186	
159	0.50	186-187	
160	0.48	187-188	
161	0.50	188-189	
162	0.47	189-190	
163	0.49	190-191	
164	0.54	191-192	
165	0.50	192-193	
166	0.45	193-194	

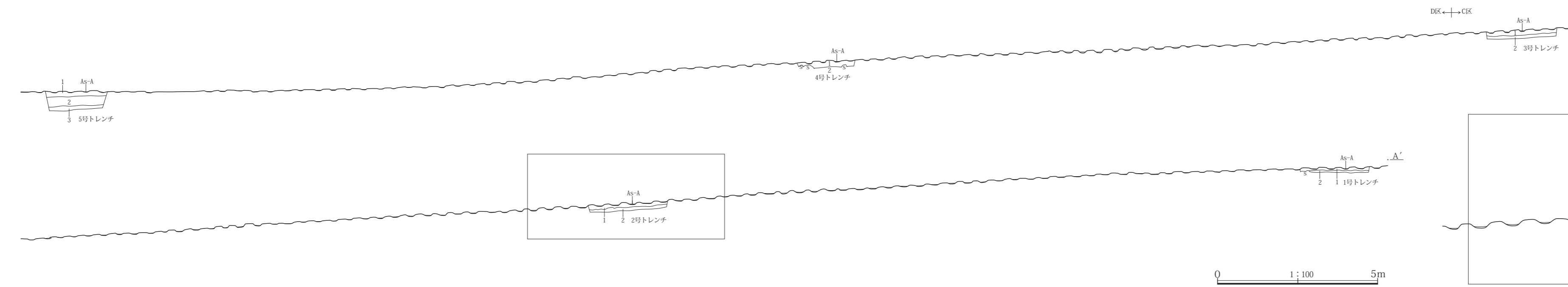
第3章 発見された遺構と遺物

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
167	5.66	0.25	—	
168	12.04	0.32	0.02	
169	12.16	0.30	0.03	
170	11.05	0.28	0.03	
171	10.93	0.30	0.05	
172	11.24	0.32	0.05	
173	12.56	0.27	0.03	
174	12.52	0.26	0.03	
175	12.61	0.30	0.03	
176	12.55	0.30	0.07	
177	11.42	0.27	0.06	
178	(12.43)	0.27	0.05	攪乱で切られる
179	(12.39)	0.33	0.05	攪乱で切られる
180	(12.51)	0.27	0.04	攪乱で切られる
181	(12.29)	0.31	0.04	攪乱で切られる
182	(11.42)	0.28	0.05	攪乱で切られる
183	(11.80)	0.29	0.04	攪乱で切られる
184	(12.02)	0.31	0.04	攪乱で切られる
185	(12.34)	0.32	0.04	攪乱で切られる
186	(12.43)	0.31	0.05	攪乱で切られる
187	(12.37)	0.28	0.07	攪乱で切られる
188	(12.36)	0.34	0.05	攪乱で切られる
189	12.71	0.26	0.03	
190	12.76	0.29	0.03	
191	12.60	0.25	0.05	
192	12.38	0.33	0.03	
193	12.34	0.29	0.02	
194	12.52	0.27	0.03	
195	(12.70)	0.27	0.02	攪乱で切られる
196	(5.25)	0.24	0.04	攪乱で切られる
197	6.02	0.28	—	
198	(5.41)	0.23	0.04	攪乱で切られる
199	5.73	0.24	—	
200	5.38	0.24	0.04	
201	5.84	0.32	—	
202	12.77	0.28	0.04	
203	12.60	0.29	0.03	
204	12.52	0.35	0.02	
205	12.68	0.28	0.03	
206	12.54	0.33	0.03	
207	12.63	0.35	0.02	
208	12.74	0.29	0.04	
209	(12.93)	0.29	0.03	攪乱で切られる
210	10.17	0.28	—	
211	10.26	0.28	—	
212	10.15	0.27	—	
213	10.20	0.27	0.05	
214	12.53	0.27	0.02	
215	11.94	0.24	0.02	
216	11.85	0.27	0.04	
217	11.62	0.26	0.03	
218	11.16	0.23	0.03	
219	10.42	0.26	0.03	
220	8.10	0.33	0.03	
221	4.70	0.31	—	

サク間番号	サク間	サク間位置	備考
167	0.40	194-195	
168	0.55	195-196	
169	0.47	196-198	
170	0.46	198-200	
171	0.47	200-202	
172	0.56	202-203	
173	0.42	203-204	
174	0.51	204-205	
175	0.49	205-206	
176	0.49	206-207	
177	0.50	207-208	
178	0.45	208-209	
179	0.47	209-210	
180	0.47	210-211	
181	0.46	211-212	
182	0.48	212-213	
183	0.50	213-214	
184	0.48	214-215	
185	0.50	215-216	
186	0.48	216-217	
187	0.48	217-218	
188	0.48	218-219	
189	0.47	219-220	
190	0.47	23-24	3畑1平坦西側
191	0.45	24-26	3畑1平坦西側
192	0.49	26-28	3畑1平坦西側
193	0.50	28-50	3畑1平坦西側
194	0.52	30-32	3畑1平坦西側
195	0.47	32-33	3畑1平坦西側
196	0.49	33-34	3畑1平坦西側
197	0.48	52-53	3畑2平坦西側
198	0.48	53-55	3畑2平坦西側
199	0.50	55-57	3畑2平坦西側
200	0.50	57-59	3畑2平坦西側
201	0.50	59-61	3畑2平坦西側
202	0.54	61-63	3畑2平坦西側
203	0.50	63-64	3畑2平坦西側
204	0.50	64-65	3畑2平坦西側
205	0.48	80-81	3畑3平坦とC区1集石の間
206	0.50	81-82	3畑3平坦とC区1集石の間
207	0.42	82-84	3畑3平坦とC区1集石の間
208	0.53	84-86	3畑3平坦とC区1集石の間
209	0.48	86-88	3畑3平坦とC区1集石の間
210	0.44	88-90	3畑3平坦とC区1集石の間
211	0.43	90-91	3畑3平坦とC区1集石の間
212	0.57	91-93	3畑3平坦とC区1集石の間
213	0.50	93-96	3畑3平坦とC区1集石の間
214	0.40	96-98	3畑3平坦とC区1集石の間
215	0.50	98-100	3畑3平坦とC区1集石の間
216	0.52	100-101	3畑3平坦とC区1集石の間
217	0.46	101-102	3畑3平坦とC区1集石の間
218	0.56	80-81	C区1号集石西側
219	0.49	81-83	C区1号集石西側
220	0.50	83-85	C区1号集石西側
221	0.47	85-87	C区1号集石西側
222	0.60	87-90	C区1号集石西側
223	0.56	89-92	C区1号集石西側
224	0.50	92-94	C区1号集石西側
225	0.47	94-96	C区1号集石西側
226	0.48	96-98	C区1号集石西側
227	0.53	98-100	C区1号集石西側
228	0.45	100-101	C区1号集石西側
229	0.44	101-102	C区1号集石西側
230	0.49	125-126	3畑4平坦西側
231	0.45	126-128	3畑4平坦西側
232	0.52	128-130	3畑4平坦西側
233	0.44	130-132	3畑4平坦西側
234	0.48	132-134	3畑4平坦西側
235	0.46	134-135	3畑4平坦西側
236	0.50	135-136	3畑4平坦西側
237	0.46	156-157	3畑5平坦西側
238	0.43	157-158	3畑5平坦西側
239	0.48	158-159	3畑5平坦西側
240	0.41	159-161	3畑5平坦西側
241	0.47	161-163	3畑5平坦西側
242	0.41	163-165	3畑5平坦西側
243	0.44	165-167	3畑5平坦西側
244	0.49	167-168	3畑5平坦西側
245	0.46	168-169	3畑5平坦西側
246	0.48	194-195	3畑6平坦西側
247	0.50	195-197	3畑6平坦西側
248	0.52	197-199	3畑6平坦西側
249	0.46	199-201	3畑6平坦西側
250	0.47	201-202	3畑6平坦西側
251	0.45	202-203	3畑6平坦西側



A. L=546.20m



- (C・D区1面) 1～4号トレンチ
- 1 天明耕作土 若干の小礫含む。
 - 2 黄褐色土 ローム、礫を含む。
- (D区1面) 5号トレンチ
- 1 天明耕作土
 - 2 黒色土 小礫わずかに含み細粒。1層より黒味あり。
 - 3 黒褐色土 礫、黒味を帯びたローム土含む。

第25図 C・D区3号畑

(5) 4号畑(第26図、PL. 8)

概要 4号畑はC区南西部に在る畑である。本畑はC・D区に標準的なやや幅狭のサク幅とサク間で耕作された畑とは異なり、サク幅も広く、サク間も大きい畑である。

なお、本畑は西半部を中心に遺存状態は良くなく、南側が調査区外に出ているため一部を調査したに過ぎないため、全容は詳らかでない。

位置 本畑はC区南西部の62区に位置する。62区T～X-19～22グリッドに在る。

規模・サク方位 〔規模〕 東西：14.1m
南北確認範囲：10.3m

〔サク方位〕 N34°W

〔サク幅〕 0.35～0.90m(平均：0.631m)

深：0.11～0.18m(平均：0.145m)

〔サク底部一畝頂部高〕 0.15～0.23m(平均：0.183m)

〔サク間〕 0.34～1.04m(平均：0.872)

重複 本畑は他遺構との重複は確認されなかった。

なお、本畑の東側にはN34°W方向に狭間を挟んで3号畑が近接した在り、西側には1号溝が近接して在る。また本畑の北側は平坦面が広がっている。

覆土 本畑では、サク内にAs-A軽石(1層)が堆積するが、サク11～17の上には耕作土(2層)が乗り、その上に天明泥流が覆っている。

構造 本畑は17条のサクで構成されているが、上述のように南側は調査区外に出ているため、全容は詳らかでない。

本畑は長さ10.4m以上、幅14.4mを測る区画の中に掘削されている。サクは並行に掘削されているが、C・D区の畑にあって唯一、北西-南東方向に掘削されている。サク幅、サク間は、本調査区の平均的な畑の2倍の規模がある。

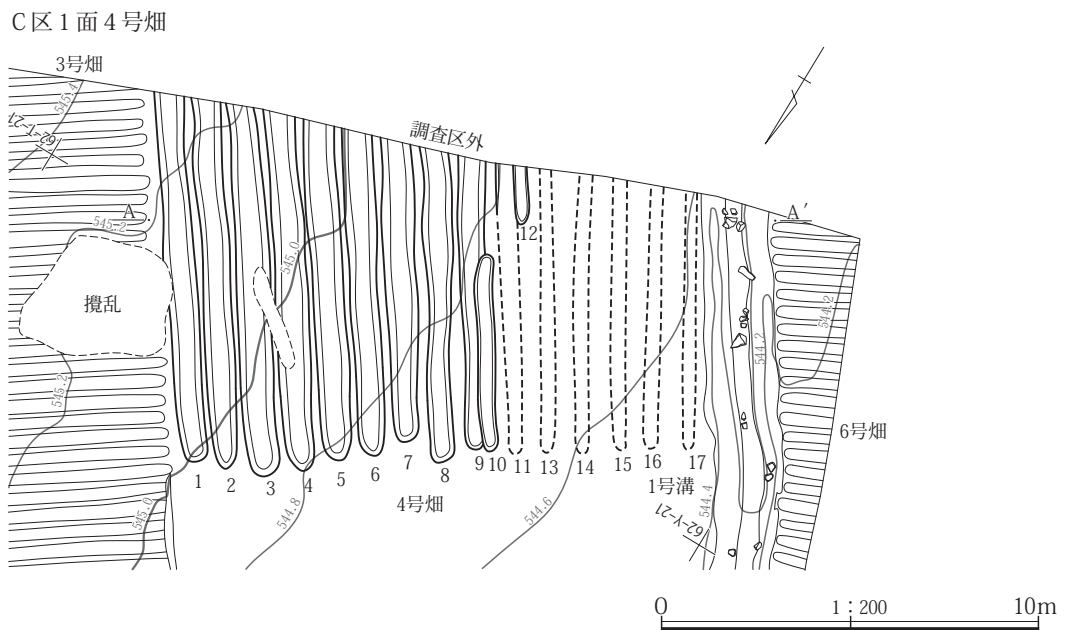
上述のように西半部はサクの上に耕作土が被せられている。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 上述のように本畑は南側が調査区外に在るため、全容は詳らかでなく、C区、D区に一般的な畑に対してサクの規格の大きい遺構である。

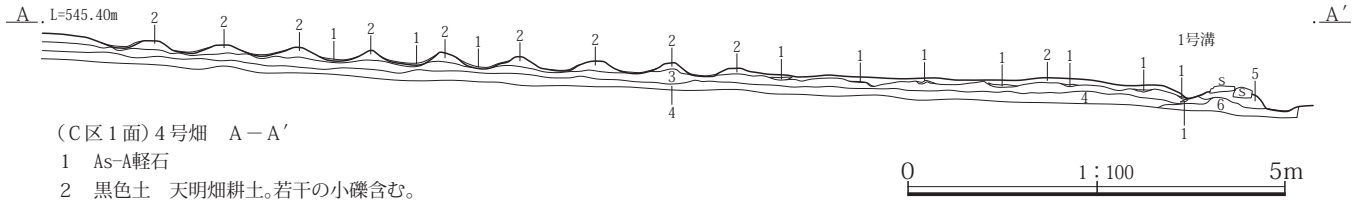
また、本畑の東半部はAs-A軽石の堆積がサクの中に限られることから、軽石降下から翌日の泥流到達までの間に(土用の)培土が行われなかったことが分かるが、西半部はAs-A軽石降下後泥流到達までの間に鋤き込みが行われていたことが分かる。換言すれば、As-A軽石降下後に開始した鋤き込み作業が、浅間山の噴火か、泥流到達により中断(中止)されたことが分かるのである。

本畑は、As-A軽石と泥流の堆積から、天明3年の畑と判断される。



第26図 C区4号畑

第3章 発見された遺構と遺物



(C区1面)4号畑 A-A'

- 1 As-A軽石
- 2 黒色土 天明畑耕土。若干の小礫含む。
- 3 黒色土 小礫含む。
- 4 黒色土 2層に似るがやや黒味強い。
- 5 黒色土 大型の礫含む(土手の盛り土)。
- 6 黒褐色土 黒色土と黄色ロームブロックの混土。少量の礫含む

第27図 C区4号畑土層断面

表26 C区4号畑サク一覧

単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	9.89	0.83	0.11	
2	9.92	0.79	0.13	
3	9.90	0.90	0.12	
4	9.70	0.87	0.16	
5	9.08	0.87	0.18	
6	8.72	0.82	0.18	
7	8.14	0.88	0.15	
8	8.45	0.79	0.15	
9	7.86	0.73	0.13	
10	5.13	0.46	—	
11	7.70	0.51	—	
12	1.56	0.38	—	
13	7.52	0.39	—	
14	7.43	0.38	—	
15	7.20	0.40	—	
16	6.99	0.38	—	
17	6.84	0.35	—	

—は計測不可
○内寸法は推定長さ

表27 C区4号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間番号	サク間	サク間位置	備考
1	1.03	1-2	
2	1.00	2-3	
3	0.97	3-4	
4	0.94	4-5	
5	1.02	5-6	
6	0.97	6-7	
7	1.04	7-8	
8	0.90	8-9	
9	0.97	9-11	
10	0.40	11-12	
11	0.63	12-13	
12	0.99	13-14	
13	0.96	14-15	
14	0.97	15-16	
15	0.94	16-17	
16	0.90	7-8	北側
17	0.90	8-9	北側
18	0.34	9-10	北側
19	0.71	10-11	北側
20	0.87	11-12	北側

(6) 5号畑(第28図、PL. 6)

概要 5号畑はD区西端部に位置する畑である。本畑はやや幅狭のサク幅とサク間で耕作されたC・D区に標準的な畑である。

また、北及び西側は平成16年度調査区に続いているが、本畑の遺存状態は不良で、特に北半部は東端近くのサクが確認されるに過ぎず、南半部も東西両側が失われているように見受けられる。

位置 本畑はC区南西部72区に位置し、B～E-4～10グリッドに在る。

規模・サク方位 [規模] 東西：7.8m

南北確認範囲：26.6m

[サク方位] N56°E

(サク35～37) N65°E

[サク]幅：0.21～0.35m(平均：0.295m)

[サク底部-畝頂部高] —m

[サク間] 0.41～3.64m(平均：0.634m)

重複 本畑は他遺構との重複は確認されなかった。

なお、本畑の東側にはN34°W方向に狭間を挟んで3

号畑が近接しており、西側は平成16年度調査区が接し、H16-KA9-3・4号畑面が広がっている。

覆土 本畑は天明泥流に覆われていた。

構造 本畑は48条のサクで構成されているが、上述のように遺存状態が悪く、全容は詳らかでない。

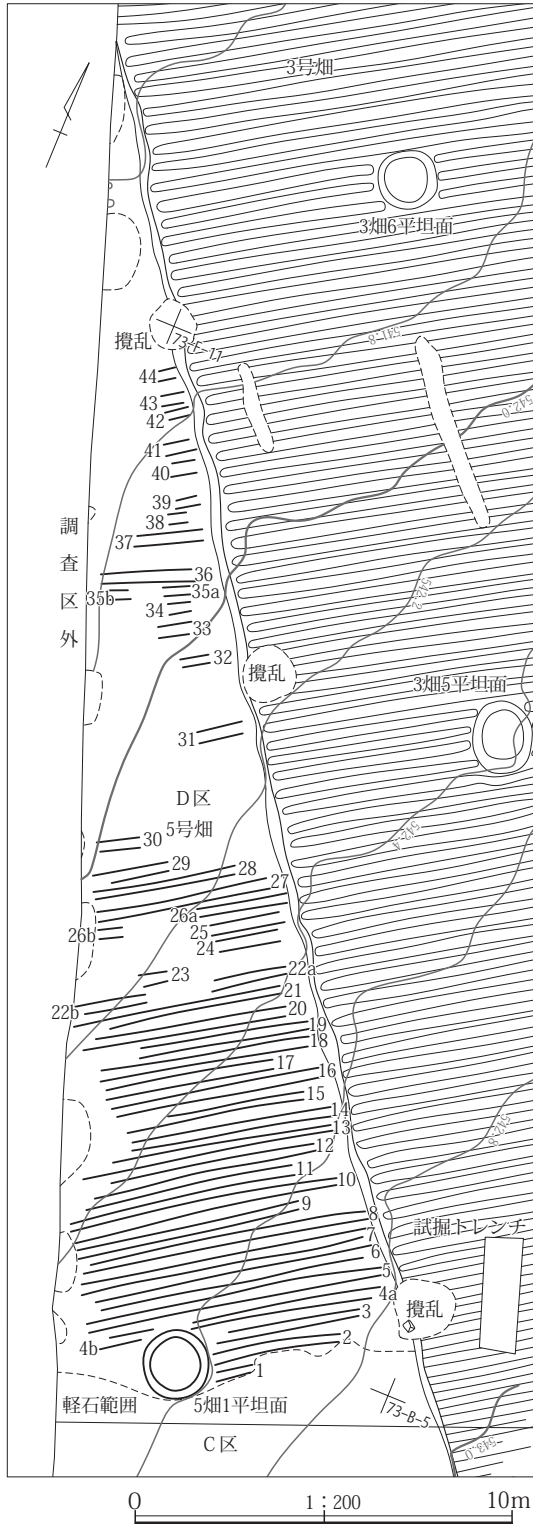
本畑は長さ30m以上、幅8m程を測る区画の中に掘削されている。南西-北東方向に掘削されるサクは、並行に掘削されているが、サク幅が狭く、サク間も狭い畑である。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 上述のように本畑は西側が平成16年度調査区に続く可能性が想定されるが、遺存状態が良くないため、状態は詳らかでない。C・D区の畑に標準的な、畑である。

恐らくは軽石降下から翌日の泥流到達までの間に(土用の)培土が行われなかったことが想定される。またH16-KA9-3・4号畑との関係は特定できなかった。

なお、本畑はこれを覆うテフラと泥流から推して、天明3年の畑と判断される。



第28図 D区5号畑

表28 D区5号畑サク一覧

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	0.96	0.23	—	
2	3.40	0.28	—	
3	3.82	0.24	—	
4a	5.05	0.27	—	東
4b	1.46	0.24	—	西
5	7.93	0.31	—	
6	7.44	0.32	—	
7	7.71	0.29	—	
8	7.70	0.26	—	
9	6.00	0.23	—	
10	7.17	0.34	—	
11	6.60	0.27	—	
12	6.01	0.30	—	
13	6.72	0.28	—	
14	5.40	0.25	—	
15	4.73	0.22	—	
16	5.58	0.30	—	
17	4.51	0.29	—	
18	5.56	0.29	—	
19	4.45	0.25	—	
20	5.42	0.26	—	
21	5.57	0.24	—	
22a	2.04	0.27	—	東
22b	1.88	0.26	—	西
23	0.76	0.30	—	

単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
24	1.65	0.31	—	
25	1.98	0.28	—	
26a	2.42	0.24	—	
26b	0.63	0.25	—	
27	4.63	0.28	—	
28	3.82	0.22	—	
29	2.02	0.27	—	
30	1.14	0.28	—	
31	1.23	0.31	—	
32	0.78	0.21	—	
33	0.90	0.30	—	
34	0.60	0.28	—	
35a	0.71	0.22	—	東
35b	0.64	0.24	—	西
36	2.51	0.32	—	
37	1.84	0.30	—	
38	0.52	0.27	—	
39	0.67	0.24	—	
40	0.70	0.35	—	
41	0.84	0.31	—	
42	0.64	0.22	—	
43	0.62	0.27	—	
44	0.48	0.26	—	

—は計測不可
○内寸法は推定長さ

表29 D区5号畑サク間一覧

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
1	0.47	1-2	
2	0.55	2-3	
3	0.50	3-4a	
4	0.51	4a-5	
5	0.52	5-6	東側
6	0.46	6-7	
7	0.53	7-8	
8	0.57	8-9	
9	0.44	9-10	
10	0.49	10-11	
11	0.50	11-12	
12	0.44	12-13	
13	0.42	13-14	
14	0.54	14-15	
15	0.50	15-16	
16	0.45	16-17	
17	0.44	17-18	
18	0.42	18-19	
19	0.45	19-20	
20	0.57	20-21	
21	0.50	21-22a	
22	0.93	22a-24	
23	0.48	24-25	
24	0.48	25-26a	
25	0.44	26a-27	

単位 (m)

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
26	0.51	27-28	東側
27	3.64	28-31	
28	2.00	31-32	
29	0.90	32-33	
30	0.56	33-34	
31	0.45	34-35a	
32	0.39	35a-36	
33	1.02	36-37	
34	0.50	37-38	
35	0.40	38-39	
36	0.90	39-40	
37	0.58	40-41	
38	0.88	41-42	
39	0.41	42-43	
40	0.67	43-44	
41	0.48	4b-5	
42	0.52	5-6	西側
43	0.46	21-22b	
44	0.44	22b-23	
45	0.50	26b-27	
46	0.57	27-28	西側
47	0.43	28-29	
48	0.82	29-30	
49	0.44	35b-36	

(7) 6号畑(第29図、PL. 8)

概要 6号畑はC区南西隅部に位置する畑である。本畑はやや幅狭のサク幅とサク間で耕作されたC・D区に標準的な畑である。

また、西側には平成16年度調査区が在り、本畑はH16-K A 10-13・14・15号畑の一部を構成している。

位置 本畑はC・D区南西隅部、62・72区に位置し、62区X～72区A区-18～22グリッドに位置する。

規模・サク方位 [規模] 東西確認範囲：2.4m
南北確認範囲：18.3m

[サク方位] N63°E

[サク幅] 0.16～0.35m(平均：0.273m)

[サク底部一畝頂部高] ーm

[サク間] 0.40～0.80m(平均：0.476m)

重複 本畑は他遺構との重複は確認されなかったが、繰り返すように西側のH16-K A 10-13～15号畑の一部を構成している。

なお、本畑の東側にはC区1号溝が接するように在る。

覆土 本畑は天明泥流に覆われていた。

構造 本畑は42条のサクが確認されている。

このうちサク1～32はサク幅が狭く、サク間も狭いC・

D区に標準的な畑であるが、サク33～42ではサク幅は狭いものの、サク間はサク1～32に比して若干広く、遺存状態も良くない。

サク1～32は西接する平成H16-K A 10-14・15号畑に同一のものであるが、H16-14・15号畑双方の境界、及びこれらに西接する18・19号畑との境界が不明瞭であるため、畑の規模等を確認することはできなかった。

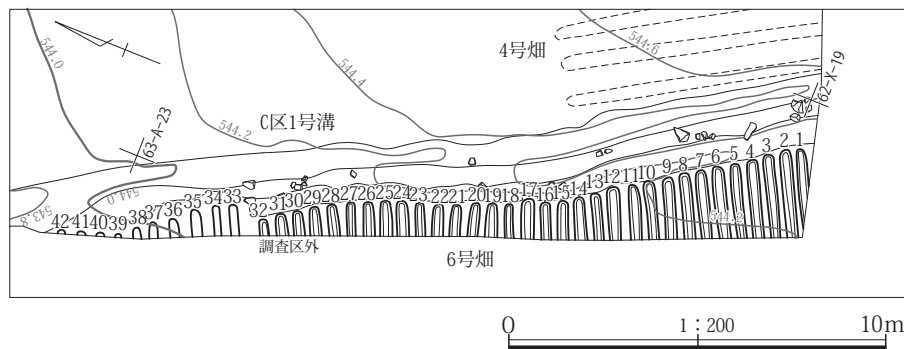
一方、サク33～42は、西接するH16-K A 10-13号畑の境界を合わせて、略南辺幅が9.6m、略北片幅が7.2m、略南北長10mを測る筆の中に掘削された畑である。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 上述のように本畑は西側が平成16年度調査区に発見されたH16-K A 10-13・14・15号畑に連続する畑である。その掘削差形態はC・D区に標準的な畑であるが、K A 10-13号畑に繋がるサク33～42は遺存状態も良好ではなかった。

なお、恐らくは軽石降下から翌日の泥流到達までの間に(土用の)培土が行われなかったことが想定される。

なお、本畑は、これを覆うテフラと泥流から推して、天明3年の畑と判断される。



第29図 C区6号畑

表30 C区6号畑サク一覧

単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	2.04	0.28	—	
2	2.32	0.31	—	
3	2.21	0.30	—	
4	2.08	0.30	—	
5	1.98	0.27	—	
6	1.92	0.33	—	
7	1.81	0.30	—	
8	1.74	0.30	—	
9	1.63	0.30	—	
10	1.56	0.30	—	
11	1.47	0.31	—	
12	1.40	0.33	—	
13	1.24	0.26	—	
14	1.14	0.30	—	
15	1.03	0.29	—	

表31 C区6号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
1	0.40	1-2	
2	0.45	2-3	
3	0.46	3-4	
4	0.45	4-5	
5	0.47	5-6	東側
6	0.46	6-7	
7	0.43	7-8	
8	0.45	8-9	
9	0.50	9-10	
10	0.42	10-11	
11	0.53	11-12	
12	0.47	12-13	
13	0.45	13-14	
14	0.42	14-15	
15	0.48	15-16	

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
16	1.00	0.26	—	
17	1.05	0.35	—	
18	0.90	0.23	—	
19	0.88	0.33	—	
20	0.88	0.27	—	
21	0.84	0.29	—	
22	0.85	0.30	—	
23	0.89	0.25	—	
24	0.94	0.32	—	
25	0.93	0.33	—	
26	0.90	0.30	—	
27	0.89	0.23	—	
28	0.82	0.29	—	
29	0.77	0.30	—	
30	0.64	0.29	—	
31	0.56	0.31	—	
32	0.44	0.24	—	
33	0.82	0.22	—	
34	0.79	0.17	—	
35	0.72	0.28	—	
36	0.50	0.25	—	
37	0.44	0.23	—	
38	0.30	0.21	—	
39	0.10	0.16	—	
40	0.11	0.20	—	
41	0.10	0.21	—	
42	0.10	0.19	—	

○内寸法は推定長さ
—は計測不可

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
16	0.45	16-17	
17	0.50	17-18	
18	0.42	18-19	
19	0.43	19-20	
20	0.52	20-21	
21	0.47	21-22	
22	0.49	22-23	
23	0.48	23-24	
24	0.42	24-25	
25	0.44	25-26	
26	0.46	26-27	
27	0.46	27-28	
28	0.48	28-29	
29	0.46	29-30	
30	0.43	30-31	
31	0.46	31-32	
32	0.80	32-33	
33	0.43	33-34	
34	0.52	34-35	
35	0.60	35-36	
36	0.58	36-37	
37	0.40	37-38	
38	0.50	38-39	
39	0.48	39-40	
40	0.50	40-41	
41	0.50	41-42	

(8) 7号畑(第30図、PL. 9)

概要 7号畑はD区中西部に位置する畑である。本畑はやや幅狭のサク幅とサク間で耕作されたC・D区に標準的な畑である。

位置 本畑はD区中西部、72・73区に位置し、72区U～73区A区-11～18グリッドに位置する。

規模・サク方位 〔規模〕 東西：11.4m
南北確認範囲：27.9m

〔サク方位〕 N64°E

〔サク幅〕 0.23～0.41m(平均：0.295m)

〔サク底部-畝頂部高〕 —m

〔サク間〕 0.37～0.52m(平均：0.471m)

重複 本畑は他遺構との重複は確認されなかった。

なお、本畑の西側にはN33°W方向の狭間を挟んで2号畑が、また東側にはN29°W方向の狭間を挟んで8号畑が近接して在る。また本畑の南側は、1号畑までの19.5mの間、As-A軽石を鋤込んだサク上げによる平坦面が広がっている。そのやや北寄り西端にD区2号集石が遺されている。

覆土 本畑は天明泥流に覆われていた。

構造 本畑は59条のサクが確認されているが、北側が調査区外に出ているため、全容は詳らかでない。

本畑は長さ48m以上、幅8.5m程を測る、N33°W方向に主軸を向ける短冊形の区画の中に掘削されている。地割の短径方向に幅狭のサクが掘削されるが、サクは並行に密集して掘削されている。

本畑の南側はサク上げの痕跡が確認されている。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 本畑は、C・D区に標準的な掘削形態を呈する畑である。

また本畑の南側はAs-A軽石降下後にその処理のため、サク上げが施された痕跡が確認されたため、同作業の途中で泥流が到達したものと史料される。

なお、本畑は、泥流の堆積から、天明3年の畑と判断される。

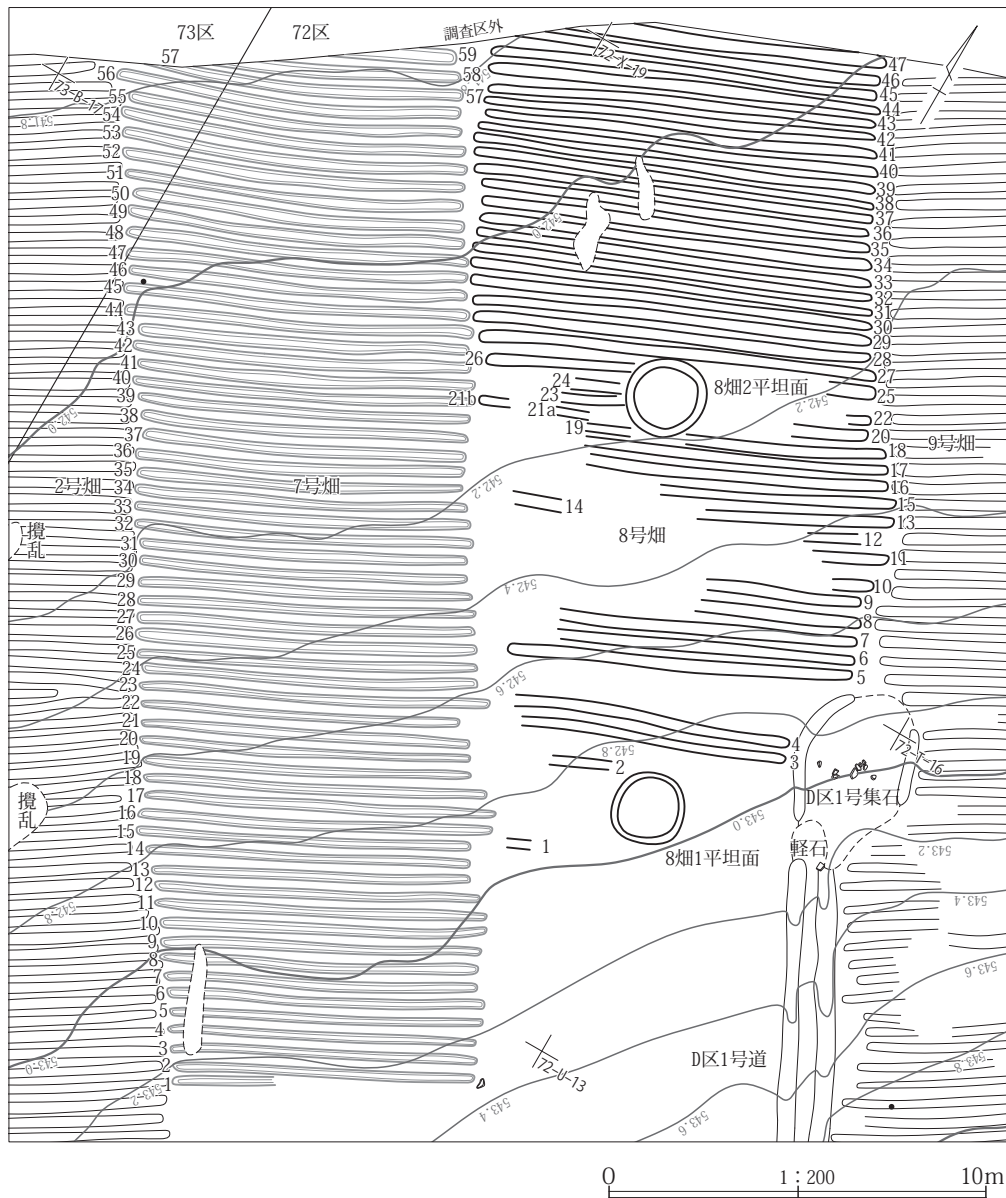
(9) 8号畑(第30図、PL. 9)

概要 8号畑はD区中北部に位置する畑である。

本畑はC・D区に標準的な畑であるが、遺存状態は良好とは言えない。

位置 本畑はD区中北部、72区T～X-14～19グリッドに位置する。

規模・サク方位 〔規模〕 東西：12.3m
南北確認範囲：22.2m



第30図 D区7・8号畑

〔サク方位〕 N67°E

〔サク幅〕 0.21~0.40m(平均:0.295m)

〔サク底部一畝頂部高〕 -m

〔サク間〕 0.30~1.85m(平均:0.506m)

重複 本畑の南端部に8号畑1号平坦面、北部に8号畑2号平坦面が設けられている。また南端、9号畑との境にD区1号集石が在り、1号集石の南側にはD区1号道が南南東に延びている。

なお、本畑の西側にはN29°W方向の狭間を挟んで7号畑が、東側にはN32°W方向に弱く蛇行する狭間を挟んで9号畑が近接して在る。また、本畑の南には平坦部が広がっている。

覆土 本畑は天明泥流に覆われていた。

構造 本畑は48条のサクが確認されているが、西部南寄りを中心にサクが確認できない箇所がある。

本畑は長さ48m以上、幅11.1m程を測る、N30°W方向に主軸を向ける短冊形の区画の中に掘削されている。地割の短径方向に幅狭のサクが掘削されるが、サクは並行に密集して掘削されている。

本畑の南寄りはサクが確認されていないことから、サク上げの施された可能性も考慮される。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 本畑は、C・D区に標準的な掘削形態を呈する畑である。

また、本畑は、泥流の堆積から、天明3年の畑と判断される。

第2節 1面の調査と発見された遺構と遺物

表32 D区7号畑サク一覧

単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	2.68	0.25	—	
2	7.98	0.25	—	
3	(8.12)	0.26	—	攪乱で切られる
4	(8.18)	0.25	—	攪乱で切られる
5	(8.30)	0.23	—	攪乱で切られる
6	(8.41)	0.27	—	攪乱で切られる
7	(8.31)	0.27	—	攪乱で切られる
8	(8.44)	0.30	—	攪乱で切られる
9	8.50	0.29	—	
10	8.62	0.30	—	
11	8.76	0.29	—	
12	8.59	0.26	—	
13	8.44	0.26	—	
14	8.58	0.25	—	
15	8.86	0.25	—	
16	9.38	0.29	—	
17	9.31	0.29	—	
18	9.11	0.27	—	
19	8.70	0.28	—	
20	8.76	0.28	—	
21	8.70	0.30	—	
22	8.43	0.26	—	
23	9.30	0.27	—	
24	8.88	0.30	—	
25	8.99	0.26	—	
26	9.04	0.36	—	
27	8.93	0.30	—	
28	8.92	0.27	—	
29	8.82	0.30	—	
30	8.65	0.26	—	
31	8.64	0.31	—	
32	8.95	0.27	—	
33	8.88	0.31	—	
34	8.78	0.28	—	
35	8.60	0.31	—	
36	8.71	0.32	—	
37	8.53	0.30	—	
38	8.66	0.30	—	
39	8.79	0.26	—	
40	9.00	0.28	—	
41	8.92	0.37	—	
42	8.96	0.34	—	
43	8.75	0.33	—	
44	9.25	0.32	—	
45	9.14	0.30	—	
46	8.95	0.33	—	
47	9.01	0.30	—	
48	9.08	0.32	—	
49	8.92	0.30	—	
50	8.79	0.34	—	
51	8.95	0.32	—	
52	9.07	0.35	—	
53	9.16	0.32	—	
54	9.13	0.29	—	
55	8.82	0.31	—	
56	9.11	0.31	—	
57	8.34	0.32	—	
58	6.45	0.36	—	
59	3.22	0.41	—	

()内寸法は推定長さ
—は計測不可

表33 D区7号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
1	0.37	1-2	
2	0.50	2-3	
3	0.46	3-4	
4	0.47	4-5	
5	0.46	5-6	
6	0.43	6-7	
7	0.50	7-8	
8	0.50	8-9	
9	0.48	9-10	
10	0.49	10-11	
11	0.45	11-12	
12	0.48	12-13	
13	0.50	13-14	
14	0.43	14-15	
15	0.45	15-16	
16	0.42	16-17	
17	0.50	17-18	
18	0.49	18-19	
19	0.47	19-20	
20	0.46	20-21	
21	0.48	21-22	
22	0.50	22-23	
23	0.47	23-24	
24	0.47	24-25	
25	0.49	25-26	
26	0.46	26-27	
27	0.50	27-28	
28	0.44	28-29	
29	0.45	29-30	
30	0.49	30-31	
31	0.50	31-32	
32	0.45	32-33	
33	0.48	33-34	
34	0.49	34-35	
35	0.46	35-36	
36	0.42	36-37	
37	0.51	37-38	
38	0.47	38-39	
39	0.46	39-40	
40	0.47	40-41	
41	0.44	41-42	
42	0.50	42-43	
43	0.45	43-44	
44	0.46	44-45	
45	0.43	45-46	
46	0.50	46-47	
47	0.48	47-48	
48	0.47	48-49	
49	0.42	49-50	
50	0.52	50-51	
51	0.50	51-52	
52	0.49	52-53	
53	0.47	53-54	
54	0.52	54-55	
55	0.49	55-56	
56	0.48	56-57	
57	0.46	57-58	
58	0.50	58-59	

表34 D区8号畑サク一覧

単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	0.62	0.25	—	
2	1.57	0.27	—	
3	7.06	0.27	—	
4	7.34	0.31	—	
5	9.17	0.34	—	
6	7.91	0.32	—	
7	7.90	0.34	—	
8	4.42	0.35	—	
9	4.09	0.33	—	
10	1.08	0.31	—	
11	2.00	0.29	—	
12	1.49	0.25	—	
13	5.21	0.30	—	
14	1.38	0.34	—	
15	6.26	0.28	—	
16	8.01	0.31	—	
17	8.05	0.27	—	
18	5.30	0.29	—	
19	1.19	0.23	—	
20	2.01	0.33	—	

表35 D区8号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
1	0.44	3-4	
2	1.85	4-5	
3	0.40	5-6	
4	0.38	6-7	
5	0.50	7-8	
6	0.54	8-9	
7	0.43	9-10	
8	0.70	10-11	
9	0.52	11-12	
10	0.50	12-13	
11	0.51	13-15	
12	0.43	15-16	
13	0.46	16-17	
14	0.40	17-18	
15	0.50	18-20	
16	0.39	20-22	
17	0.75	22-25	
18	0.48	25-27	
19	0.38	27-28	
20	0.49	28-29	

第3章 発見された遺構と遺物

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
21a	0.88	0.21	—	東
21b	0.82	0.22	—	西
22	0.64	0.31	—	
23	1.69	0.24	—	
24	1.34	0.29	—	
25	1.25	0.35	—	
26	3.88	0.32	—	
27	10.56	0.31	—	
28	10.58	0.32	—	
29	10.62	0.30	—	
30	10.72	0.27	—	
31	10.73	0.26	—	
32	(10.64)	0.24	—	攪乱で切られる
33	(10.57)	0.27	—	攪乱で切られる
34	(10.47)	0.30	—	攪乱で切られる
35	(10.36)	0.32	—	攪乱で切られる
36	(10.33)	0.26	—	攪乱で切られる
37	(10.62)	0.26	—	攪乱で切られる
38	(10.65)	0.25	—	攪乱で切られる
39	10.73	0.27	—	
40	10.66	0.28	—	
41	10.45	0.29	—	
42	10.42	0.24	—	
43	10.30	0.25	—	
44	10.44	0.33	—	
45	10.28	0.26	—	
46	9.31	0.31	—	
47	8.50	0.40	—	

○内寸法は推定長さ
—は計測不可

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
21	0.44	29-30	
22	0.33	30-31	
23	0.37	31-32	
24	0.40	32-33	
25	0.43	33-34	
26	0.47	34-35	
27	0.40	35-36	
28	0.40	36-37	
29	0.40	37-38	
30	0.40	38-39	
31	0.43	39-40	
32	0.46	40-41	
33	0.48	41-42	
34	0.34	42-43	
35	0.40	43-44	
36	0.35	44-45	
37	0.40	45-46	
38	0.54	46-47	
39	0.95	2-3	8畑2平坦西側
40	0.56	3-4	8畑2平坦西側
41	1.35	4-5	8畑2平坦西側
42	0.45	5-6	8畑2平坦西側
43	0.48	6-7	8畑2平坦西側
44	4.18	7-16	8畑2平坦西側
45	0.49	16-17	8畑2平坦西側
46	0.35	17-19	8畑2平坦西側
47	0.30	19-21a	8畑2平坦西側
48	0.41	21a-23	8畑2平坦西側
49	0.39	23-24	8畑2平坦西側
50	0.54	24-26	8畑2平坦西側
51	0.57	26-27	8畑2平坦西側

(10) 9号畑(第31図、PL.10)

概要 9号畑はD区中部やや東寄りに位置する畑である。

本畑はC・D区に標準的な畑であるが、遺存状態は北部の一部と南半部にはサクが確認できない箇所も散見され、南側は失われている。

位置 本畑はD区中北部、72区O～V-11～20グリッドに位置する。

規模・サク方位 〔規模〕 東西：13.4m
南北確認範囲：37.7m

〔サク方位〕 (サク1～60) N58°E

(サク61～127) N62°E

〔サク幅〕 0.14～0.37m(平均：0.256m)

〔サク底部一畝頂部高〕 —m

〔サク間〕 0.37～0.92m(平均：0.478m)

重複 本畑は南東-北東方向に9号畑1～4号平坦面が、また3号平坦面の北東方向、9号畑の東端近くに9号畑5号平坦面が重複して在り、本畑の中程西端部にはD区1号集石が重なるが、これらの遺構は本畑と併存していたものと判断される。

また1号集石の南東、本畑の南西端に沿って1号道が南東方向に走行しており、本畑の南東側にサクは確認されていない。

なお、本畑の西側にはN32°W方向に弱く蛇行する狭間を挟んで8号畑が、東側には北部でN27°W、南部で

N29°W方向で緩やかな弧状を描く狭間を挟んで10号畑が近接して在る。

覆土 本畑は天明泥流に覆われていた。

構造 本畑は北西側が調査区外に在り、遺存状態が悪くサクが確認できない箇所も散見されるため、全容は詳らかにできないが、分断しているものを含め127条のサクが確認されている。

本畑は長さ37.8m以上、幅11.4m程を測る、N26°W方向に主軸を向ける短冊形の区画の中に掘削された畑である。地割の短径方向に幅狭のサクが掘削されるが、サクは並行に密集して掘削される。

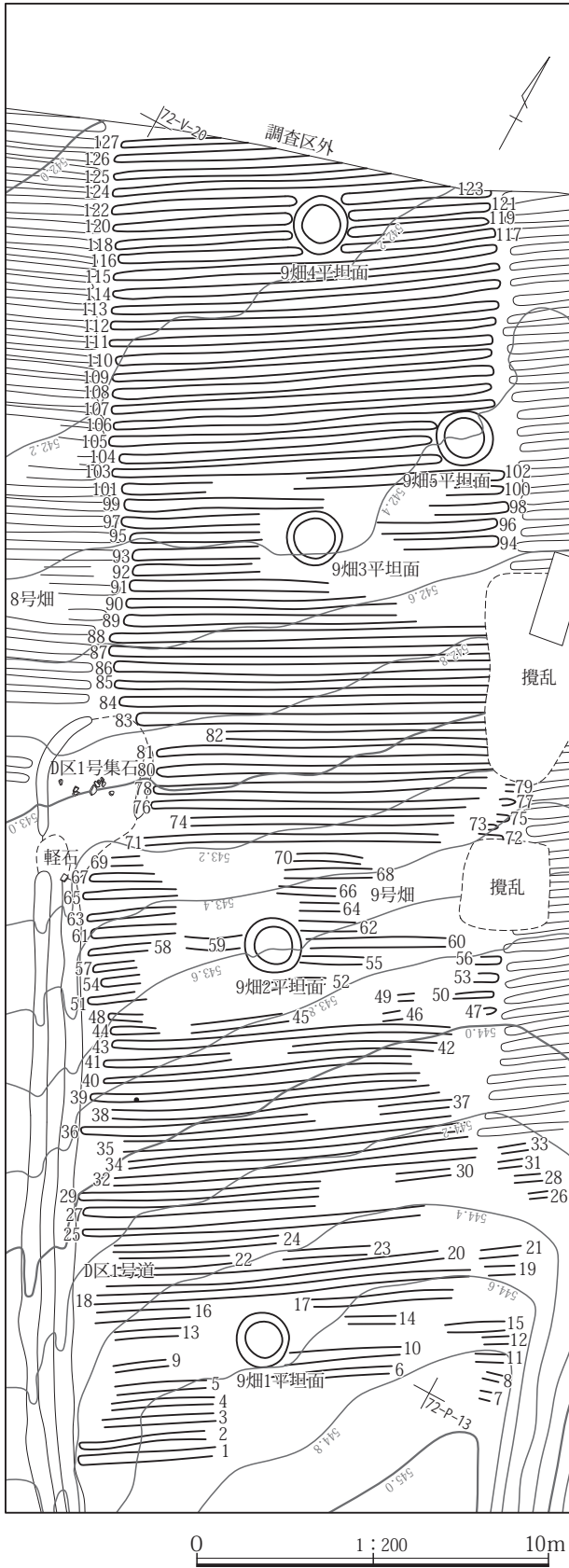
また、本報告では9号畑に含めたが、サク7・8・11・12・15・19・21は掘削位置から推して、後述の10号畑に含まれる、あるいは別の畑の一部である可能性を有する。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 本畑も、C・D区に標準的な掘削形態を呈する畑である。またサク南側のサク1～60と中・北部のサク61～127は、サクの掘削方位から推して別の筆である可能性が考慮される。

本畑ではサクが確認されていない箇所もあるが、規則性も認められないため、As-A軽石降下後にサク上げが施された可能性は低いものと思料される。

また本畑は、泥流の堆積から、天明3年の畑と判断される。



第31図 D区9号畑

表36 D区9号畑サク一覧

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考	単位 (m)				
					サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	3.93	0.28	—		61	2.44	0.30	—	
2	3.60	0.23	—		62	1.63	0.29	—	
3	3.20	0.25	—		63	2.55	0.23	—	
4	2.96	0.21	—		64	1.16	0.23	—	
5	2.64	0.26	—		65	2.67	0.25	—	
6	3.44	0.20	—		66	1.67	0.21	—	
7	0.36	0.25	—		67	2.05	0.23	—	
8	0.50	0.20	—		68	2.51	0.28	—	
9	1.55	0.19	—		69	0.90	0.26	—	
10	3.31	0.33	—		70	1.94	0.23	—	
11	0.86	0.21	—		71	8.41	0.24	—	
12	0.77	0.20	—		72	0.72	0.20	—	
13	1.90	0.22	—		73	0.26	0.14	—	
14	1.46	0.22	—		74	7.48	0.26	—	
15	1.69	0.29	—		75	0.32	0.19	—	
16	2.71	0.29	—		76	9.30	0.25	—	
17	4.03	0.25	—		77	0.46	0.17	—	
18	10.69	0.26	—		78	9.45	0.30	—	
19	0.86	0.27	—		79	0.27	0.18	—	
20	9.62	0.31	—		80	9.47	0.30	—	
21	1.16	0.26	—		81	9.38	0.31	—	
22	3.26	0.30	—		82	7.36	0.25	—	
23	2.46	0.23	—		83	9.90	0.34	—	
24	4.69	0.22	—		84	10.41	0.29	—	
25	9.74	0.27	—		85	10.63	0.22	—	
26	0.58	0.17	—		86	10.68	0.30	—	
27	6.71	0.28	—		87	10.78	0.28	—	
28	0.80	0.20	—		88	10.69	0.30	—	
29	6.89	0.25	—		89	8.31	0.31	—	
30	1.58	0.21	—		90	7.68	0.25	—	
31	0.70	0.20	—		91	5.65	0.32	—	
32	10.32	0.28	—		92	3.62	0.31	—	
33	0.79	0.18	—		93	3.60	0.34	—	
34	9.66	0.27	—		94	2.85	0.30	—	
35	9.75	0.26	—		95	3.76	0.29	—	
36	6.77	0.26	—		96	3.40	0.30	—	
37	2.10	0.23	—		97	3.94	0.30	—	
38	9.40	0.24	—		98	2.24	0.30	—	
39	9.39	0.24	—		99	5.63	0.35	—	
40	8.78	0.20	—		100	1.62	0.23	—	
41	3.61	0.27	—		101	2.58	0.29	—	
42	4.25	0.20	—		102	5.96	0.30	—	
43	9.70	0.24	—		103	9.01	0.37	—	
44	1.40	0.22	—		104	8.90	0.30	—	
45	2.79	0.24	—		105	9.34	0.28	—	
46	0.56	0.23	—		106	10.86	0.30	—	
47	0.36	0.16	—		107	10.81	0.28	—	
48	0.99	0.20	—		108	10.84	0.29	—	
49	0.50	0.20	—		109	10.79	0.31	—	
50	1.14	0.17	—		110	10.72	0.28	—	
51	1.68	0.23	—		111	10.98	0.26	—	
52	1.82	0.21	—		112	11.05	0.27	—	
53	0.69	0.25	—		113	11.06	0.32	—	
54	1.11	0.25	—		114	11.00	0.29	—	
55	1.83	0.22	—		115	10.92	0.30	—	
56	0.76	0.22	—		116	5.23	0.31	—	
57	1.25	0.21	—		117	4.37	0.25	—	
58	1.80	0.21	—		118	5.04	0.24	—	
59	1.12	0.35	—		119	4.02	0.27	—	
60	3.99	0.30	—		120	5.08	0.32	—	

第3章 発見された遺構と遺物

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
121	4.03	0.28	—	
122	5.26	0.30	—	
123	4.25	0.30	—	
124	8.74	0.25	—	

—は計測不可
○内寸法は推定長さ

(11) 10号畑(第32図、PL.10)

概要 10号畑はD区やや東寄りに位置する畑であり、本畑の東側はD区東端部に至る傾斜面である。

本畑はC・D区に標準的な畑であるが、南東あるいは東側ではサクが確認できない区域となっている。

位置 本畑はD区中北部、72区O～S-14～21グリッドに位置する。

規模・サク方位〔規模〕東西：12.3m
南北確認範囲：26.7m

〔サク方位〕 N58°E

〔サク〕幅：0.18～0.35m(平均：0.286m)

〔サク底部—畝頂部高〕 —m

〔サク間〕 0.35～0.62m(平均：0.468m)

重複 本畑は単独で在り、他の遺構との重複関係は認められなかった。

また本畑の西側は北部でN27°W、南部でN29°W方向で緩やかな弧状を描く狭間を挟んで9号畑が近接して在り、本畑の東側は北端でN40°W、南端でN13°W方向を向く、弧状を呈する狭間を挟んで11号畑が近接して在る。

覆土 本畑は天明泥流に覆われていた。

構造 本畑は北部から北西部にかけて調査区外に在るため、全容は詳らかでない。また南半部は11号畑との境の延長線とも見做すことのできる弧状ラインの東側ではサクが確認できない。本畑では57条のサクが確認されている。

本畑は長さ28.8m以上、幅10.8m以下を測る、東側に膨らみを有する北西—南東に長いD字状を呈する区画の中に掘削された畑である。地割の短径方向に幅狭のサクが掘削されるが、サクは並行に密集して掘削される。

本畑ではサクが確認されていない箇所もあるが、規則性も認められないため、As-A軽石降下後にサク上げが施された可能性は低いものと思料される。

また、9号畑のサク7・8・11・12・15・19・21は掘削位置から推して、本畑に含まれる可能性を有する。

表37 D区9号畑サク間一覧 単位(m)

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
1	0.45	1-2	
2	0.56	2-3	
3	0.47	3-4	
4	0.45	4-5	
5	0.64	5-9	
6	0.92	9-13	
7	0.54	13-16	
8	0.48	16-18	
9	0.50	18-20	
10	0.49	20-22	
11	0.41	22-24	
12	0.47	24-25	
13	0.56	25-27	
14	0.44	27-29	
15	0.43	29-32	
16	0.45	32-34	
17	0.53	34-35	
18	0.42	35-36	
19	0.48	36-38	
20	0.47	38-39	
21	0.51	39-40	
22	0.46	40-41	
23	0.55	41-43	
24	0.39	43-44	
25	0.37	44-48	
26	0.59	48-51	
27	0.48	51-54	
28	0.43	54-57	
29	0.44	57-58	
30	0.51	58-61	
31	0.49	61-63	
32	0.53	63-65	
33	0.46	65-67	
34	0.45	67-69	
35	0.57	69-71	
36	0.47	71-74	
37	0.48	74-76	
38	0.43	76-78	
39	0.49	78-80	
40	0.44	80-81	
41	0.41	81-82	
42	0.46	82-83	
43	0.50	83-84	
44	0.47	84-85	
45	0.50	85-86	
46	0.43	86-87	
47	0.42	87-88	
48	0.48	88-89	
49	0.49	89-90	
50	0.49	90-91	
51	0.46	91-92	
52	0.43	92-93	
53	0.47	93-95	
54	0.40	95-97	
55	0.50	97-99	
56	0.47	99-101	
57	0.48	101-103	
58	0.39	103-104	
59	0.51	104-105	
60	0.44	105-106	
61	0.49	106-107	
62	0.43	107-108	
63	0.46	108-109	
64	0.48	109-110	
65	0.47	110-111	
66	0.49	111-112	
67	0.43	112-113	
68	0.46	113-114	
69	0.51	114-115	
70	0.50	115-116	
71	0.43	116-118	
72	0.46	118-120	
73	0.57	120-122	
74	0.48	122-124	
75	0.44	124-125	
76	0.47	125-126	
77	0.41	126-127	

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 本畑も、C・D区に標準的な掘削形態を呈する畑である。

また、本畑は、泥流の堆積から、天明3年の畑と判断されるものである。

(12) 11号畑(第32図、PL.10)

概要 11号畑はD区やや東寄り北端近くに在る畑である。本畑の東側はD区東端部12号畑との境を隔てる緩斜面である。

本畑はC・D区に標準的な畑であるが、狭い範囲でしか確認されていない。

位置 本畑はD区中北部、72区O・P-18~20グリッドに位置する。

規模・サク方位〔規模〕 東西：3.5m
南北確認範囲：9.7m

〔サク方位〕 (サク1~3) N68° E
(サク4~6) N55° E
(サク7~11) N60° E
(サク12~16) N57° E
(サク17~21) N52° E

〔サク幅〕 0.20~0.33m(平均：0.253m)

〔サク底部一畝頂部高〕 -m

〔サク間〕 0.39~0.58m(平均：0.478m)

重複 本畑は単独で在り、他の遺構との重複関係は認められなかった。

また本畑の西側は北端でN40°W、南端でN13°W方向を向く、弧状を呈する狭間を挟んで10号畑が近接して在る。

覆土 本畑は天明泥流に覆われていた。

構造 本畑は北部が調査区外に在るため、全容は詳らかでない。また東端はクランク状に屈曲している。

本畑では21条のサクが確認されている。

本畑は長さ10.2m以上、幅2.7mを測る、三日月状あるいは湾曲した三角形場を呈すると想定される区画に掘削された畑である。サクは略東西方向を向き、一部逆転するものはあるものの、おおむね放射状に開く走行を示している。また、サクの幅は狭く、サク間も比較的密集して掘削されている。

本畑は記録が充分でないため、特定はできないが、

As-A軽石降下後にサク上げが施された可能性は低いものと推定される。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 本畑も、C・D区に標準的な掘削形態を呈する畑であり、1~11号畑の一群の畑群の東端に在る遺構である。

また、本畑は、泥流の堆積から、天明3年の畑と判断される。



第32図 D区10・11号畑

第3章 発見された遺構と遺物

表38 D区10号畑サク一覽 単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	2.57	0.25	—	
2	2.41	0.23	—	
3	2.46	0.28	—	
4	2.32	0.24	—	
5	2.39	0.18	—	
6	2.56	0.30	—	
7	5.18	0.33	—	
8	5.59	0.24	—	
9	5.73	0.27	—	
10	6.35	0.26	—	
11	6.84	0.29	—	
12	7.36	0.30	—	
13	7.40	0.24	—	
14	6.55	0.24	—	
15	6.82	0.27	—	
16	7.45	0.21	—	
17	7.83	0.32	—	
18	8.44	0.30	—	
19	8.82	0.30	—	
20	9.61	0.32	—	
21	9.60	0.34	—	
22	9.41	0.31	—	
23	9.02	0.30	—	
24	8.55	0.30	—	
25	8.46	0.28	—	
26	8.27	0.26	—	
27	8.24	0.29	—	
28	7.90	0.32	—	
29	7.88	0.35	—	
30	7.79	0.32	—	
31	7.86	0.35	—	
32	5.93	0.22	—	
33	4.54	0.27	—	
34	(8.05)	0.26	—	攪乱で切られる
35	(10.06)	0.28	—	トレンチで切られる
36	10.00	0.31	—	
37	9.78	0.26	—	
38	9.57	0.32	—	
39	9.52	0.34	—	
40	9.40	0.30	—	
41	9.61	0.31	—	
42	9.14	0.29	—	
43	8.95	0.32	—	
44	8.76	0.27	—	
45	8.77	0.33	—	
46	8.64	0.30	—	
47	8.43	0.27	—	
48	8.30	0.28	—	
49	8.16	0.34	—	
50	7.73	0.30	—	
51	7.30	0.33	—	
52	7.03	0.27	—	
53	6.81	0.23	—	
54	6.54	0.23	—	
55	6.30	0.28	—	
56	5.16	0.31	—	
57	1.86	0.34	—	

○内寸法は推定長さ
—は計測不可

表40 D区11号畑サク一覽 単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	0.66	0.21	—	
2	0.69	0.22	—	
3	0.62	0.22	—	
4	0.92	0.25	—	
5	1.23	0.26	—	
6	1.33	0.30	—	
7	2.48	0.25	—	
8	2.54	0.33	—	
9	2.60	0.27	—	
10	2.76	0.28	—	
11	2.82	0.29	—	
12	2.20	0.24	—	
13	1.95	0.24	—	
14	1.89	0.26	—	
15	1.98	0.20	—	
16	1.84	0.30	—	
17	1.36	0.30	—	
18	1.06	0.22	—	
19	0.87	0.26	—	
20	0.64	0.23	—	
21	0.40	0.20	—	

○内寸法は推定長さ
—は計測不可

表39 D区10号畑サク間一覽 単位 (m)

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
1	0.56	1-2	
2	0.50	2-3	
3	0.50	3-4	
4	0.44	4-5	
5	0.50	5-6	
6	0.47	6-7	
7	0.40	7-8	
8	0.48	8-9	
9	0.44	9-10	
10	0.49	10-11	
11	0.50	11-12	
12	0.54	12-13	
13	0.50	13-14	
14	0.43	14-15	
15	0.41	15-16	
16	0.41	16-17	
17	0.49	17-18	
18	0.48	18-19	
19	0.46	19-20	
20	0.50	20-21	
21	0.50	21-22	
22	0.44	22-23	
23	0.46	23-24	
24	0.50	24-25	
25	0.44	25-26	
26	0.44	26-27	
27	0.49	27-28	
28	0.47	28-29	
29	0.50	29-30	
30	0.42	30-31	
31	0.45	31-32	
32	0.46	32-33	
33	0.40	33-34	
34	0.45	34-35	
35	0.50	35-36	
36	0.41	36-37	
37	0.47	37-38	
38	0.45	38-39	
39	0.48	39-40	
40	0.50	40-41	
41	0.48	41-42	
42	0.48	42-43	
43	0.46	43-44	
44	0.50	44-45	
45	0.45	45-46	
46	0.45	46-47	
47	0.44	47-48	
48	0.50	48-49	
49	0.35	49-50	
50	0.50	50-51	
51	0.53	51-52	
52	0.45	52-53	
53	0.42	53-54	
54	0.47	54-55	
55	0.40	55-56	
56	0.62	56-57	

表41 D区11号畑サク間一覽 単位 (m)

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
1	0.58	1-2	
2	0.47	2-3	
3	0.54	3-4	
4	0.50	4-5	
5	0.53	5-6	
6	0.40	6-7	
7	0.44	7-8	
8	0.49	8-9	
9	0.47	9-10	
10	0.40	10-11	
11	0.51	11-12	
12	0.47	12-13	
13	0.42	13-14	
14	0.50	14-15	
15	0.39	15-16	
16	0.45	16-17	
17	0.54	17-18	
18	0.55	18-19	
19	0.50	19-20	
20	0.41	20-21	

(13) 12号畑(第33図、PL.10)

概要 12号畑はD区東端部の西寄り南端近くに在る畑であり、10・11号畑の下位にある緩斜面下に耕作された畑である。本畑の東側南部は13号畑と接し、北側はN9°W方向に僅かに開く境を隔ててこれと近接している。

本畑はC・D区に標準的な畑であるが、狭い範囲でしか確認されていない。

位置 本畑はD区中北部、72区L・M-15~17グリッドに位置する。

規模・サク方位〔規模〕 東西：1.7m
南北確認範囲：6.9m

〔サク方位〕 N8°W
(サク5)N83°W

〔サク〕幅：0.22~0.33m(平均：0.275m)

〔サク底部一畝頂部高〕 -m

〔サク間〕 0.38~0.60m(平均：0.495m)

重複 本畑は単独で在り、他の遺構との重複関係は認められなかった。

また本畑の東側南部は13号畑と接し、北側はN9°W方向に僅かに開く境を隔ててこれと近接している。

覆土 本畑は天明泥流に覆われていた。

構造 本畑は南側が調査区外に在るため、全容は詳らかでないが、5条のサクが確認されている。なお、このうちサク5は他の4条と走行の方向が直行するため、西側に畑があり、それに属していた可能性も考慮される。

本畑は長さ7.2m以上、幅2.1mを測る、南北に長い短冊形の区画に掘削された畑である。サクは略南北方向を向く。本畑のサクの掘削方向はC・D区の畑に一般的な方向に比して、4・13号畑と共に大きく異なる走行の方向を向くものであるが、その規格はC・D区の標準的な畑と同様サク幅は狭く、サク間も比較的密集して掘削されている。

本畑は特定はできないが、As-A軽石降下後にサク上げが施された可能性は低いものと推定される。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 本畑は10・11号畑東の緩斜面下に確認された畑のうちの一面である。本畑はC・D区に標準的な掘削形態を呈する畑であるが、C・D区の他の畑と異なりサクの掘削方向が略南北方向と得意である。

また、本畑は、泥流の堆積から、天明3年の畑と判断

されるものである。

(14) 13号畑(第33図、PL.10)

概要 13号畑はD区東端部に在る畑であり、10・11号畑の下位にある緩斜面下に耕作された畑の1面である。本畑の西側南部には12号畑があり、南端部はこれと接し、北側はN9°W方向に僅かに開く境を隔てて近接して在る。

本畑はC・D区に標準的な畑であるが、北・東・南側は調査区外に出ていて、全容は詳らかでない。

位置 本畑はD区中北部、72区K・L-16~19グリッドに位置する。

規模・サク方位〔規模〕 東西確認範囲：7.3m
南北確認範囲：12.7m

〔サク方位〕 N69°W

〔サク〕幅：0.24~0.42m(平均：0.348m)

〔サク底部一畝頂部高〕 -m

〔サク間〕 0.38~0.64m(平均：0.502m)

重複 本畑は単独で在り、他の遺構との重複関係は認められなかった。

また本畑西側南端部は12号畑と接し、その北側はN9°W方向に僅かに開く狭間を隔ててこれと近接している。

覆土 本畑は天明泥流に覆われていた。

構造 上述のように、本畑は北・東・南側が調査区外に在るため全容は詳らかでないが、26条のサクが確認されている。

本畑の全体的プランは想定できなかった。サクの掘削方向はC・D区で唯一西北西-東南東方向を向く。本畑のサクはC・D区の標準的な畑と同様サク幅は狭く、サク間も比較的密集して掘削されている。

本畑は特定はできないが、As-A軽石降下後にサク上げが施された可能性は低いものと推定される。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 本畑は西側の10・11号畑東の緩斜面下に確認された畑のうちの一面である。本畑はC・D区に標準的な掘削形態を呈する畑であるが、サクの掘削方向は他のC・D区の他の畑と130°程時計回りに開いている。

また、本畑も、泥流の堆積から、天明3年の畑と判断される。

第3章 発見された遺構と遺物

表42 D区12号畑サク一覧

単位 (m)

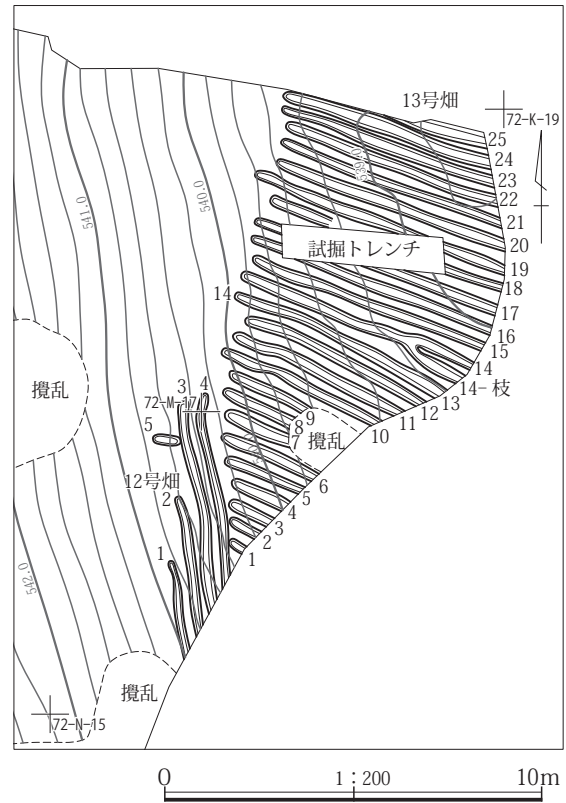
サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	2.58	0.22	—	
2	3.74	0.28	—	
3	5.60	0.33	—	湾曲する
4	5.20	0.27	—	湾曲する
5	0.75	0.27	—	主軸方位の違い大

○内寸法は推定長さ
—は計測不可

表43 D区12号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
1	0.52	1-2	南側
2	0.40	2-3	南側
3	0.50	3-4	南側
4	0.60	2-3	中央
5	0.45	3-4	中央
6	0.50	3-4	北側



第33図 D区12・13号畑

表44 D区13号畑サク一覧

単位 (m)

サク番号	検出サク長さ	検出サク幅	サク深さ	備考
1	0.44	0.24	—	
2	0.85	0.27	—	
3	1.22	0.33	—	
4	1.62	0.36	—	
5	2.21	0.30	—	
6	2.75	0.34	—	
7	1.81	0.40	—	
8	2.00	0.33	—	
9	2.37	0.31	—	
10	4.61	0.30	—	
11	4.96	0.35	—	
12	5.26	0.33	—	
13	6.15	0.39	—	
14	6.59	0.34	—	西端より4.6m付近で分岐
14-枝	1.84	0.37	—	
15	6.53	0.33	—	
16	(6.79)	0.34	—	トレンチで切られる
17	(6.80)	0.31	—	トレンチで切られる
18	(6.52)	0.30	—	トレンチで切られる
19	(7.02)	0.33	—	トレンチで切られる
20	6.45	0.35	—	
21	6.25	0.27	—	
22	6.00	0.33	—	
23	5.98	0.36	—	
24	5.79	0.42	—	
25	2.67	0.40	—	

○内寸法は推定長さ
—は計測不可

表45 D区13号畑サク間一覧

単位 (m)

サク間番号	サク間長さ	サク間位置	備考
1	0.50	1-2	
2	0.45	2-3	
3	0.52	3-4	
4	0.52	4-5	
5	0.52	5-6	
6	0.57	6-7	
7	0.51	7-8	
8	0.50	8-9	
9	0.52	9-10	
10	0.50	10-11	
11	0.60	11-12	
12	0.47	12-13	
13	0.49	13-14	
14	0.47	14-15	
15	0.54	15-16	
16	0.45	16-17	
17	0.64	17-18	
18	0.47	18-19	
19	0.52	19-20	
20	0.53	20-21	
21	0.49	21-22	
22	0.44	22-23	
23	0.38	23-24	
24	0.50	12-13	東側
25	0.52	13-14枝	東側
26	0.44	14枝-14	東側
27	0.50	14-15	東側
28	0.50	15-16	東側
29	0.50	16-17	東側

(15) 1号畑1・2号平坦面(第34図)

概要 1号畑1・2号平坦面は、1号畑内及び1号畑の北西部に位置する、平坦面である。

位置 1号畑1号平坦面は、C区東部の1号畑の中に、同2号平坦面は1号畑の北西際のD区内に作られている。

1・2号平坦面は1号畑と南西側に在る2号畑との境から6m程の位置に在り、1・2号平坦面はN32°W方向、芯々間10.7mの間隔を以て設置されている。

(1号平坦面) 72区Q-6グリッド

(2号平坦面) 72区R-8グリッド

規模・主軸方位

(1号平坦面) 〔径〕1.75×1.60m 〔周溝幅〕0.15~0.25m
〔周溝深〕0.00~0.02m

(2号平坦面) 〔径〕1.76×1.59m 〔周溝幅〕0.20~0.30m
〔周溝深〕0.00~0.02m

重複 1・2号平坦面は、C・D区1号畑の中に在るが、細かく見れば他の遺構との重複は見られなかった。しかし、1号平坦面は1号畑のサク35~40を途切れさせて、接するか近接して在る。

覆土 1・2号平坦面は天明泥流に覆われていた。

構造 1・2号平坦面のプランは、共に隅丸方形を呈する。

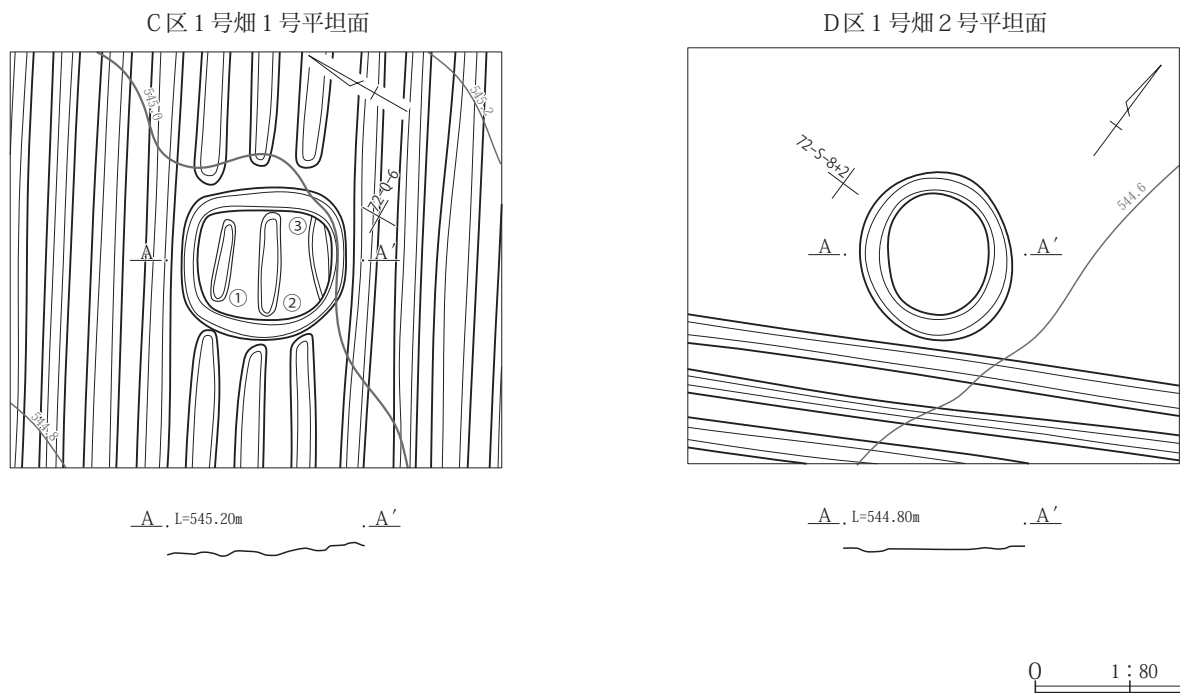
1・2号平坦面は共に、外周沿いに狭く浅い溝が廻る。その内側は、2号平坦面は平坦であるが、1号平坦面は北東を天として「小」字状の浅い溝が見られる(この溝は左(北西)より溝①・②・③と仮称する)。1号平坦面は北東・南西3条づつのサクが接するか近接しており、それらのサクと平坦面内の浅い溝は走行方向に異同はあるものの、サク39-溝①-サク40、サク37-溝②-サク38、サク35-溝③-サク36が対応しているように思料される。

遺物 各平坦面からの出土遺物得られなかった。

所見 1・2号平坦面は、その枠状の窪みを伴う遺構の形態と畑の中に所在することから推して、肥桶等の方形様の桶状構造物が設置されていたものと判断される。

また、平坦面内の溝から推して、1号平坦面はサク立ての後に桶の設置したことが窺われる。

なお、1・2号平坦面は、これを覆う泥流の堆積状況から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。



第34図 1号畑1・2号平坦面

(16) 2号畑1～5号平坦面(第35・36図)

概要 2号畑1～5号平坦面は、2号畑内に位置する平坦面である。

位置 2号畑1～5号平坦面は、C区東部からD区中部にかけて在る2号畑の中に位置する平坦面である。

1～5号平坦面は2号畑の長軸中心列上、多少蛇行するが、おおむねN34°W方向の軸線上に配置されている。

- (1号平坦面) 62区P・Q-24グリッド
- (2号平坦面) 72区Q・R-1グリッド
- (3号平坦面) 72区T-4・5グリッド
- (4号平坦面) 72区U・V-7グリッド
- (5号平坦面) 72区W-9・10グリッド

規模・主軸方位

- (1号平坦面) 〔径〕1.62×(1.50)m 〔周溝幅〕0.18～0.22m 〔周溝深〕0.00～0.02m
- (2号平坦面) 〔径〕1.96×1.28m 〔周溝幅〕0.12～0.26m 〔周溝深〕0.01～0.02m
- (3号平坦面) 〔径〕1.99×1.82m 〔周溝幅〕0.15～0.30m 〔周溝深〕0.03～0.05m
- (4号平坦面) 〔径〕1.78×1.78m 〔周溝幅〕0.19～0.27m 〔周溝深〕0.01～0.03m
- (5号平坦面) 〔径〕1.75×(0.80)m 〔周溝幅〕0.18～0.25m 〔周溝深〕0.01～0.04m
- (1・2号平坦面中心距離) 10.7m

- (2・3号平坦面中心距離) 16.8m
- (3・4号平坦面中心距離) 10.9m
- (4・5号平坦面中心距離) 12.3m
- (1～5号平坦面中心距離平均) 12.675m

重複 1～5号平坦面は、共にC・D区2号畑の中に在るが、1号平坦面は2号畑サク20と重複し、サク21～26を途切れさせるように近接して在る。また2号平坦面は2号畑サク47～54、3号平坦面は2号畑サク87～96、4号平坦面は2号畑サク116～123、5号平坦面は2号畑サク147～150・152・154を途切れさせるように近接して在り、攪乱で確認できないが、5号平坦面は2号畑のサク151・153とも近接して在ったものと想定される。

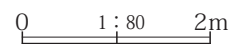
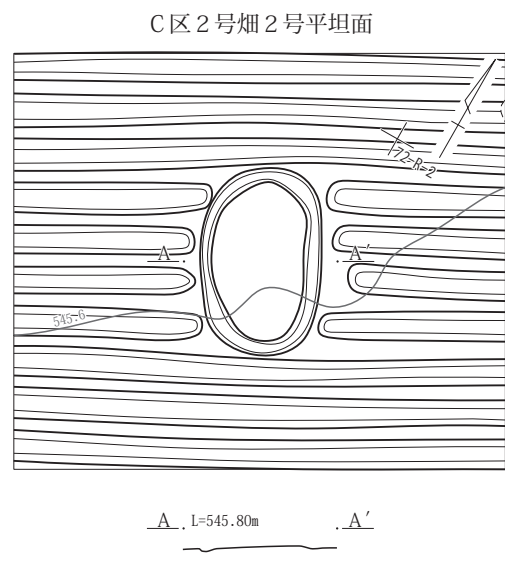
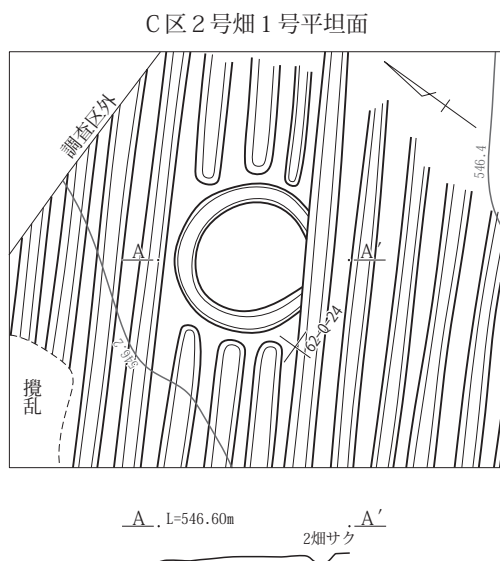
覆土 1～5号平坦面は天明泥流に覆われていた。

構造 1～5号平坦面のプランは、1・4号平坦面は円形であり5号平坦面も円形であると想定される。また2号平坦面は隅丸長方形、3号平坦面は楕円形を呈する。

1～5号平坦面は共に、外周沿いに狭く浅い溝が廻る。その内側は、共に平坦である。

所見 1～5号平坦面は、杵状の窪みを伴う遺構の形態と畑の中に所在することから推して、肥桶等の構造物が設置されていたものと判断される。

また、1号平坦面は2号畑のサク20と重複することから、あるいはサク立ての後、桶の規格を見誤って設置した可能性が考慮される。



第35図 2号畑1・2号平坦面

なお、1～5号平坦面は、これを覆う泥流の堆積状況から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。

(17) 3号畑1～6号平坦面(第37図)

概要 3号畑1～6号平坦面は、3号畑内に在る平坦面である。

位置 1～6号平坦面は、C区東部からD区中部にかけて在る3号畑の中に位置する平坦面である。

1～6号平坦面は3号畑の長軸中心列上、多少蛇行するが、おおむねN34°W方向の軸線上に配置されている。

(1号平坦面) 62区T-23グリッド

(2号平坦面) 62・72区U・V-25・1グリッド

(3号平坦面) 72区W・X-3グリッド

(4号平坦面) 72・73区Y・A-6グリッド

(5号平坦面) 73区B・C-9グリッド

(6号平坦面) 73区D・E-12グリッド

規模・主軸方位

(1号平坦面) [径] 1.98×1.70m [周溝幅] 0.15～0.22m
[周溝深] 0.01～0.06m

(2号平坦面) [径] 2.11×1.79m [周溝幅] 0.22～0.30m
[周溝深] 0.04～0.08m

(3号平坦面) [径] 1.56×1.17m [周溝幅] 0.09～0.25m
[周溝深] 0.01～0.03m

(4号平坦面) [径] 1.74×1.41m [周溝幅] 0.17～0.25m
[周溝深] 0.01～0.08m

(5号平坦面) [径] 1.91×1.56m [周溝幅] 0.20～0.38m
[周溝深] 0.01～0.06m

(6号平坦面) [径] 1.56×1.54m [周溝幅] 0.18～0.30m
[周溝深] 0.01～0.03m

(1・2号平坦面中心距離) 12.1m

(2・3号平坦面中心距離) 14.0m

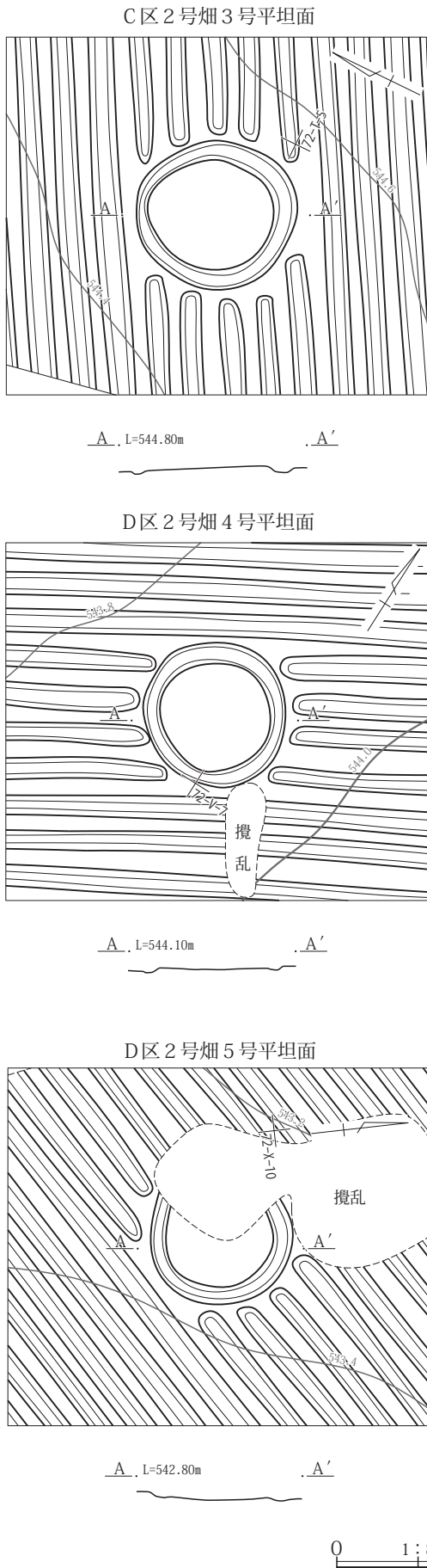
(3・4号平坦面中心距離) 13.9m

(4・5号平坦面中心距離) 13.7m

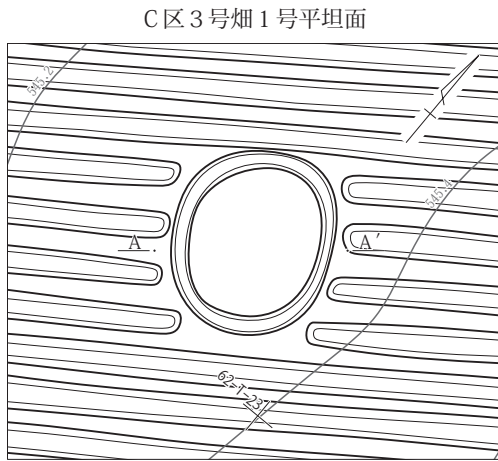
(5・6号平坦面中心距離) 15.0m

(1～6号平坦面中心距離平均) 13.74m

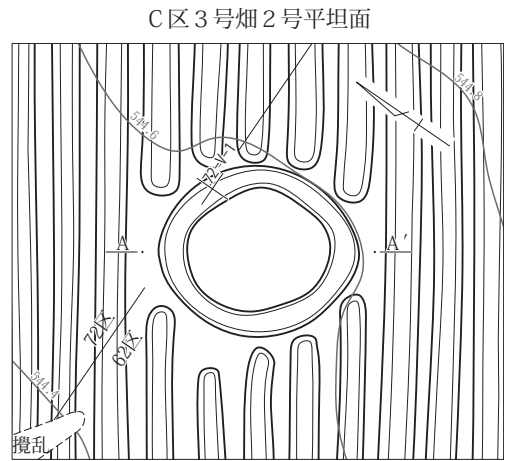
重複 1～6号平坦面は、共にC・D区3号畑の中に在るが、明確にサク等の他の遺構と重複はしていない。1号平坦面は3号畑のサク25～32、2号平坦面はサク54～63、3号平坦面は3号畑サク95～100を途切れさせるように近接して在り、南東に3号畑のサク93が近接し、北



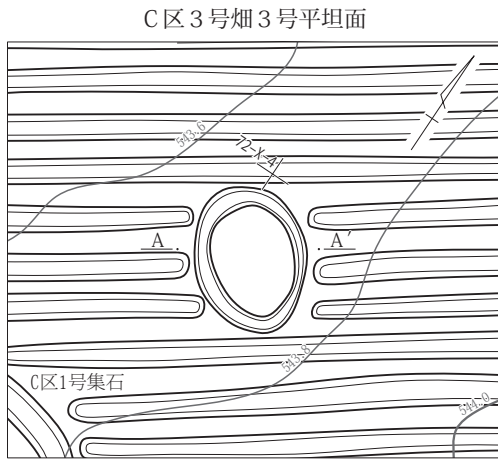
第36図 2号畑3～5号平坦面



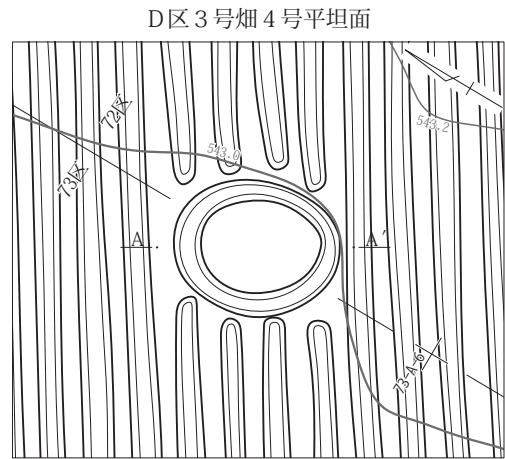
A, L=545.50m A'



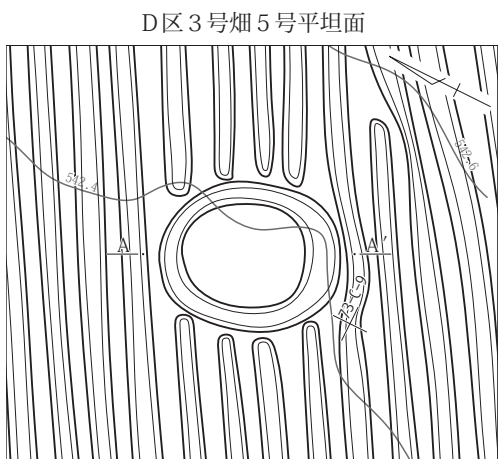
A, L=544.80m A'



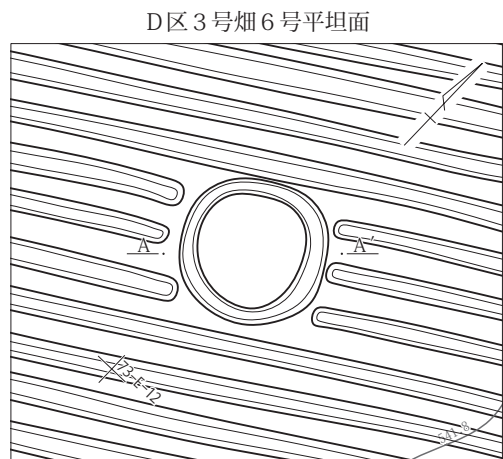
A, L=543.90m A'



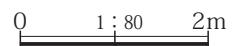
A, L=543.10m A'



A, L=542.60m A'



A, L=541.90m A'



第37図 3号畑1～6号平坦面

西にサク101が接する。また4号平坦面は3号畑サク127～134、5号平坦面はサク160～167、6号平坦面はサク196～201を途切れさせるように近接して在るが、5号平坦面の南東側では3号畑のサク159が平坦面を避けるように湾曲している。

覆土 1～6号平坦面は天明泥流に覆われていた。

構造 1～6号平坦面のプランは、1・6号平坦面が隅丸方形を呈し、2～5号平坦面は楕円形を呈する。

1～6号平坦面は共に、外周沿いに狭く浅い溝が廻る。その内側は、共に平坦である。

所見 3号畑1～6号平坦面は、杵状の窪みを伴う遺構の形態と畑の中に所在することから推して、肥桶等の構造物が設置されていたものと判断される。

また、5号平坦面の南東側に近接する3号畑のサク159は、5号平坦面を迂回するように掘削されているため、サク立て時、5号平坦面の桶は設置された状態であったものと思料される。

なお、1～6号平坦面は、これを覆う泥流の堆積状況から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。

(18) 3号畑7号平坦面(第42図、PL. 7)

概要 3号畑7号平坦面は、3号畑内に設けられた平坦面であるが、後述のC区1号集石と一括で調査、記録化がなされているため、同集石と共に図示する。

位置 3号畑のやや南寄り西端近くに在る。

72区W・X-2グリッドに位置する。

規模・主軸方位

〔径〕3.00×2.85m 〔周溝幅〕0.20～0.41m

〔周溝深〕0.05～0.10m

重複 本平坦面は、3号畑の中に在るが、明確にサクを含め他の遺構と重複はしていない。

本平坦面は3号畑のサク82～94を途絶えさせるように本平坦面の手前で止まっている。

覆土 本平坦面の周溝にはAs-A軽石が堆積し、その上を天明泥流に覆ったことが確認されている。

構造 本平坦面のプランは、ほぼ円形を呈している。

本平坦面の外周沿いには、狭く浅い溝が廻る。その内側は、平坦である。

所見 3号畑7号平坦面は、杵状の窪みを伴う遺構の形態と畑の中に所在することから推して、他の平坦面と同

様に肥桶等の構造物が設置されていたものと判断されるが、その規格は1～6号平坦面より2.25～4.59倍(平均3.2倍)の規模を有する、大型の桶であったものと思料される。

なお、本平坦面は、土層堆積から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。

(19) 5号畑1号平坦面(第38図)

概要 5号畑1号平坦面は、5号畑内に設けられた平坦面である。

位置 本平坦面は、D区西端部に在る5号畑の南東端近くに位置する平坦面である。

本平坦面は73区C-4グリッドに所在する。

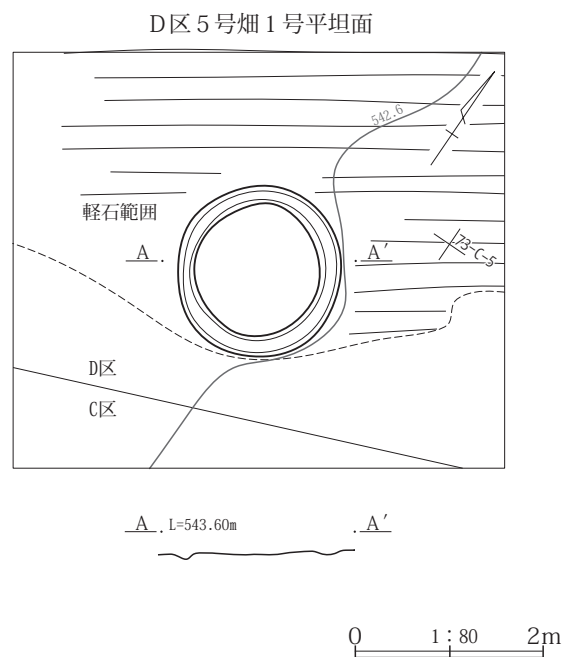
規模・主軸方位

〔径〕1.80×1.72m 〔周溝幅〕0.16～0.25m

〔周溝深〕0.01～0.05m

重複 本平坦面は、5号畑の中に在るが、明確にサクを含め他の遺構と重複はしていない。

5号畑の遺存状態が良好ではないため、明瞭ではないが、5号畑のサク1・2・3は本平坦面の手前で止まり、サク4a・4bは本平坦面の前後で途絶えている。



第38図 5号畑1号平坦面

覆土 本平坦面は天明泥流に覆われていた。

構造 本平坦面のプランは、ほぼ円形を呈している。

本平坦面の外周沿いには、狭く浅い溝が廻る。その内側は、平坦である。

所見 5号畑1号平坦面は、杵状の窪みを伴う遺構の形態と畑の中に所在することから推して、他の平坦面と同様に肥桶等の構造物が設置されていたものと判断される。

なお、本平坦面は、これを覆う泥流の堆積状況から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。

(20) 8号畑1・2号平坦面(第39図)

概要 8号畑1・2号平坦面は、D区8号畑内に、同畑の土地区画の主軸ライン沿って設置された平坦面である。

位置 8号畑1・2号平坦面は、D区中部にかけて在る8号畑の中部および南端近くに在る。

1・2号平坦面は8号畑の長軸中心列上、おおむねN27°W方向の軸線上に配置されている。

(1号平坦面) 72区T・U-14グリッド

(2号平坦面) 72区V-16・17グリッド

規模・主軸方位

(1号平坦面) [径] 1.90×1.86m [周溝幅] 0.12~0.20m

[周溝深] 0.00~0.04m

(2号平坦面) [径] 2.16×2.05m [周溝幅] 0.20~0.25m

[周溝深] 0.02~0.05m

(1・2号平坦面中心距離) 10.9m

重複 1・2号平坦面は、共にD区8号畑の中に在るが、明確にサク等の他の遺構と重複はしない。1号平坦面は8号畑のサク2にやや近接し、2号平坦面は18・19・21a・23~26を途切れさせるように近接して在り、サク27は2号平坦面の北西側に接するように在る。

覆土 1・2号平坦面は、天明泥流に覆われていた。

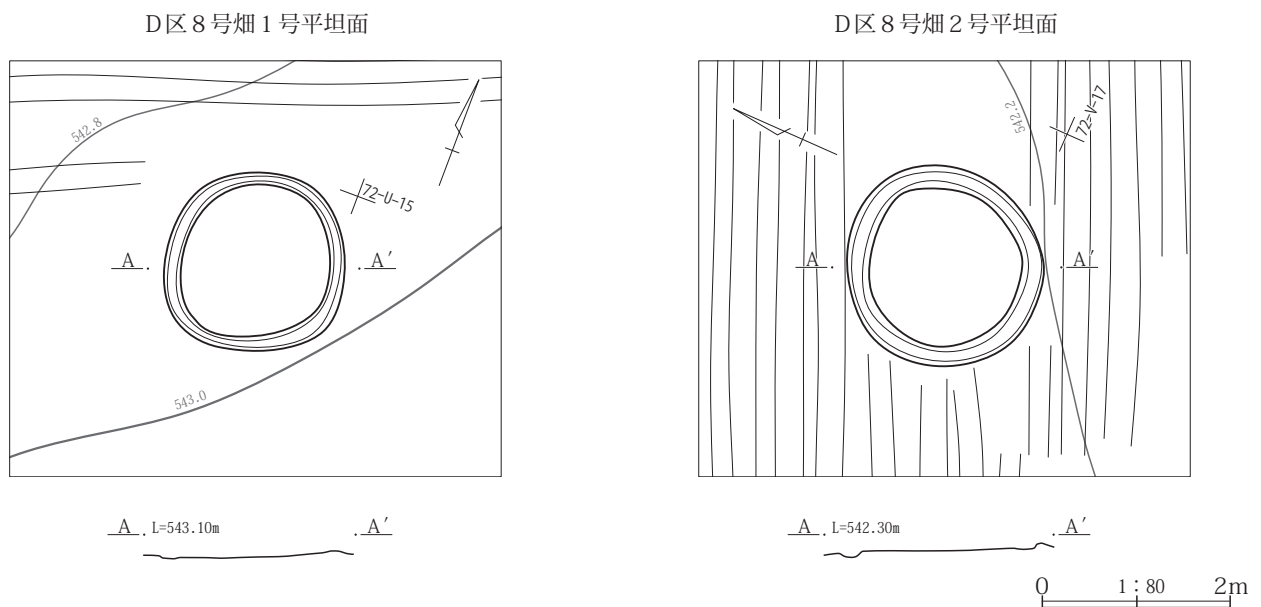
構造 1・2号平坦面のプランは、1号平坦面が隅丸方形を呈し、2号平坦面はほぼ円形状を呈する。

1・2号平坦面は共に、外周沿いに狭く浅い溝が廻り、その内側は共に平坦である。

所見 8号畑1・2号平坦面は、杵状の窪みを伴う遺構の形態と畑の中に在ることから推して、肥桶等の構造物が設置されていたと判断されるものである。

また、2号平坦面は溝との位置関係から推して、サク立ての後に桶を設置した可能性のあることが窺われる。

なお、1・2号平坦面は、これを覆う泥流の堆積状況から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。



第39図 8号畑1・2号平坦面

(21) 9号畑1～5号平坦面(第40・41図)

概要 9号畑1～5号平坦面は、9号畑内に在る平坦面である。

位置 9号畑1～5号平坦面は、D区中部東寄りに位置する9号畑の中に位置する平坦面である。

1～4号平坦面はおおむね9号畑の中心軸に沿って設置されているが、それぞれの平坦面の設置方位は、1・2号平坦面はN27°W、2・3号平坦面はN23°W、3・4号平坦面はN26°Wと多少蛇行する。また3～5号平坦面の設置方位は、3・5号平坦面がN30°E、4・5号平坦面はN60°Wであり、5号平坦面を頂点として、3～5号平坦面は直角方向に配置されている。

(1号平坦面) 72区Q-12グリッド

(2号平坦面) 72区R-15グリッド

(3号平坦面) 72区S-17・18グリッド

(4号平坦面) 72区T-19・20グリッド

(5号平坦面) 72区R・S-18・19グリッド

規模・主軸方位

(1号平坦面) [径] 1.54×1.51m [周溝幅] 0.17～0.21m
[周溝深] 0.02～0.06m

(2号平坦面) [径] 1.61×1.58m [周溝幅] 0.23～0.26m
[周溝深] 0.01～0.06m

(3号平坦面) [径] 1.54×1.52m [周溝幅] 0.17～0.21m
[周溝深] 0.00～0.04m

(4号平坦面) [径] 1.63×1.48m [周溝幅] 0.20～0.32m
[周溝深] 0.00～0.03m

(5号平坦面) [径] 1.63×1.60m [周溝幅] 0.19～0.26m
[周溝深] 0.00～0.02m

(1・2号平坦面中心距離) 11.3m

(2・3号平坦面中心距離) 11.6m

(3・4号平坦面中心距離) 9.0m

(1～4号平坦面中心距離平均) 10.633m

(3・5号平坦面中心距離) 5.1m

(4・5号平坦面中心距離) 7.4m

重複 1～5号平坦面は、共にD区9号畑の中に在るが、明確にサク等と重複する箇所は見られない。

なお、1号平坦面は9号畑のサク10に近接し、2号平坦面はサク59・60を途切れさせるように近接して在り、まずサク55・62が近接する。また3号平坦面はサク99と近接し、4号平坦面はサク116～123を、5号平坦面はサ

ク103～105を途切れさせるように在り、5号平坦面では南側に9号畑のサク102、北側にサク106が近接して在る。

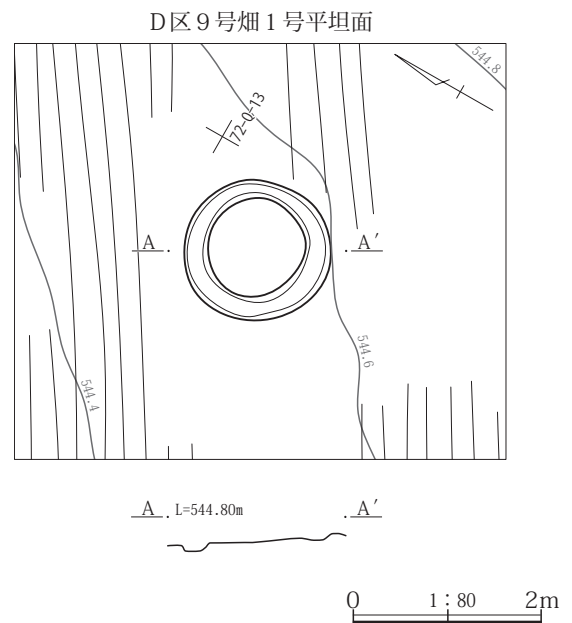
覆土 1～5号平坦面は、天明泥流に覆われていた。

構造 1～5号平坦面のプランは、1～3・5号平坦面は円形を呈し、4号平坦面は楕円形を呈する。

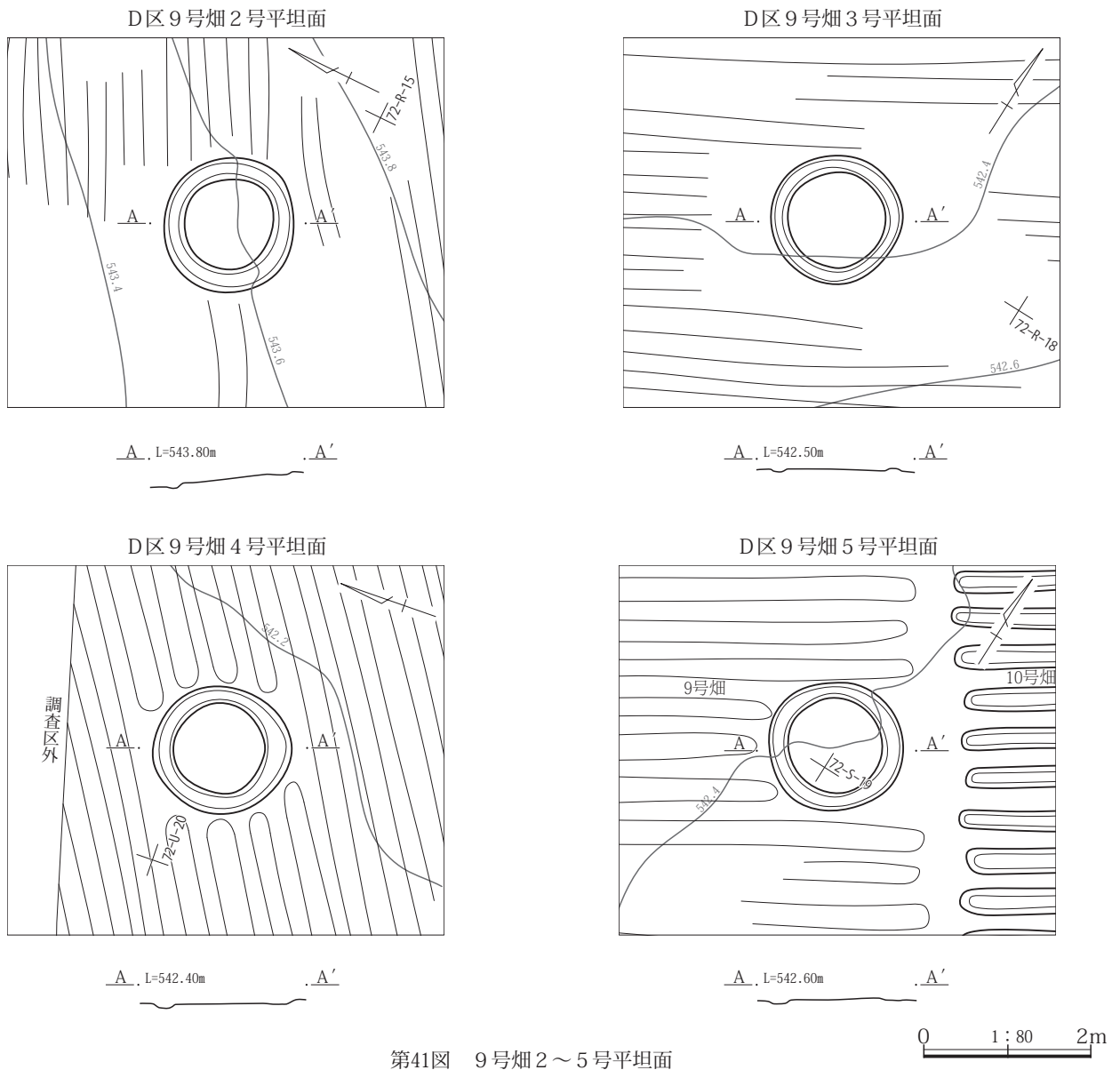
これらの平坦面は共に、外周沿いに狭く浅い溝が廻る。その内側は、共に平坦である。

所見 9号畑1～5号平坦面は、C・D区の他の平坦面と同様に杵状の窪みを伴っており、こうした遺構形態と畑の中に在ることから推して、肥桶等の構造物が設置されていたものと判断される。

1～5号平坦面は、これを覆う泥流の堆積状況から推して、天明3年の畑に伴うものと判断される。



第40図 9号畑1号平坦面



第41図 9号畑2～5号平坦面

表46 C・D区1・2・3・5・8・9号畑平坦面一覧

畑番号	番号	区分	地区	区	所在グリッド	形状	長軸×短軸(m)	周溝幅(m)	周溝深さ(m)	主軸方位	備考
1	1	C	26	72	Q-6	隅丸方形	1.75×1.60	0.15~0.25	0~0.02	N29°W	
	2	D	26	72	R-8	隅丸方形	1.76×1.59	0.20~0.30	0~0.02	N41°W	
2	1	C	26	62	P・Q-24	円形	1.62×(1.50)	0.18~0.22	0~0.02	N0°	
	2	C	26	72	Q・R-1	隅丸長方形	1.96×1.28	0.12~0.26	0.01~0.02	N30°W	
	3	C	26	72	T-4・5	楕円形	1.99×1.82	0.15~0.30	0.03~0.05	N21°W	
	4	D	26	72	U・V-7	円形	1.78×1.78	0.19~0.27	0.01~0.03	N0°	
	5	D	26	72	W-9・10	円形か	1.75×(0.80)	0.18~0.25	0.01~0.04	N0°	
3	1	C	26	62	T-23	隅丸方形	1.98×1.70	0.15~0.22	0.01~0.06	N30°W	
	2	C	26	62・72	U・V-[62]25・[72]1	楕円形	2.11×1.79	0.22~0.30	0.04~0.08	N35°W	
	3	C	26	72	W・X-3	楕円形	1.56×1.17	0.09~0.25	0.01~0.03	N44°W	
	4	D	26	72・73	[72] Y・[73] A-6	楕円形	1.74×1.41	0.17~0.25	0.01~0.08	N28°W	
	5	D	26	73	B・C-9	楕円形	1.91×1.56	0.20~0.38	0.01~0.06	N26°W	
	6	D	26	73	D・E-12	隅丸方形	1.56×1.54	0.18~0.30	0.01~0.03	N62°E	
	7	C	26	72	W・X-2	ほぼ円形	3.00×2.85	0.20~0.41	0.05~0.01	N25°W	C区1集石上位
5	1	D	26	73	C-4	ほぼ円形	1.80×1.72	0.16~0.25	0.01~0.05	N0°	
8	1	D	26	72	T・U-14	隅丸方形	1.90×1.86	0.12~0.20	0~0.04	N25°W	
	2	D	26	72	V-16・17	ほぼ円形	2.16×2.05	0.20~0.25	0.02~0.05	N30°E	
9	1	D	26	72	Q-12	円形	1.54×1.51	0.17~0.31	0.02~0.06	N0°	
	2	D	26	72	R-15	円形	1.61×1.58	0.23~0.26	0.01~0.06	N0°	
	3	D	26	72	S-17・18	円形	1.54×1.52	0.17~0.21	0~0.04	N0°	
	4	D	26	72	T-19・20	楕円形	1.63×1.48	0.20~0.32	0~0.03	N19°W	
	5	D	26	72	R・S-18・19	円形	1.63×1.60	0.19~0.26	0~0.02	N0°	

所在グリッド□は区を示す

()は残存値

(22) C区1号集石(第42図、PL. 7)

概要 本集石は、3号畑に設けられた遺構であり、3号畑7号平坦面の痕跡の下位に確認された集石である。

位置 3号畑のやや南寄り西端近くに在る。

72区W・X-2グリッドに位置する。

規模・主軸方位

〔径〕(2.80)×(1.24)m 〔主軸方位〕N18°E

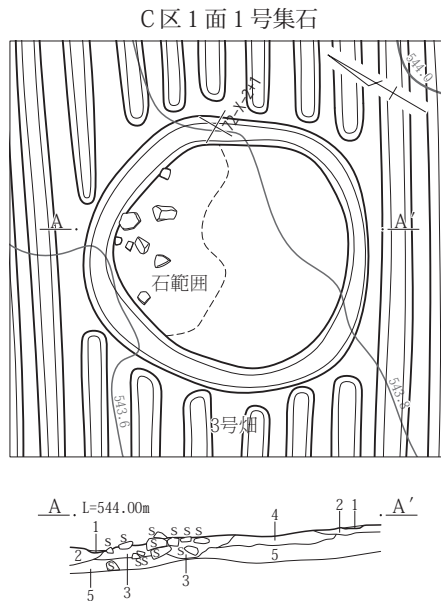
重複 1号集石はC区3号畑7号平坦面の下位にある。

覆土 集石の礫は、天明3年の耕作土に切られた黒色土中に確認されている。

構造 集石のプランは明確に確認されていないが、勾玉状の範囲に礫が確認されている。

所見 C区1号集石の集石状態は粗であり、特段の規則性も認められない。

本集石は天明3年の耕作土に切られた黒色土内に在るため、近世中期以前の所産であることは確認できるが、2面に届いていないため、縄文時代まで遡ることはないであろうと想定されている。



(C区1面)1号集石 A-A'

- 1 As-A軽石
- 2 黒色土 天明畑耕土。
- 3 黒色土 礫を多く含む。
- 4 黒色土 砂質。礫はほとんど含まない。
- 5 黒褐色土 若干の小礫、ローム含む。

0 1:80 2m

第42図 C区1号集石

(23) C区2・3号集石(第43図、PL. 7)

概要 C区2・3号集石は、C・D区2・3号畑の境の南部に在る集石遺構である。

位置 C区中部やや東寄り、2・3号畑境に在る。

(2号集石) 62・72区S・T-25~2グリッド

(3号集石) 62区R・S-24・25グリッド

規模・主軸方位

(2号集石) 〔径〕(8.02)×2.95m

〔周溝幅〕0.16~0.47m 〔周溝深〕0.05~0.10m

〔主軸方位〕N31°W

(3号集石) 〔径〕(5.14)×(2.16)m

〔主軸方位〕N29°W

重複 2・3号集石はC・D区2・3号畑境に在るが、これらの畑のサクとの重複関係は見られない。

しかし2号集石は、その周囲に2号畑のサク53・55~73、3号畑のサク46~68が取り囲むように近接している。特に2号畑のサク55~72と3号畑のサク45~66号は2号集石の周囲で途切れている。

また、3号集石は、その周囲に2号畑のサク32~45、3号畑のサク24~41が取り囲むように近接している。特に2号畑のサク33~45と3号畑のサク33~45号が2号集石の周囲で途切れている。

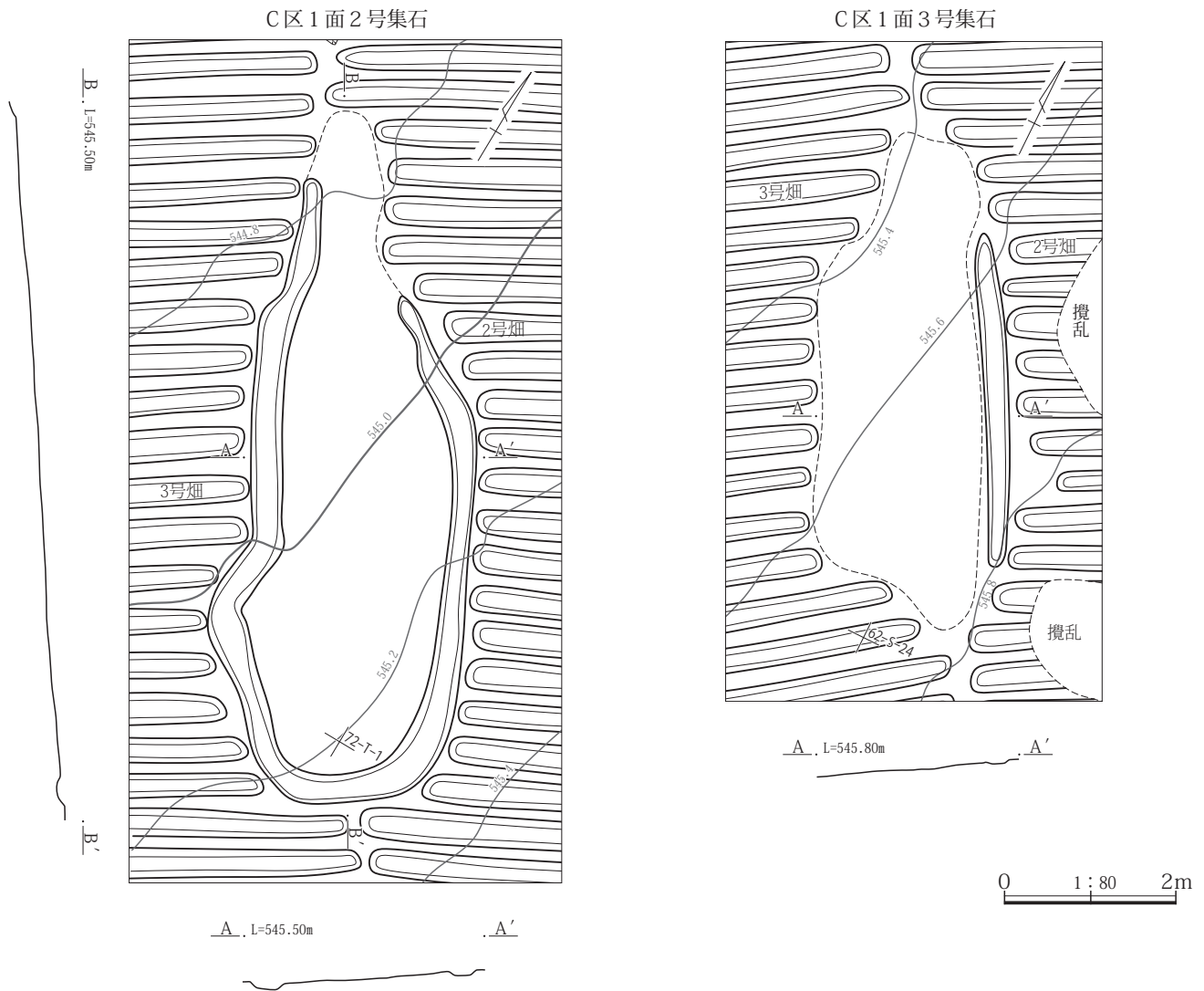
覆土 C区2・3集石の礫は、礫が天明3年泥流下面に現れ、更に耕作土あるいはその下位の黒色土中にも確認されている。

構造 2・3号集石のプランは、共に不整形を呈する。2号集石の北端部付近を除く外周には、浅い幅狭の周溝が掘削されている。また3号集石の北東側に沿って2号畑のサクに直行するサク状の溝が残されている。

礫は共に天明泥流下面に検出れるが、泥流下の耕作土に喰い込んでおり、2号集石ではその下の黒色土にも確認することができる。

所見 C区2・3号集石の集石状態は比較的粗であり、特段の規則性も認められない。

2・3号集石は天明3年の耕作土あるいはその下位の黒色土内に在るため、近世中期以前の所産であることを確認できるに過ぎない。



第43図 C区2・3号集石

(24) D区1号集石(第44図、PL. 7)

概要 本集石は、D区の8・9号畑と1号道に囲まれて在る集石遺構である。

位置 D区中央やや東寄に在る。

72区S・T-15・16グリッドに位置する。

規模・主軸方位

〔径〕 4.85×3.19m

〔周溝東〕〔長〕 2.02m 〔幅〕 0.32m 〔深〕 0.03m

〔周溝西〕〔長〕 3.86m 〔幅〕 0.40m 〔深〕 0.04m

〔主軸方位〕 N21°W

重複 本集石は南端部で1号道と重複する。またC・D区8畑のサク3・4、9号畑のサク69・71・76・78・80・81・83号畑を途絶えさせるようにして近接して在る。

覆土 本集石は、黒色土や黄褐色土の上に暗褐色土(天

明3年耕作土)が覆っている。その上には天明泥流が覆っていたことが、調査から確認されている。

構造 本集石の礫は、天明3年の耕作土(暗褐色土)に確認され、下位の黒色土や黄褐色土上面にも喰い込むように有る。本集石に含まれる礫は大型のものを含むものである。

集石のプランは不整形であるが、その外周の東西に浅いサク状の掘り込みが遺されている。

所見 D区1号集石の集石状態は密ではないが、その遺存状態から比較的長い時間集石箇所として使用されていたものと思料される。

本集石は天明3年の耕作土中に形成されていることから、天明3年を下限とする近世の所産と判断される。

(25) D区2号集石(第44図、PL. 7)

概要 本集石は、C・D区の2号畑の東端縁辺に在る集石遺構である。

位置 D区中南部、2号畑の中程東端部に在る。
72区U・V-10グリッドに位置する。

規模・主軸方位

〔径〕3.56×(1.81)m 〔周溝幅〕0.24~0.32m
〔周溝深〕0.01~0.03m 〔主軸方位〕N34°W

重複 本集石は他遺構と重複することはない。

しかし、西側で2号畑サク142~152が途絶えるように本集石と近接して在る。

覆土 本集石は、黄褐色土の上に暗褐色土(天明3年耕作土)が乗る。周溝ではAs-A軽石の堆積が見られる箇所もあり、その上には天明泥流が覆っていた。

構造 本集石は長方形のプランを呈する。2号畑の有る西側を除いて、本集石の外周には幅狭で浅い周溝が遺さ

れている。

下位層の黄褐色土にも礫が多く見られるが、集石の礫はそれらの礫と同じ大型のものも含まれるが、概して1/2~1/3程の小型の規格のものが多く、天明3年の耕作土(暗褐色土)内に確認される。

所見 D区2号集石の集石状態は密ではないが、その遺存状態から比較的長い時間集石箇所として使用されていた可能性が考慮される。

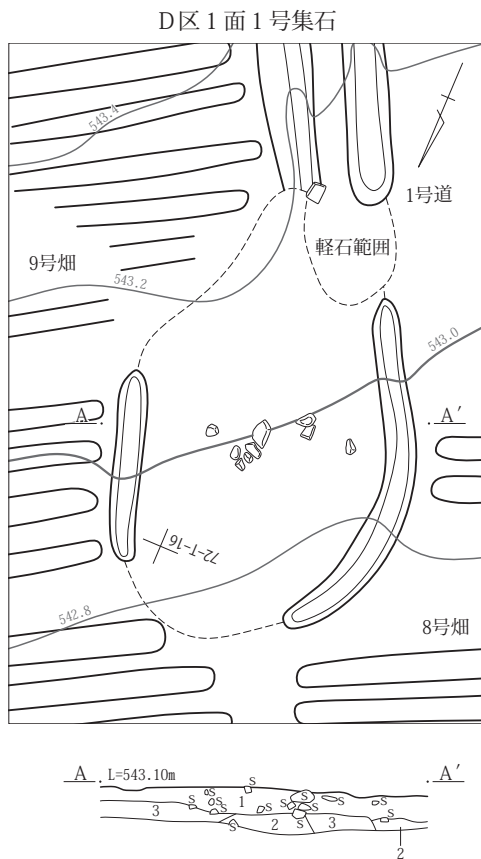
本集石は天明3年の耕作土中に形成されていることから、天明3年を下限とする近世の所産と判断される。

(26) D区3・4号集石(第45図、PL. 7)

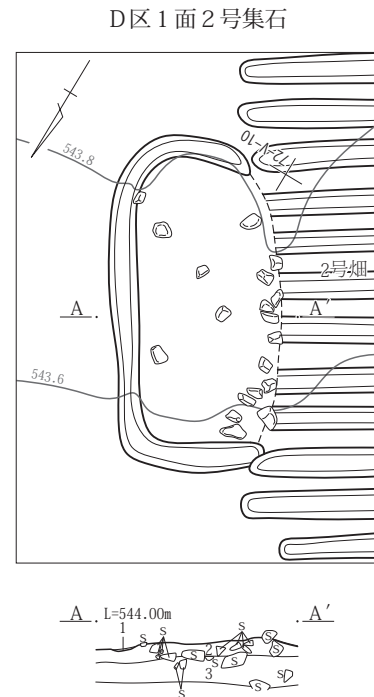
概要 D区3・4号集石は、C・D区2・3号畑境の北部に在る集石遺構である。

位置 D区西寄り、2・3号畑境に在る。

(3号集石) 72区W-8・9グリッド

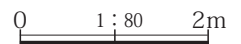


- (D区1面) 1号集石 A-A'
- 1 暗褐色土 大型礫含む集石層。
 - 2 黒色土 黒味強く、小礫多く含む。
 - 3 黄褐色土 地山土。礫を多く含む砂粒土。



(D区1面) 2号集石 A-A'

- 1 As-A軽石
- 2 暗褐色土 大型礫含む集石層。
- 3 黄褐色土 地山土。礫を多く含む砂粒土



第44図 D区1・2号集石

(4号集石) 73区A・B-9・10グリッド

規模・主軸方位

- (3号集石) 〔径〕 4.07×3.33m
- 〔周溝幅〕 0.12~0.38m
- 〔周溝深〕 0.00~0.09m
- 〔主軸方位〕 N30°W
- (4号集石) 〔径〕 5.02×1.26m
- 〔周溝幅〕 0.09~0.40m
- 〔周溝深〕 0.02~0.08m
- 〔主軸方位〕 N36°W

重複 3・4号集石はC・D区2・3号畑境に在るが、これらの畑のサクとの重複関係は見られない。

しかし3号集石は、その周囲に2号畑のサク146~160、3号畑のサク144~152を途切れさせるように近接し、2号畑のサク161、3号畑のサク143が近接する。

また、4号集石は2号畑のサク166~177、3号畑のサク156・157・159・162・164・166・068~172を途切れさせるように近接、あるいは接している。また3号畑のサク173が近接して在る。

覆土 3号集石は、黄褐色土の上に暗褐色土(天明3年

耕作土)が覆っている。また周溝ではAs-A軽石の堆積が見られ、その上には天明泥流が覆っていた。

一方4号集石は、土層の記録が残されていないため詳細は詳らかにできない。

構造 3号集石のプランは不整形を呈し、4号集石のプランは隅丸長方形を呈する。また両集石は共に外周に幅狭の浅い周溝が廻っている。

3号集石の礫は、2号集石と同様大型の礫を含むものであり、概して小型の礫が多く、その分布状態は密ではない。

一方、4号集石は表面に見られる礫の状態から、その礫の遺存状況は3号集石に似た状態であったものと推定される。

所見 D区3・4号集石の集石状態は比較的粗であり、特段の規則性も認められない。

また3号集石は天明3年の耕作土に形成された集石遺構であるが、その時期は近世中期以前の所産であることを確認できるに過ぎない。

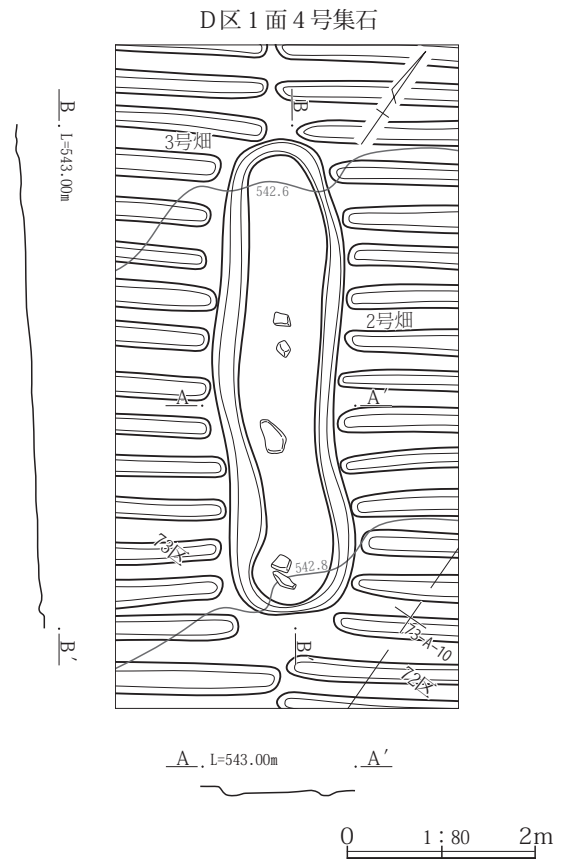
4号集石はおおよそ3号集石と同様の状態であったものと思料される。



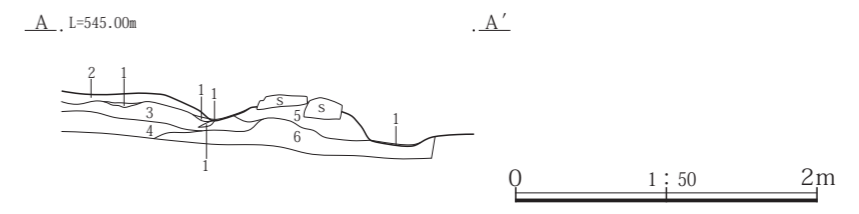
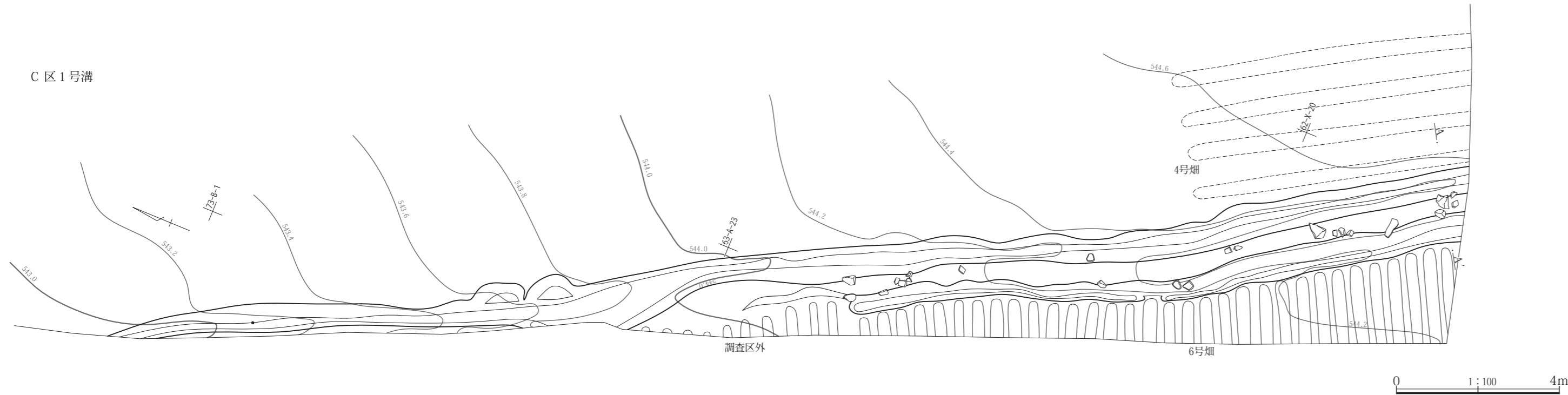
(D区1面)3号集石 A-A'

1 As-A軽石

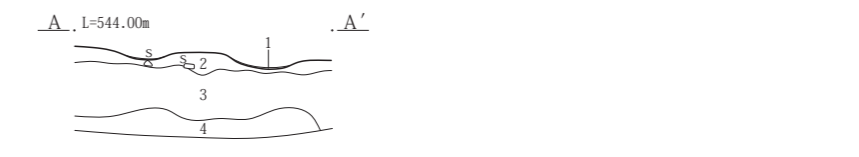
2 暗褐色土 大型礫含む集石層。



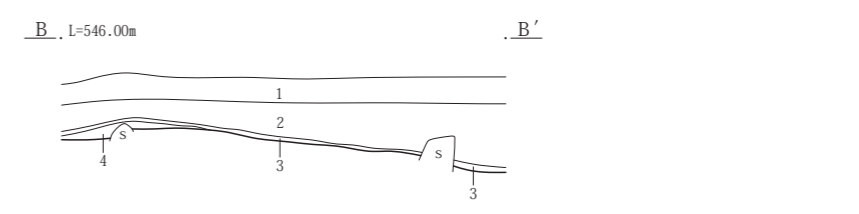
第45図 D区3・4号集石



- (C区1面) 1号溝 A-A'
- 1 As-A軽石
 - 2 黒色土 天明畑耕土。若干の小礫含む。
 - 3 黒色土 小礫含む。
 - 4 黒色土 2層に似るがやや黒味強い。
 - 5 黒色土 大型の礫含む(土手の盛り土)。
 - 6 黒褐色土 黒色土と黄色ロームブロックの混土。少量の礫含む。



- (D区1面) 1号道 A-A'
- 1 As-A軽石
 - 2 灰黒色土 礫の混入少ない。
 - 3 黒色土 黒味強く、小礫多く含む。



- (D区1面) 1号道 B-B'
- 1 表土
 - 2 As-A泥流
 - 3 As-A軽石
 - 4 黒褐色土 やや締まりあり。礫含む。

第46図 C区1号溝、D区1号道

表47 C区集石一覧

番号	地区	区	所在グリッド	形状	長軸×短軸 (m)	周溝幅 (m)	周溝深さ (m)	主軸方位	備考
1	26	72	W・X-2	ほぼ円形	(2.80)×(1.24)	—	—	N18° E	C区3畑7平坦面下位
2	26	62・72	S・T-(62) 25~〔72〕 2	不整形	(8.02)×2.95	0.16~0.47	0.05~0.10	N31° W	
3	26	62	R・S-24・25	不整形	(5.14)×(2.16)	—	—	N29° W	周溝は東側のみ 規模3.89×0.30×0.03m

○は残存値

表48 D区集石一覧

番号	地区	区	所在グリッド	形状	長軸×短軸 (m)	周溝幅 (m)	周溝深さ (m)	主軸方位	備考
1	26	72	S・T-15・16	不整形	4.85×3.19	(周溝東) 2.02×0.32×0.03m (周溝西) 3.86×0.40×0.04m	0.24~0.32 0.01~0.03	N21° W	1道と重複
2	26	72	U・V-10	長方形	3.56×(1.81)	0.24~0.32	0.01~0.03	N34° W	
3	26	72	W-8・9	不整形	4.07×3.33	0.12~0.38	0~0.09	N30° W	
4	26	73	A・B-9・10	隅丸長方形	5.02×1.26	0.09~0.40	0.02~0.08	N36° W	

○は残存値

(27) 1号溝(第46図、PL.11)

概要 本溝は、C区に在る溝遺構である。

本溝は主たる溝(1号溝)と、1号溝の西側に在って、西接する6号畑の東辺を走行する1b溝がある。

位置 C区中西隅部、6号畑の東側に在る。

(1号溝) 62~73区W~B-18~1グリッド

(1b号溝) 62・63区X~A-18~22グリッド

規模・主軸方位

(1号溝) [確認長] 33.32m [幅] 0.46~1.23m

[深さ] 0.09~0.24m

[主軸方位] (南端~7m) N34° W

(7~30m) N27° W

(30m以北) N40° W

(1b号溝) [確認長] 15.08m [北部] [長] 7.60m

[幅] 0.53~0.24m [深さ] 0.27~0.31m

[南部] [確認長] 7.06m [幅] 0.29~0.51m

[深さ] 0.17~0.26m

[主軸方位] (南部) N33° W

(中位) N56~24~9° W

(北部) N29° W

重複 本溝のうち東側の1号溝は、東側のAs-A軽石降下後泥流到達までの間に鋤き込みが行われていたことが分かる4号畑のサク1と重複関係にあり、同畑の鋤込み後に掘削された、あるいは掘削し直されたものと判断される。

なお、西側では6号畑が近接して在る。

覆土 本溝は天明泥流で覆われていた。

構造 本溝は南北が調査区外に出ていて全容は詳らかで

ないが、北側は平成16年度調査域でも確認されている。

1号溝は6号畑の西側に略北北西-南南東方向に走行しているが、その走行は緩やかな蛇行を呈し、箱堀状を呈している。北北西に傾斜し勾配は4%程である。

この1号溝の西側は6号畑との間に、0.14~0.27m西側が低くなる段差があるが、その段差部分に1b号溝が掘削されている。1号溝と1b号溝は0.24~0.63mの間隔がある。1b号溝は南北に二分されているが、両者は接続している。1b号溝の走行も蛇行が見られ、その掘削形態は箱堀状を呈する。

所見 1号溝は、勾配は緩いが、平成16年度調査区の区域を含め90m近くあり、その形態から推して、湧水時の水処理を目的とした水路としての機能が思料される。また1b号溝は縦列する2条の溝から成り、6号畑を区画する、あるいは出水時の滞水機能を付与した溝の可能性が考慮される。

1号溝は、天明3年As-A降下後から泥流到達までの間の鋤込みの耕作土後に掘削されたものであり、1b号溝の細かい掘削時期は特定できないが、天明3年の畑に伴うものと判断される。

(28) 1号道(第46図、PL.11)

概要 本道は、D区にやや東寄りに在る道路遺構である。

位置 本道は、D区の北部東寄り、8・9号畑間に在るD区1号集石の南端から略南東方向、D区南端近くに所在する。

72区O~T-9~14グリッド

規模・主軸方位

第3章 発見された遺構と遺物

〔確認長〕 28.56m 〔幅〕 1.21～1.92m

〔道路幅〕 0.29～0.77m

(東側溝) 〔長さ〕 27.66m 〔幅〕 0.39～0.64m

〔深さ〕 0.08～0.17m

(西側溝) 〔長さ〕 27.27m 〔幅〕 0.32～0.67m

〔深さ〕 0.04～0.17m

〔主軸方位〕 (南端～約6m) N54°W

(約6～14m) N39°W

(約14m以北) N27°W

重複 本道は他遺構との重複は認められなかった。

なお、本溝の東には9号畑が近接して在る。

覆土 本道の両側の溝にはAs-A軽石が堆積しており、天明泥流で覆われていたことが確認されている。

構造 本道は南側が失われているため、全容は詳らかでない。

1号道は東西両側に溝を伴う道路遺構であるが、D区1号集石の南側に発し、略東南方向へ伸びて、南端近くで反時計回りに回転して略東南東方向へ転じている。そこで遺構は失われているが、南東方向に転じ、1号畑の東に沿って走っていたものと想定されている。

本道の道路面の硬化等の記録は残されていないが、路面の幅員は中・北部では40cm程と一定ではあるものの、

南部の9号畑のサクが途絶える付近で狭まり、その南でいったん膨らんでいる。

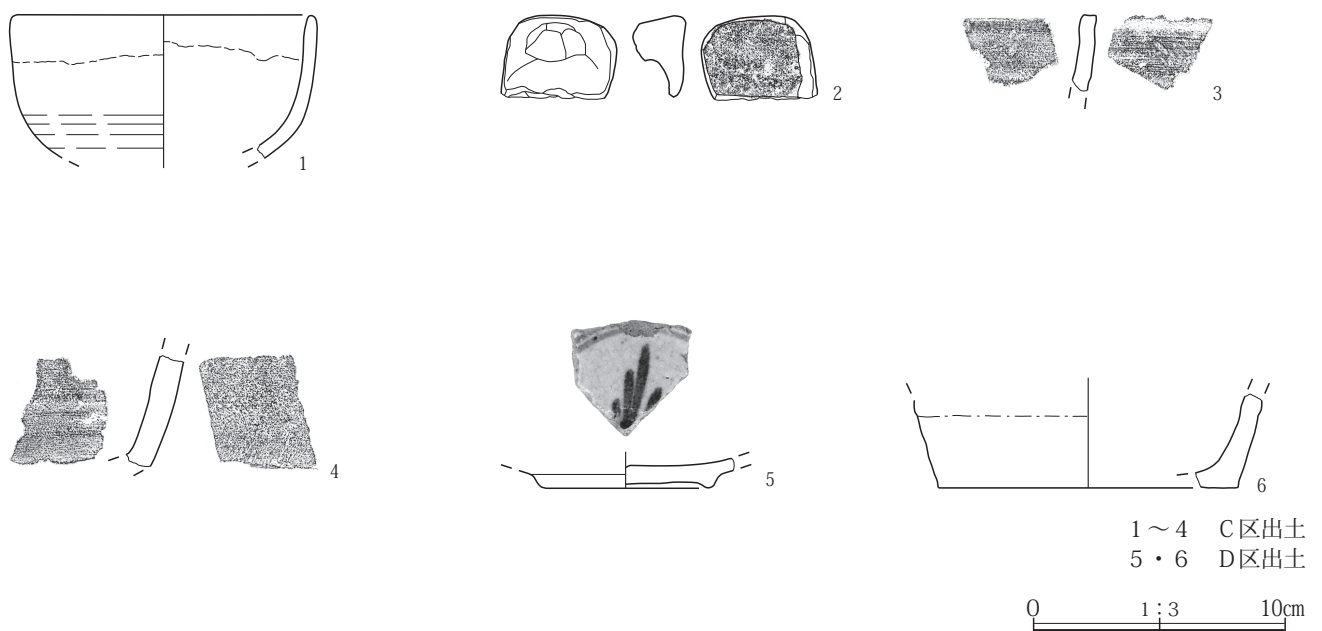
所見 1号道は、C・D区1号畑の東から入り、1号畑北東隅部の隅欠けに沿って走行を変じ、8・9号畑境のD区1号集石手前まで続く道路である。小規模の道路遺構であるが、両側に溝を掘削する丁寧な施工が施されている。

1号道は、天明3年泥流下に確認され、1・9号畑との関連から、天明3年の畑に伴うものと判断される。

(29) C・D区の出土遺物(第47図、PL.14)

概要 C区1面からは瀬戸美濃陶器尾呂碗(1)、土器内耳鍋の口縁部片(2)・腰部片(3)・内耳付近破片(4)の出土を見た。このうち3は二次加工品である。この他、国産磁器2片、国産施釉陶器7片の出土があった。またD区1面からは瀬戸・美濃陶器の鉄絵皿(5)や徳利と思われる陶器片(6)が出土している他、国産磁器1片、国産施釉陶器10片の出土があった。

所見 このうち2～4は中世の所産であり、その他は江戸時代の所産であるが、このうち5は17世紀、1は18世紀の所産である。



第47図 C・D区出土遺物

第3節 B区2面の調査と発見された遺構

1 B区2面の遺構

(1) B区2面の概要

B区は26地区63・73区に位置するが、その第2調査面(2面)は、大治3(1128)年降下の浅間粕川テフラ(As-Kk)を含む黒褐色土層としている。

B区2面の遺構は少ない。区の南東部には畑1面があり、東西方向に並ぶP～U-23グリッドに8基の土坑が集中的に分布し、北端に土坑1基が確認されている。また北半部には土坑、柱穴状のくぼみが散見されている。

(2) 1号畑(第49図、PL.13)

概要 B区2面1号畑は、B区南東部に在る畑である。土層断面では比較的良好な遺構として観察されるが、面的には良好に確認することはできなかった。

位置 本畑はB区南東部に在り、63区P～R-20～22グ

リッドに位置する。

規模・サク方位

[規模] 東西長：7.25m 南北長：9.0m

[サク] 幅：0.15～0.43m(平均：0.28)

深さ：0.03～0.10m(平均：0.066m)

[サク間] 0.32～1.07m(平均：0.71m)

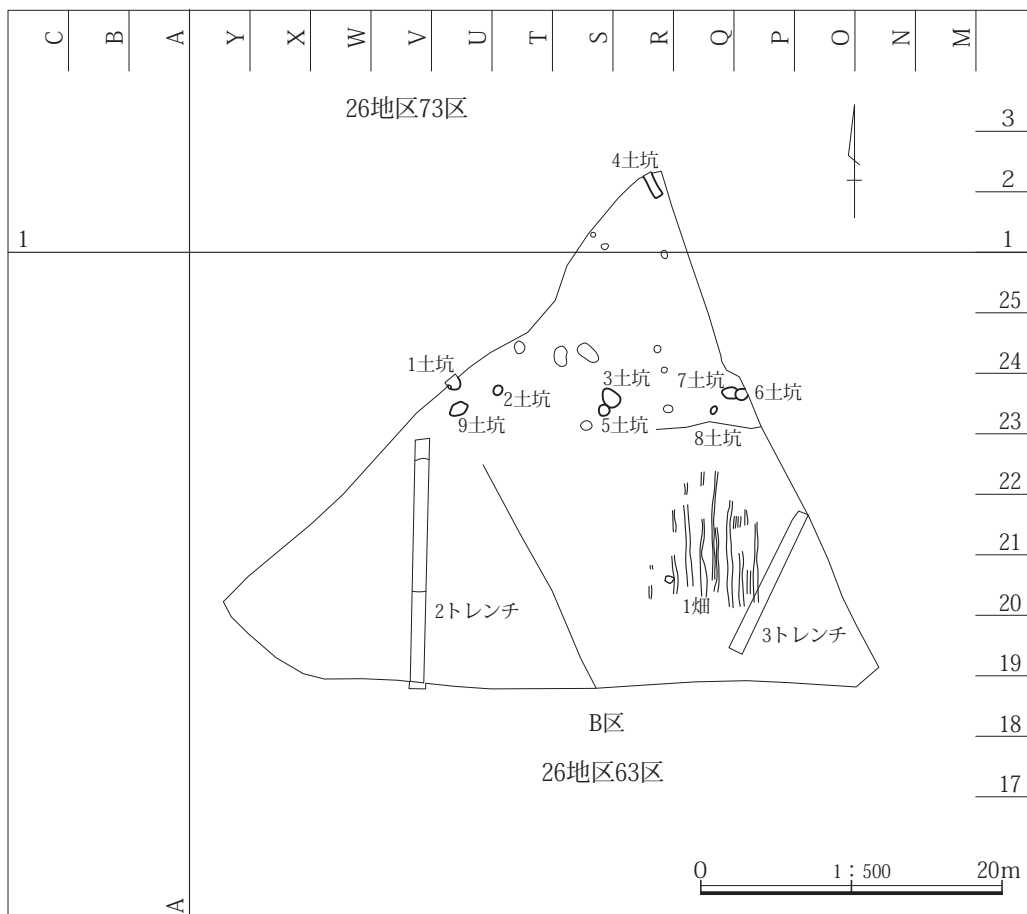
[サク方位] (南部)N 5°W (北部)N 6°E

重複 本畑は、他の遺構との重複は見られなかった。

覆土 本畑のサクは、川砂・砂利を含む浅黄褐色砂質土で埋没している。

構造 本畑の遺存状態は良好とはいえず、南北両側共に確認できていないため、全容は詳らかでない。また、西側から5・6条目のサクは平面図では別のサクとして記載されているが、断面から推して1条のサクとして認識される。

本畑のサクは略南北方向に並行に掘削されているが、



第48図 B区2面全体図

第3章 発見された遺構と遺物

南北側は共に東側に緩やかに湾曲している。耕土は黒色土である。

遺物 出土遺物は得られなかった。

所見 本畑はその一部を調査したに過ぎないため、全容は詳らかでない。

本畑は覆土から推して、洪水等で埋没した可能性が考

慮される。

本畑は確認面から推して、中世以前の所産と判断されるが、土地の傾斜方向である北西方向ではなく、真北に近い方位で掘削されることから、条里方眼に依拠した律令期の所産である可能性も残される。



第49図 B区1号畑

(3)土坑群(第50・51図、PL.12・13)

概要 B区2面では9基の土坑群が確認、調査された。

位置 土坑群のうち4号土坑のみは調査区北端に掘削されていたが、他の8基は調査区中北部の幅4m程の東西に延びる帯状の区画内に掘削されている。

(1号土坑) 63区U-23グリッド

(2号土坑) 63区T-23グリッド

(3号土坑) 63区R・S-23グリッド

(4号土坑) 73区R-1・2グリッド

(5号土坑) 63区S-23グリッド

- (6号土坑) 63区P-23グリッド
- (7号土坑) 63区P・Q-23グリッド
- (8号土坑) 63区Q-23グリッド
- (9号土坑) 63区U-23グリッド

規模・サク方位

- (1号土坑) [径] (0.83)×0.90m [深さ] 0.16m
[主軸方位] N40W°
- (2号土坑) [径] 0.67×0.56m [深さ] 0.17m
[主軸方位] N36E°
- (3号土坑) [径] 1.36×1.04m [深さ] 0.23m
[主軸方位] N34W°
- (4号土坑) [径] 1.69×0.59m [深さ] 0.50m
[主軸方位] N33W°
- (5号土坑) [径] 0.72×0.72m [深さ] 0.17m
[主軸方位] N13W°
- (6号土坑) [径] (0.76)×0.77m [深さ] 0.25m
[主軸方位] N55E°
- (7号土坑) [径] (0.90)×0.74m [深さ] 0.34m
[主軸方位] N82W°
- (8号土坑) [径] 0.57×0.36m [深さ] 0.18m
[主軸方位] N28E°
- (9号土坑) [径] 1.30×0.78m [深さ] 0.23m
[主軸方位] N63E°

重複 本土坑群の中で6・7号土坑は重複するが、6号土坑の方が新しい。

なお、3・5号土坑は近接して在る。

覆土 1～3・9号土坑は黄土色土の上に黒褐色土、4・5号土坑は黒褐色土、6～8号土坑は黒色土が入っている。また1・8号土坑は炭化物が混入する。

構造 本土坑群のうち1・6号土坑はそれぞれ北西、北東側が調査区外に在るため、全容は詳らかにできなかった。

本土坑群のうち、1号土坑は隅丸長方形、4号土坑は短冊形、5号土坑が隅丸方形のプランを呈するが、他の土坑は楕円形あるいは楕円形を呈すると想定されるプランを呈する。

また掘削底面は1・4・7号土坑は平底、2・3・8・9号土坑は尖底、5・6号土坑は丸底を呈するが、特に4号土坑掘削形態が直方体を呈している。

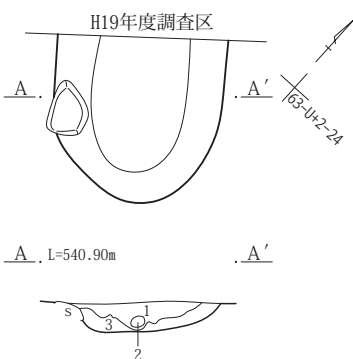
遺物 これらの土坑からの出土遺物は得られなかった。

所見 本土坑群のうち4号土坑は、中・近世に多い長方形・短冊形の土坑であり、こうした土坑は芋穴等の貯蔵穴の可能性が考えられているため、4号土坑も同様の正確を有するものと思料される。しかしその他の土坑の掘削意図は明確にできなかった。なお、尖底を呈する9号土坑は氷室の可能性もある。

本土坑群の時期も特定できなかったが、調査面から推して中世以降の近世中期までの所産と思料される。なお、4号土坑は形態的にも中近世の所産と判断される。

B区2面土坑

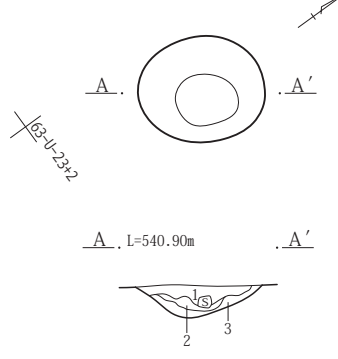
1号土坑



(B区2面) 1号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土 炭化物混在。
- 2 黄土色土ブロック
- 3 赤みがかかった黄土色土 炭化物混在。

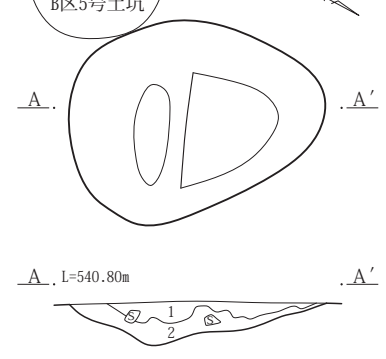
2号土坑



(B区2面) 2号土坑 A-A'

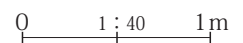
- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土と黄土色土が混在
- 3 黄土色土 小礫混入。

3号土坑



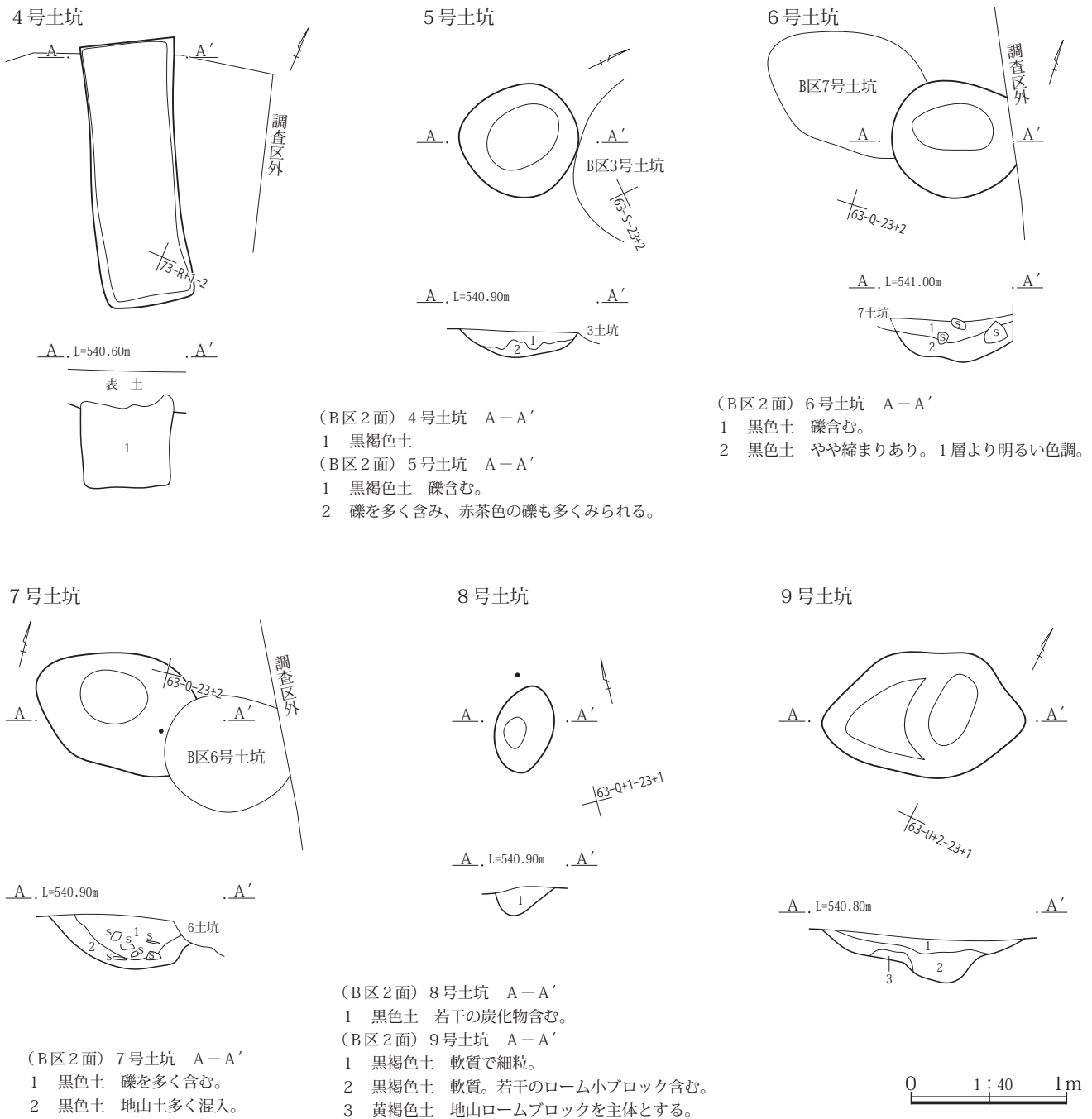
(B区2面) 3号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土 小礫混入。
- 2 黄土色土 礫を多く含む。



第50図 B区1～3号土坑

第3章 発見された遺構と遺物



第51図 B区4～9号土坑

表49 B区土坑一覧

番号	地区	区	所在グリッド	形状	長さ×幅×深さ(m)	主軸方位	備考
1	26	63	U-23	隅丸長方形	(0.83)×0.90×0.16	N40°W	
2	26	63	T-23	楕円形	0.67×0.56×0.17	N36°E	
3	26	63	R・S-23	楕円形	1.36×1.04×0.23	N34°W	5号土坑と近接
4	26	73	R-1・2	短冊形	1.69×0.59×0.50	N33°W	
5	26	63	S-23	隅丸方形	0.72×0.72×0.17	N13°W	3号土坑と近接
6	26	63	P-23	楕円形	(0.76)×0.77×0.25	N55°E	7号土坑と重複
7	26	63	P・Q-23	楕円形	(0.90)×0.74×0.34	N82°W	6号土坑と重複
8	26	63	Q-23	楕円形	0.57×0.36×0.18	N28°E	
9	26	63	U-23	楕円形(やや変形)	1.30×0.78×0.23	N63°E	

○は残存値

第4章 小結

第1節 調査概要

(1) 調査区域と調査区

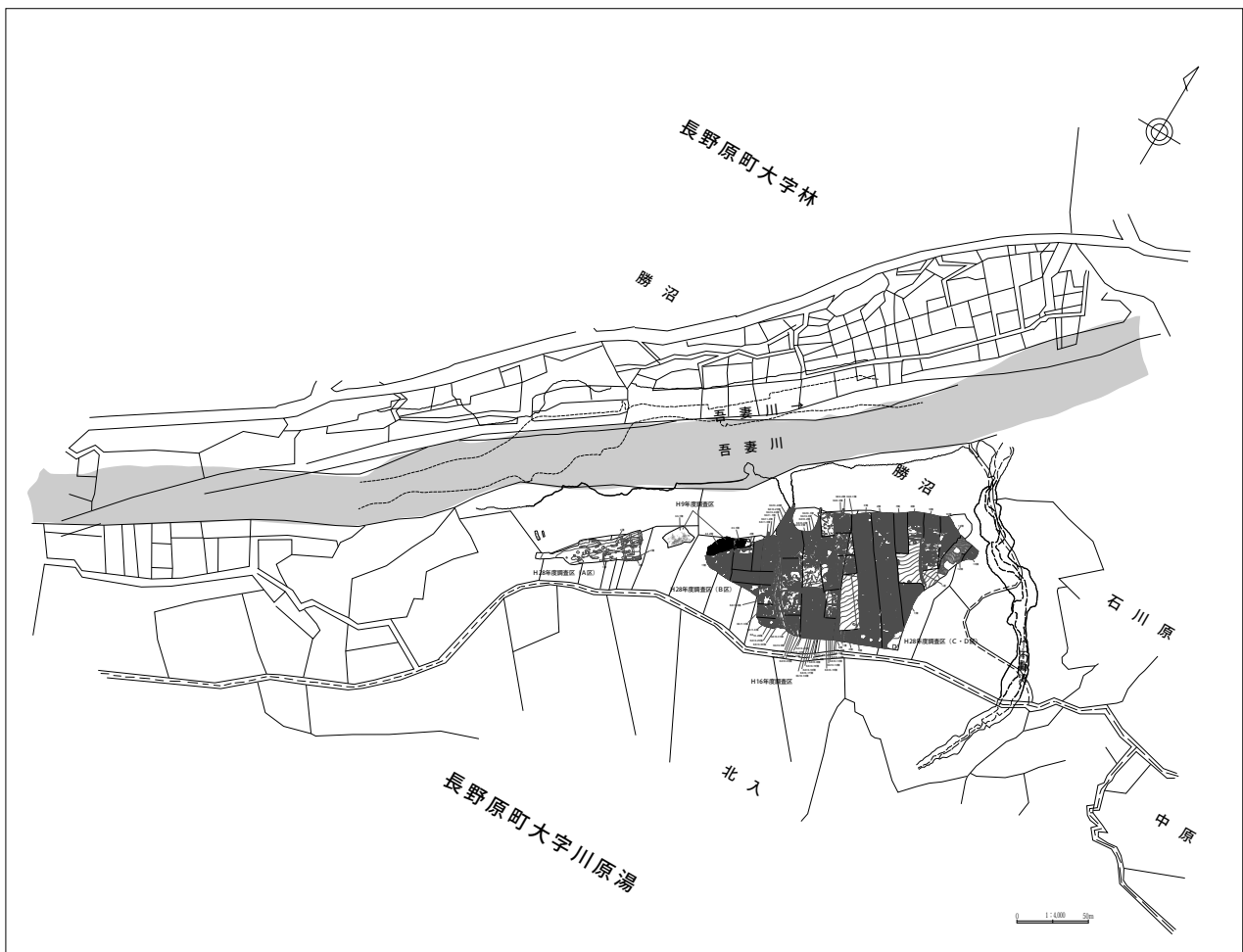
本遺跡の調査区は、大字川原湯の西端部、吾妻川沿いに在る字勝沼の中部東寄りから以東の区域に所在するものである。

本書に報告する平成28年度調査の調査区は、上述の字勝沼の中東部から東端部にかけて分布し、それぞれ450～500mの間隔を以て西南西―東北東方向に配置するA区、B区、C・D区の3地点から成っている。このうちA区の北側は平成9年度の西側の調査区、B区の北側には平成9年度の東側の調査区が接しており、B区とC・D区の間には平成16年度の調査区を挟み込まれるように設定されている。

また北東隅のD区の東端部は、調査区の東側を略北西

方向に流下する不動沢川に浸食された谷地形が形成されており、D区とその南のC区にかけての南東側は不動沢川の浸食によって扇形に段丘面が削り取られて失われている。また他の調査区は吾妻川向かう緩傾斜地となっていたが、傾斜方向はA区では北北西を向き、B～D区では北西方向を向いており、後述するようにこの傾斜方向の違いにより、遺構の遺存状態の違いが生じたものと推定している。

なお、勝沼の地名は本遺跡の所在する大字川原湯だけでなく、西接する大字横壁の東端と、その対岸の大字林の東寄りのそれぞれ吾妻川沿いにも命名されている。本遺跡周辺地に沼沢地はなく、かつぬま(勝沼)は沼地に関係した地名とは考えられない。従って「^{かた}方の間」からきたものと思料され、あるいは断崖と吾妻川に挟まれた狭量地を指している可能性が考慮される。



第52図 小字と調査区

(2) 2面の調査

詳細は繰り返さないが、平成28年度の調査区の発掘調査は2面の調査であり、縄文時代から近世の複合遺跡として調査されたが、本書では中近世の出土文化財を報告した。この中にはA～D区の1面と中世面であるB区2面の遺構、遺物を報告し、A・C・D区2面の出土文化財の報告は、後に上梓される予定の調査報告書に委ねることとした。このうちB区2面の中世所産の遺構の概略を下に記す。

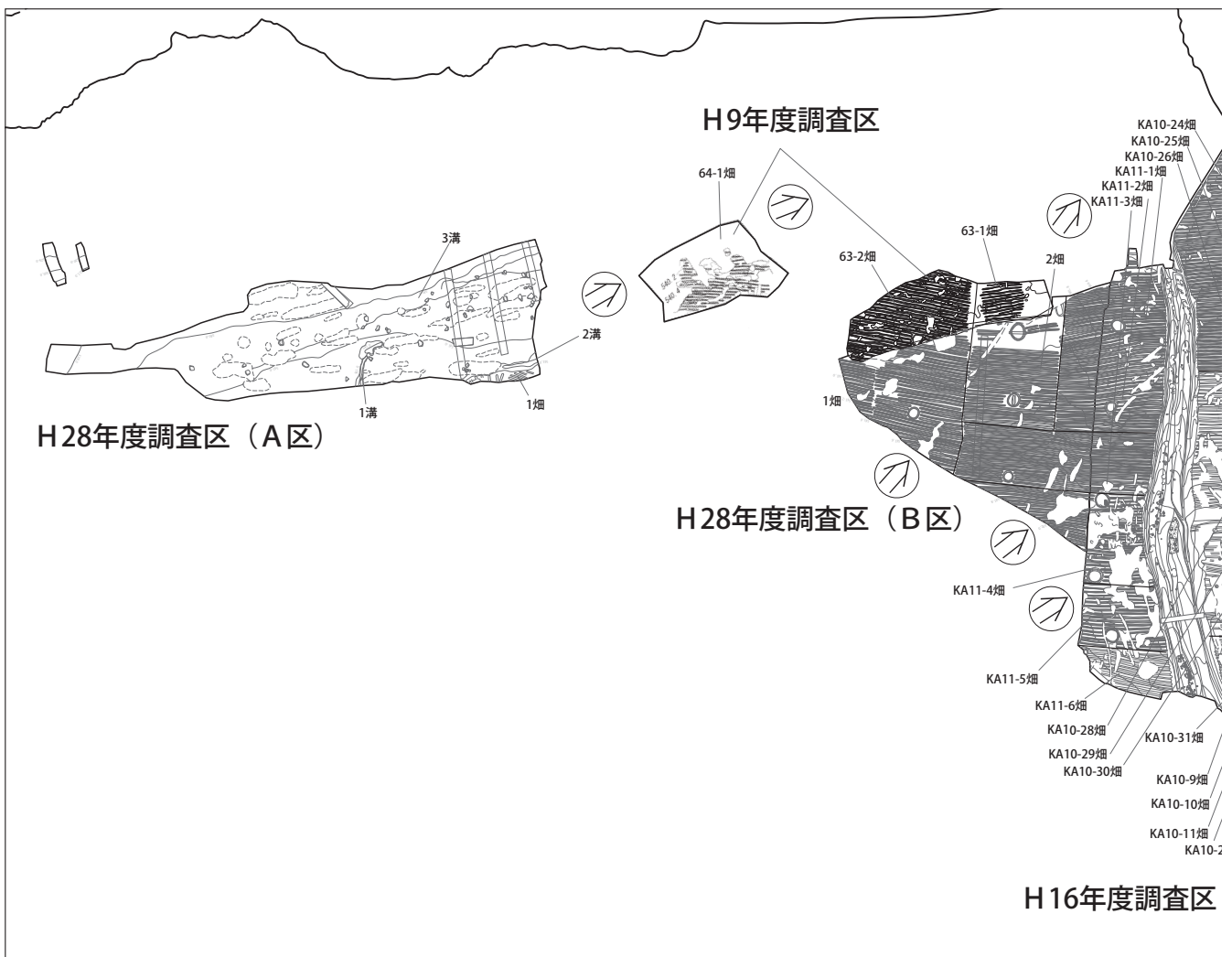
B区2面の中世の遺構は、大治3年(1128)に浅間山から噴出した浅間粕川テフラ(As-Kk)を包含する黒褐色土層を確認面とする遺構群であり、土坑9基、畑1面を確認調査した。このうち畑は、サクの方向が土地の傾斜(北西方向)とは異なる南北方向を向くものであり、あるいは条理方眼に依拠して掘削されていた可能性が考慮されるものであった。

なお、東部のC区から中世の内耳鍋片の出土があった。

(3) 1面の調査

天明3(1783)年の浅間山の噴火(いわゆる「浅間焼け」)に伴い発生した泥流で埋没した当時の地表面である1面は、A・B・C・D区の全ての調査区で確認、調査している。このうちA区は遺存状態が不良であり、確認された遺構は調査区南部に限られて、中・北部には遺構が確認されなかった。この遺構の未確認域は泥流による表土層の削剥によるものと認識され、吾妻川に並行する方向で遺された大型の削痕は、或は泥流中の岩が通過した痕跡の可能性のあるものと思慮される。しかしB～D区ではこうした削痕は見られたものの、表土の削剥痕は確認されなかった。

さて遺構、遺物について言うと、A区では畑2面と溝3条が確認され、少量の鉛製鉄砲玉、古寛永等の金属製品と陶磁器類が出土している。このうち1号畑西側のB群はサクの方向が扇状に開いて不揃いであり、あるいは地形による制約が大きかったことが窺われた。



B区では畑6面と4箇所平坦面が確認したが、畑の区画は吾妻川の走行に並行あるいは直交する方向に区分けされており、サクの掘削方向は吾妻川の走行の方向にほぼ並行している。また平坦面3箇所が吾妻川と直交する方向に直線的に配置していることが確認された。なおB区からは若干の陶磁器の出土が見られた。

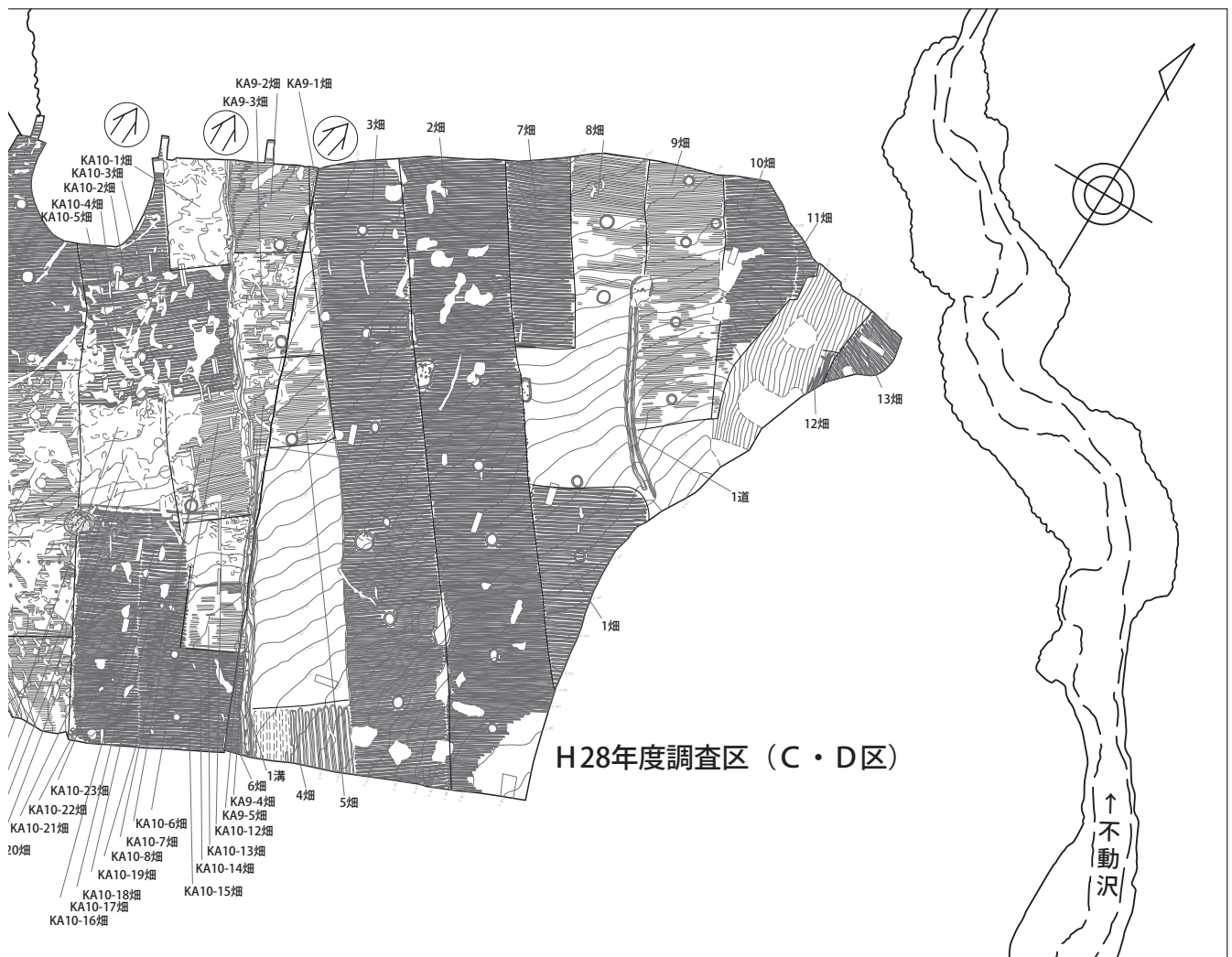
C・D区では13面の畑が確認された。この他、21箇所の平坦面、7箇所の集石(ヤックラ)、溝と道路各1条が確認されている。畑は、北東端部(D区東端)の谷地形に設けられたものを除いて、吾妻川方向に主軸を有する短冊形の区画として設けられており、サクも1面の畑が吾妻川に向かう方向に掘削されている他は、吾妻川にほぼ並走するようにして掘削されている。また5面の畑に遺る19か所の平坦面も、B区と同様、吾妻川方向に縦列に配置されており、溝と道も大凡吾妻川方向に走行している。出土遺物は確認されなかった。

第2節 過去の調査遺構との関係

既に述べてきたように、本遺跡は本書執筆時点では未調査区域が残り、当該調査区に対しては今後調査の予定もあるため、遺跡全体の評価を行うことはできないが、上述のように平成28年度の調査区は平成9・16年度の調査区と接しているため、これら3期の調査成果を総合して、現時点で把握される天明3年の泥流下面(1面)の概要を記し、本書を閉じたいと思う。

(1) 泥流の流れと遺構の遺存状態

さて平成9・16・28年度調査域の1面の遺構遺存状態を見ると、平成28年度A区(以下「A区」とする)の過半と平成9年度の西側調査区(以下「9西区」とする)の北半の表土は、泥流により削剥されているようで、遺構の遺存が悪い。また平成28年度B区(以下「B区」とする)の北部と南部の一部も遺構が欠失する部分があり、平成16年度調査区(以下「16区」とする)と平成28年度調査



のC・D区(以下「CD区」とする)も遺構が部分的に欠失する、或は畑区画全体で確認されない箇所が散見されるが、このうち、16区の南西・中央・北東部は遺構が一部残り、残余の部分では削られたような攪乱が見られることから泥流により表土が削剝されたものと思料される。一方畑のサク等が確認されない、16区東南部とCD区南西と中東部の遺構空白域は休耕地であったものと思料される。

上述のようにA区・9西区と平成9年度東側調査区域とB区までは吾妻川方向(北北西)に傾斜する緩傾斜地であり、16区とCD区は吾妻川に対して55°の角度(北西方向)をもって傾斜する緩傾斜地であるため、吾妻川の流路方向(東北東方向)に流下した泥流が、傾斜方向の異なる緩傾斜面に当たることで掃流力の減少をもたらし、この排水量の減退により発生した流量の増加により、表土面の削剝が停止、減退させられ、遺構を残す結果となったものと思料される。このとき泥流の掃流力の強い流れの方向を想定したものが、第53図中の「⇒」で示したものである。

(2)畑の区画

さて平成9年度調査では2面、平成16年度調査では41面、平成28年度では21面の畑を調査した。しかしこれらはそれぞれ遺構番号を付しているものの、年度を跨いだ調査で重複して遺構番号が付されたものもあり、平成16年度調査では細かい観察からより多くの畑面を検出しているが、この平成16年度調査基準を平成9・28年度調査の所見にフィードバックすることは、現時点では難しい。そこで本書ではサクの端部と幅員を基準として、平成9・16・28年度の畑の区画を想定することとした。

上記基準での検討の結果、畑の区画は吾妻川に対して直交方向に長い、幅12~18m程の短冊形の区画を基準として分けられていることが認められた。既調査区全体では29区画程に分割することができたが、もちろん平成16年度調査の精度に照らして更に細かく分割される可能性が想定される。また、サクから想定される畑の単位は短冊形の区画全体を1枚の畑として用いるもの、これを区切って短くして使用するもの、東西の短冊形の区画を合わせて幅の広い畑として用いるものなど、その構成は多様であり、分割の方法は一定ではない。

また、16区からCD区にかけては40m間隔で溝と溝、55m間隔で溝と道が吾妻川の流路と概ね直交する方向に、しかし弱い蛇行を成して走行している。この溝と道により土地は大きく区切られているが、畑の範囲と併せて、これらの畑は土地の傾斜ではなく吾妻川を基準として、その走行に対して縦横となる基本軸を以て土地区画がなされていたことが分かる。そしてその区画は上述のように、特定の規格に規制されたものではないことが窺われるのである。

なお、第52図は昭和15(1940)年作図の地籍図と調査区を合わせたものである。地籍図を現状の地形図に当て嵌めるには困難が伴い、正確性に欠けるが、現時点では天明3年の土地区画と発掘調査直前の土地区画に共通点はなさそうに見受けられる。

(3)まとめ

平成9・16・28年度の調査所見を勘案すると、本遺跡は畑地であり、集落は確認されていない。従って本遺跡地周辺は、耕作地として認識され、土地利用がなされていたことが窺われる。また泥流の到達により、表土ごと削剝された痕跡も確認されたが、天明3年の耕作面が当時の状態で保存されていたのである。

天明泥流は吾妻川と走行を一(いつ)にして本遺跡へ到達しているが、A区や9西区の遺構の遺存状態から吾妻川に近い付近では、表土が削剝され、遺構が滅失した状態が窺われた。また緩傾斜面に在る本遺跡の半ばを境にした、地形の傾斜方向の変化により、泥流はその走行を吾妻川に並行するものから、吾妻川方向へ若干流下方向を転じさせた可能性が窺われた。

一方、土地利用に関しては、細かい畑の単位の検証は、当遺跡の発掘調査が完了した段階で見直されることに期待して、吾妻川に対して直交方向を向く短冊形を基本として区画されていたことが確認されたのである。しかしその区画には幾つかのバリエーションがあり、畑の幅の不統一な状態と併せて特定の基準が設定されたものではないことも確認された。

以上、現状での簡単な所見を記してきたが、既に述べたように、本遺跡の発掘調査は未完であり、全体的評価は後に刊行される、本遺跡の最終報告書に委ねたいと思うのである。

第50表 出土遺物一覧

(A区)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第17図 PL.14	1	瀬戸・美濃 陶器 徳利か	64K-16 2面 底部1/4	口底 -	高 (6.0)	厚 -	灰白//	内面に錆釉。外面は錆色の鉄釉で底部外面の釉を拭う。	江戸時代。
第17図 PL.14	2	銭貨 古寛永	64L-15 2面 完形	縦横 2.518 2.481	厚 0.114		//	面、背ともに彫りが深く、字、輪、郭ともに明瞭。一部、輪にひびが入り、「通」の字の上に小さな孔が見られる。	江戸時代。
第17図 PL.14	3	鉛 鉄砲玉	64L-16 泥流下 ほぼ完形	縦横 1.236 1.226	厚 1.200		//	一部が欠損する。欠損部を想定するとほぼ正円に近いと思われる。	
	4	銅製品 キセルか	64P-12 1面 破片				//	ほぼ破片で詳細不明。一部キセルと思われる曲線が見られる破片がある。	

(B区)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第21図 PL.14	1	肥前磁器 染付碗	63R-25 1面 口縁部片	口底 -	高 -	厚 -	灰白//	外面コンニャク印判による施文。	18世紀。
第21図 PL.14	2	肥前陶器 刷毛目碗	63W-19 1面 底部完	口底 4.2	高 -	厚 -	にぶい黄橙//	内外面に白土刷毛塗り。高台脇周縁を外面側から打ち欠いて円盤状に整形。	二次加工品。 江戸時代。
第21図 PL.14	3	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	63T-22 1面 口縁部片	口底 -	高 -	厚 -	灰白//	内外面に胎釉。口縁部に藁灰釉をかける。	18世紀。2 片接合。
PL.14	4	うるし	63W-20 1面 少量破片	口底 -	高 -	厚 -	//		
第21図 PL.14	5	土師器 コの子甕	63T-22 口縁部1/12	口底 15.8	高 -	厚 -	細砂/良好/橙	器表はやや摩滅し、肩部外面の横位ヘラケズリ不明瞭。口縁端部外面に沈線。	
第21図 PL.14	6	土師器 コの子甕	63T-22 口縁部1/6	口底 18.6	高 -	厚 -	細砂/良好/橙	口縁端部外面は沈線。「コ」の字状口縁の甕であるが、頸部が短く肩部が張る。頸部外面に接合痕。肩部はごく一部の残存でヘラケズリは見えない。	

(C区)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第47図 PL.14	1	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	72X-3 1面 口縁部から体部 1/4	口底 (12.0)	高 -	厚 -	灰白//	内外面に胎釉。口縁部に藁灰釉をかける。	18世紀前半 か。
第47図 PL.14	2	土器 内耳鍋	72X-1 1面 口縁部片	口底 -	高 -	厚 -	にぶい褐//	内外面ヨコナデ。	中世。
第47図 PL.14	3	土器 内耳鍋	62U-20 1面 口縁部片	口底 -	高 -	厚 -	にぶい黄橙黄橙//	耳部の口縁部片で上部と左右側縁を擦って整形する。下部は細かく打ち欠いて整形。	二次加工品。 中世。
第47図 PL.14	4	土器 内耳鍋か	62W-19 4号畑ト レンチ 体部片	口底 -	高 -	厚 -	にぶい褐//	体部下位片。内外面ナデ。	中世。

(D区)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第47図 PL.14	5	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	72V-13 1面 底部1/5	口底 (6.8)	高 -	厚 -	白//	底部内面に鉄絵。内外面に長石釉。高台内に目痕1箇所。	17世紀。
第47図 PL.14	6	瀬戸・美濃 陶器 徳利か	72W-7 1面 底部1/6	口底 (12.0)	高 -	厚 -	灰白//	内面と体部外面下位以下は無釉。体部外面は鉄釉か。	江戸時代。

